高岡市埋蔵文化財調査概報第75冊

市内遺跡調査概報24

平成24年度　越中国府関連遺跡の本発掘調査報告、
平成25年度　百橋宮田遺跡の調査他

2015年３月

高岡市教育委員会

高岡市埋蔵文化財調査概報第75冊

市内遺跡調査概報24

平成24年度　越中国府関連遺跡の本発掘調査報告、
平成25年度　百橋宮田遺跡の調査他

2015年３月

高岡市教育委員会

1．越中国府関連遺跡牧野地区　遠景（北）

2．越中国府関連遺跡牧野地区　C区全景（西）

序

高岡市域においては、現在341箇所もの遺跡が周知されています。これら多くの遺跡で醸成された文化は、先祖から代々受け継がれ、現代の高岡市の風土や郷土文化をかたちづくっております。本市としましては、これら貴重な文化財を今後も保護して参る所存であります。

このたび報告いたしますのは、個人住宅等の建設に伴い平成24年度に実施しました本調査１遺跡１地区の本報告と、平成25年度に実施した試掘調査28遺跡48地区の概要です。

平成24年度に本発掘調査を実施した越中国府関連遺跡の調査報告では、古代の建物跡から出土した遺物や文字資料などを報告しており、越中国府の中で文書事務を行っていたことがわかる貴重な資料となります。平成25年度の調査では、小矢部川左岸に位置する百橋宮田（どのはしみやた）遺跡にて中世の木組みの井戸を確認しており、また、越中国府関連遺跡では古代の区画溝の性格を持つ大規模な溝を検出するなど、貴重な資料を得ることになりました。

本書が郷土における歴史探求や学術研究に活用されれば幸いです。

末尾になりましたが、今回の発掘調査の実施にあたり、ご協力いただきました関係各位、地元の皆様に、厚くお礼申し上げます。

平成27年３月

高岡市教育委員会
教育長　氷見　哲正

例　言

1．本書は、富山県高岡市において高岡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。

2．当調査は、個人住宅の建設等の開発行為に伴い実施したものである。

3．現地調査は平成25年度に国庫補助金の交付を受けて実施し、これにかかる報告書作成は平成26年度国庫補助金の交付を受け、高岡市教育委員会が実施した。平成24年度越中国府関連遺跡（牧野地区）については、平成25年度に概要を報告済みであるが、本書と齟齬がある場合は、本書をもって訂正したものと了解されたい。

4．本書で報告する遺跡ならびに調査地区は28遺跡46箇所である。

5．調査形態は、すべて試掘調査である。

6．調査関係者は以下のとおりである。

課　　長	高田	克宏
課長補佐	富山	尚樹（24～25年度）
主　　幹	杉森	芳昭（26年度～）
主　　査	根津	明義
主　　事	田上	和彦
事 務 員	杉山	大晋（26年度～）
嘱託職員	中野	由美子（24～25年度）
	江口	雅子（24～25年度）
	杉山	大晋（24～25年度）
非常勤職員	上坂	哲也（25年度～）

7．屋外調査は25年度に田上・江口・杉山・上坂が担当し、報告書の編集と写真撮影は整理員の協力を得て、杉山が担当した。

8．発掘調査及び遺物整理の従事者は次の通りである。（五十音順）

【現地調査】

石田敏行　　小板達朗　　高嶋輝雄　　畠山行男　　馬道弘一

【報告書編集作業】

宮野美重子　　山口淳子

9．発掘調査にかかる遺物等の資料は、すべて高岡市教育委員会が一括保管している。

10．現地調査や報告書の作成等は、以下の各氏・機関から指導・協力を得た。

大橋泰夫　久々忠義　久保智康　次山淳　鈴木景二　西井龍儀　古岡英明　高岡市立伏木小学校

高岡市立万葉歴史館（五十音順　敬称略）

凡　例

1．本書に掲載した遺構図の方位は座標北であり、水平基準は海抜高である。

2．本書においては、各遺構に対し、次のような記号を付してその種別を表した。

ＳＡ：柵址　ＳＢ：掘立柱建物　ＳＤ：溝状遺構　ＳＥ：井戸址　ＳＫ：土坑

ＳＸ：凹地及び性格不明遺構

3．本書においては、遺物実測図の縮尺のうち、特に記載のないものは土器・陶磁器類等は１/３、古代瓦は１/４で統一した。その他は遺物番号等に記載している。

市内遺跡調査概報 24

目　　次

序

例　序

例　言

凡　例

目　次

第１章　遺跡の位置と歴史的環境……1

第２章　越中国府関連遺跡（牧野地区）発掘調査報告……4

第１節　遺跡概観

第２節　越中国府関連遺跡の歴史的環境

第３節　調査の概要

第４節　検出遺構と出土遺物

第５節　総括

第３章　その他の遺跡調査……29

１．越中国府関連遺跡（柳、宮野地区）
２．西佐野千代遺跡（林地区）
３．百橋宮田遺跡（東地区）
４．越中国府関連遺跡（松原、寺林地区）
５．石塚遺跡（戸出高岡線地区）
６．上二上遺跡（二上・守山統合保育園地区）
７．守護町遺跡（シーケー金属地区）
８．中木津遺跡（山本地区）
９．出来田南遺跡（サカエ金欄１・２地区）
10．井口本江遺跡（松井地区）
11．瑞龍寺遺跡（車地区）
12．戸出後生寺遺跡（戸出福祉会地区）
13．下佐野遺跡（酢谷地区）
14．笹八口遺跡（中島地区）
15．下老子笹川遺跡（中野地区）
16．越中国府関連遺跡（山本地区）
17．中曽根遺跡（道野地区）
18．井口本江遺跡（市道東側地区）
19．中曽根西遺跡（清水・刈地区）
20．下老子笹川遺跡（篠島地区）
21．戸出光明寺東遺跡（脇田地区）
22．越中国府関連遺跡（大菅地区）
23．越中国府関連遺跡（折田地区）
24．中曽根西遺跡（倉谷地区）
25．守山城跡（消防無線基地局地区）
26．石名瀬Ａ遺跡（市道地区）
27．中保Ｂ遺跡（坂森地区）
28．下老子笹川遺跡（高田地区）
29．越中国府関連遺跡（山崎２地区）
30．越中国府関連遺跡（奥村地区）
31．越中国府関連遺跡（秦地区）
32．山園町遺跡（柿谷地区）
33．越中国府関連遺跡（ﾎｰﾑｻﾎﾟｰﾄｵﾀﾞｹ地区）
34．井口本江遺跡（再開発地区４）
35．北木津遺跡（金山不動産地区）
36．中木津遺跡（市道南側地区）
37．東木津遺跡（市道地区）
38．上野Ｂ遺跡（向井地区）
39．江尻Ｃ遺跡（高野地区）
40．蓮花寺遺跡（松下地区）
41．鷲北新遺跡（あかね会２地区）
42．石堤長光寺遺跡（織田地区）

挿　図　目　次

第１図　調査位置図
第２図　越中国府関連遺跡（牧野地区）位置図
第３図　越中国府関連遺跡発掘調査地区一覧
第４図　越中国府関連遺跡の地形と字名
第５図　越中国府関連遺跡（牧野地区）調査区位置図
第６図　越中国府関連遺跡（牧野地区）全体図
第７図　越中国府関連遺跡（牧野地区）遺構実測図
第８図　越中国府関連遺跡（牧野地区）掘立柱建物 SB01 実測図
第９図　越中国府関連遺跡（牧野地区）掘立柱建物 SB02・03 実測図
第 10 図　越中国府関連遺跡（牧野地区）土層断面図
第 11 図　越中国府関連遺跡（牧野地区）遺物実測図（1）
第 12 図　越中国府関連遺跡（牧野地区）遺物実測図（2）
第 13 図　越中国府関連遺跡（牧野地区）遺物実測図（3）
第 14 図　越中国府関連遺跡（牧野地区）遺物実測図（4）
第 15 図　越中国府関連遺跡（牧野地区）遺物実測図（5）
第 16 図　越中国府関連遺跡（伏木測侯所地区）遺構配置図
第 17 図　越中国府関連遺跡（牧野地区）遺構配置図
第 18 図　越中国府関連遺跡（勝興寺南接地区）遺構配置図
第 19 図　越中国府関連遺跡　勝興寺周辺の調査地点と成果
第 20 図　越中国府関連遺跡　伏木台地付近の古墳～古代須恵器
第 21 図　越中国府関連遺跡　昭和 41 年通称御亭角発掘調査遺構検出状況
第 22 図　越中国府関連遺跡（柳地区・宮野地区）調査区位置図
第 23 図　西佐野千代遺跡（林地区）調査区位置図
第 24 図　百橋宮田遺跡（東地区）調査区位置図
第 25 図　越中国府関連遺跡（松原地区・寺林地区）調査区位置図
第 26 図　石塚遺跡（戸出高岡線地区）調査区位置図
第 27 図　上二上遺跡（二上・守山統合保育園地区）調査区位置図
第 28 図　守護町遺跡（シーケー金属地区）調査区位置図
第 29 図　中木津遺跡（山本地区）調査区遺構図
第 30 図　出来田南遺跡（サカエ金襴 1 地区・2 地区）調査区位置図
第 31 図　井口本江遺跡（松井地区）調査区位置図
第 32 図　瑞龍寺遺跡（車地区）調査区位置図
第 33 図　戸出後光寺遺跡（戸出福祉会地区）調査区位置図
第 34 図　下佐野遺跡（酢谷地区）調査区位置図
第 35 図　笹八口遺跡（中島地区）調査区位置図
第 36 図　下老子笹川遺跡（中野地区）調査区位置図
第 37 図　越中国府関連遺跡（山本地区）調査区位置図
第 38 図　中曽根遺跡（道野地区）調査区位置図
第 39 図　井口本江遺跡（市道東側地区）調査区位置図

第 40 図　中曽根西遺跡（清水地区・刈地区）調査区位置図
第 41 図　下老子笹川遺跡（篠島地区）調査区位置図
第 42 図　戸出光明寺東遺跡（脇田地区）調査区 1
第 43 図　越中国府関連遺跡（大菅地区）調査区位置図
第 44 図　越中国府関連遺跡（折田地区）調査区遺構図
第 45 図　中曽根西遺跡（倉谷地区）調査区位置図
第 46 図　守山城跡（消防無線基地局地区）調査区位置図
第 47 図　石名瀬Ａ遺跡出土遺物実測図
第 48 図　石名瀬Ａ遺跡（市道地区）調査区位置図
第 49 図　中保Ｂ遺跡（坂森地区）調査区位置図
第 50 図　下老子笹川遺跡（高田地区）調査区位置図
第 51 図　越中国府関連遺跡（山崎 2 地区）調査区位置図
第 52 図　越中国府関連遺跡（奥村地区）調査区位置図
第 53 図　越中国府関連遺跡（奥村地区）平面図・断面図
第 54 図　越中国府関連遺跡（秦地区）調査区位置図
第 55 図　山園町遺跡（柿谷地区）調査区位置図
第 56 図　越中国府関連遺跡（ホームサポートオダケ地区）調査区位置図
第 57 図　井口本江遺跡（再開発地区 4）調査区遺構図
第 58 図　北木津遺跡（金山不動産地区）調査区位置図
第 59 図　中木津遺跡（市道南側地区）調査区位置図
第 60 図　東木津遺跡（市道地区）調査区位置図
第 61 図　上野Ｂ遺跡（向井地区）調査区位置図
第 62 図　江尻Ｃ遺跡（高野地区）調査区位置図
第 63 図　蓮花寺遺跡（松下地区）調査区位置図
第 64 図　鷲北新遺跡（あかね会２地区）調査区位置図
第 65 図　石堤長光寺遺跡（織田地区）調査区位置図

図　版　目　次

巻首図版 01　遺構写真　越中国府関連遺跡（牧野地区）
1. 遠景
2. Ｃ区全景

図版 01　遺構写真　越中国府関連遺跡（牧野地区）
1. Ｂ区全景
2. Ａ区全景

図版 02　遺構写真　越中国府関連遺跡（牧野地区）
1. Ｂ区ＳＢ 01 完掘状況
2. Ｃ区ＳＢ 01 完掘状況
3. Ｃ区ＳＢ 01　柱穴・土坑集中地点

図版 03　遺構写真　越中国府関連遺跡（牧野地区）
1. Ｂ区ＳＢ 01　柱穴ＳＫ 06・07 土層断面
2. Ｃ区ＳＢ 01　柱穴ＳＫ 42・43 完掘状況
3. Ｂ区ＳＢ 01　柱穴ＳＫ 10 土層断面

図版 04　遺構写真　越中国府関連遺跡（牧野地区）
1. Ｃ区　土坑ＳＫ 42　完掘状況
2. Ｂ区　溝ＳＤ 101　完掘状況
3. Ｂ区　溝ＳＤ 03　遺物出土状況

図版 05	遺構写真	越中国府関連遺跡（牧野地区）	1. Ｃ区ＳＢ 02・03　完掘状況
			2. Ｃ区ＳＢ 01　完掘状況
			3. Ｂ区　溝ＳＤ 03・ＳＫ 22　完掘状況
図版 06	遺構写真	越中国府関連遺跡（牧野地区）	1. Ｂ区　ＳＫ 12　遺物出土状況
			2. Ｃ区　土坑ＳＫ 25 ～ 27　土層断面
			3. Ｂ区　基本層序
図版 07	遺構写真	越中国府関連遺跡（奥村地区）	1. 溝１　遺構検出状況
			2. 溝１　完掘状況
			3. 溝１　南壁土層断面
図版 08	遺構写真	越中国府関連遺跡（柳地区）	1. 第１トレンチ　完掘状況
		越中国府関連遺跡（宮野地区）	2. 第１トレンチ　完掘状況
		西佐野千代遺跡（林地区）	3. 第１トレンチ　東壁土層断面
図版 09	遺構写真	百橋宮田遺跡（東地区）	1. 第１トレンチ　完掘状況
			2. 第１トレンチ　井戸ＳＥ 01　上層半裁状況
			3. 第１トレンチ　井戸ＳＥ 01　下層井戸枠検出状況
図版 10	遺構写真	越中国府関連遺跡（松原地区）	1. 第１トレンチ　完掘状況
		越中国府関連遺跡（寺林地区）	2. 第１トレンチ　完掘状況
		石塚遺跡（戸出高岡線地区）	3. 第１トレンチ　完掘状況
図版 11	遺構写真	上二上遺跡（統合保育園地区）	1. 第１トレンチ　全景
			2. 第３トレンチ　全景
		守護町遺跡（シーケー金属地区）	3. 第１トレンチ　完掘状況
図版 12	遺構写真	中木津遺跡（山本地区）	1. 第１トレンチ　完掘状況
		井口本江遺跡（松井地区）	2. 第１トレンチ　完掘状況
		瑞龍寺遺跡（車地区）	3. 第１トレンチ　完掘状況
図版 13	遺構写真	出来田南遺跡（サカエ１地区）	1. 第１トレンチ　完掘状況
		出来田南遺跡（サカエ２地区）	2. 第１トレンチ　完掘状況
		下佐野遺跡（酢谷地区）	3. 完掘状況
図版 14	遺構写真	戸出後生寺遺跡（戸出福祉会地区）	1. 第２トレンチ　完掘状況
			2. 第３トレンチ　完掘状況
		笹八口遺跡（中島地区）	3. 完掘状況
図版 15	遺構写真	下老子笹川遺跡（中野地区）	1. 第２トレンチ　完掘状況
		越中国府関連遺跡（山本地区）	2. 第１トレンチ　完掘状況
		中曽根遺跡（道野地区）	3. 第１トレンチ　完掘状況
図版 16	遺構写真	井口本江遺跡（市道東側地区）	1. 第１トレンチ　完掘状況
		中曽根西遺跡（清水地区）	2. 完掘状況
		中曽根西遺跡（刈地区）	3. 完掘状況
図版 17	遺構写真	下老子笹川遺跡（篠島地区）	1. 第１トレンチ　完掘状況
		戸出光明寺遺跡（脇田地区）	2. 第１トレンチ　完掘状況
		越中国府関連遺跡（大菅地区）	3. 第１トレンチ　完掘状況
図版 18	遺構写真	越中国府関連遺跡（折田地区）	1. 第１トレンチ　完掘状況
		中曽根西遺跡（倉谷地区）	2. 第１トレンチ　完掘状況
			3. 第３トレンチ　完掘状況
図版 19	遺構写真	守山城跡（消防無線地区）	1. 第２トレンチ　完掘状況
		石名瀬Ａ遺跡（市道地区）	2. 第１トレンチ　完掘状況
			3. 第１トレンチ　須恵器出土状況

図版 20	遺構写真	中保Ｂ遺跡（坂森遺跡）	1. 第１トレンチ　完掘状況
		下老子笹川遺跡（高田遺跡）	2. 第１トレンチ　完掘状況
		越中国府関連遺跡（山崎２地区）	3. 第２トレンチ　完掘状況
図版 21	遺構写真	越中国府関連遺跡（秦地区）	1. 第１トレンチ　完掘状況
		山園町遺跡（柿谷地区）	2. 第１トレンチ　遺構断ち割り状況
		越中国府関連遺跡 （ホームサポートオダケ地区）	3. 第１トレンチ　完掘状況
図版 22	遺構写真	井口本江遺跡（再開発地区４）	1. ２号トレンチ　全景
			2. ４号トレンチ　全景
			3. ５号トレンチ　全景
図版 23	遺構写真	中木津遺跡（市道南側地区）	1. 第６トレンチ　完掘状況
		東木津遺跡（市道地区）	2. 第２トレンチ　完掘状況
			3. 第５トレンチ　完掘状況
図版 24	遺構写真	北木津遺跡（金山不動産地区）	1. 第１トレンチ　完掘状況
		江尻Ｃ遺跡（高野地区）	2. 完掘状況
		上野Ｂ遺跡（向井地区）	3. 第１トレンチ　完掘状況
図版 25	遺構写真	蓮花寺遺跡（松下地区）	1. 完掘状況
		石堤長光寺遺跡（織田地区）	2. 第１トレンチ　完掘状況
		鷲北新遺跡（あかね会２地区）	3. 第２トレンチ　完掘状況
図版 26 ～ 図版 34	遺物写真		

第１章　遺跡の位置と歴史的環境

高岡市は富山県の西部に位置し、県内第２位の人口を擁する。市域は東西約 24.5 km、南北約 19.2 kmに及び、その面積は富山県域の約５％にあたる 209.38 km²を呈する。

地形的には山間部のほか、丘陵部や平野部から成り、北部では日本海の富山湾に面する。平野部は北陸有数の穀倉地帯を形成し、古くから舟運や海運の発達を促しうる地勢を有した地域といえる。

市内には庄川と小矢部川が所在する。高岡の平野部はこの二河川による複合的な扇状地で形成されているが、小矢部川左岸では西山丘陵とよばれる標高 300m に満たない丘陵がつらなり、能登半島の宝達山を主峰とする山間部に繋がっている。

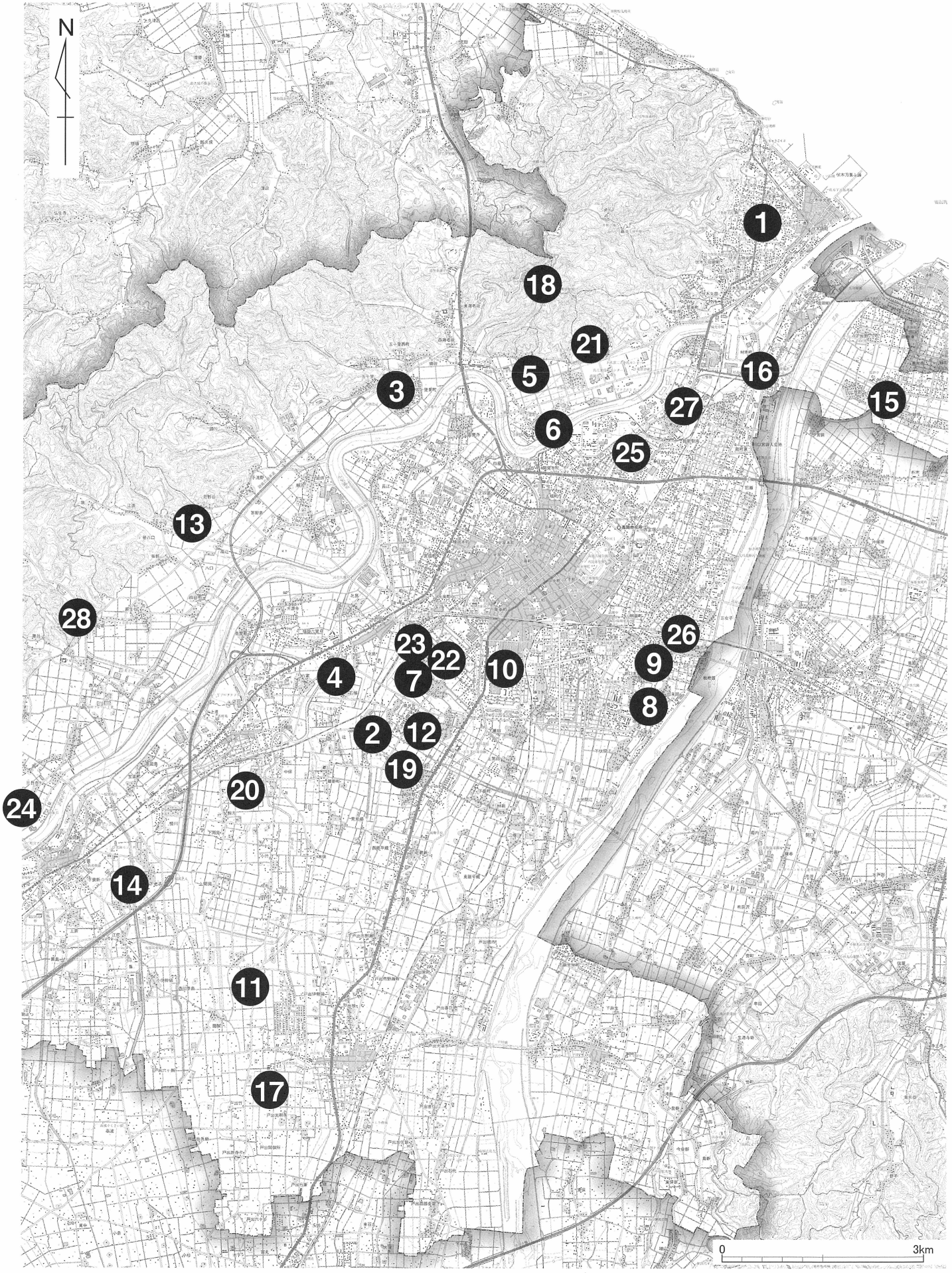
現在、高岡市では 341 もの遺跡が周知されており、その分布状況は、山間部のほか丘陵部や平野部に大別できる。山間部では旧石器時代の遺跡が点在し、縄文時代の遺跡も谷あいの平坦地などで確認されている。丘陵部には古墳群や中世城館などが密集する。また、古代の北陸道は西山丘陵の山麓線沿いにはしっていたとされる。

平野部には、弥生時代を主体とする集落遺跡として県内有数の規模を誇る石塚遺跡や下老子笹川遺跡、古代における官衙的な遺跡とされる東木津遺跡や中保Ｂ遺跡、中世の木舟城の城下町遺跡である石名田木舟遺跡など、県内の考古学研究史を語るうえでも欠かすことのできない遺跡が集中している。

越中国府関連遺跡では多くの成果があった。平成 24 年度に本発掘調査を行った牧野地区では、掘立柱建物に関係する柱穴や土坑から硯や墨書土器などが出土した。勝興寺南東側に建物群が広がることに加え、越中国府の文書事務に係る貴重な資料を検出した。

小矢部川左岸に位置する百橋宮田遺跡では、中世前半の縦板組の井戸枠が検出された。周辺に遺構は確認できなかったが、小矢部川が蛇行して形成された微高地に中世の集落が存在していた可能性がある。また、井口本江遺跡や出来田南遺跡の各地では、主に古代から中世にかけての集落跡が検出された。特に出来田南遺跡は多くの柱穴や土坑などが見つかっている。

① 越中国府関連遺跡　（柳地区･宮野地区･松原地区･寺林地区・山本地区・大菅地区・折田地区・山崎２地区・秦地区・ホームサポートオダケ地区）
② 西佐野千代遺跡　（林地区）
③ 百橋宮田遺跡　（東地区）
④ 石塚遺跡　（戸出高岡線地区）
⑤ 上二上遺跡　（二上・守山統合保育園地区）
⑥ 守護町遺跡　（シーケー金属地区）
⑦ 中木津遺跡　（山本地区）
⑧ 出来田南遺跡　（サカエ金襴１・２地区）
⑨ 井口本江遺跡（松井地区・市道東側地区・再開発地区４）
⑩ 瑞龍寺遺跡　（車地区）
⑪ 戸出後生寺遺跡　（戸出福祉会地区）
⑫ 下佐野遺跡　（酢谷地区）
⑬ 笹八口遺跡　（中島地区）
⑭ 下老子笹川遺跡（中野地区・篠島地区・高田地区）
⑮ 中曽根遺跡　（道野地区）
⑯ 中曽根西遺跡　（清水地区・刈地区・倉谷地区）
⑰ 戸出光明寺遺跡　（脇田地区）
⑱ 守山城跡　（消防無線基地局地区）
⑲ 石名瀬Ａ遺跡　（市道地区）
⑳ 中保Ｂ遺跡　（坂森地区）
㉑ 山園町遺跡　（柿谷地区）
㉒ 北木津遺跡　（金山不動産地区）
㉓ 東木津遺跡　（市道地区）
㉔ 上野Ｂ遺跡　（向井地区）
㉕ 江尻Ｃ遺跡　（高野地区）
㉖ 蓮花寺遺跡　（松下地区）
㉗ 鷲北新遺跡　（あかね会２地区）
㉘ 石堤長光寺遺跡　（織田地区）


N
1
18
21
5
16
3
27
15
6
25
13
28
26
23
22
10
9
4
7
8
2
12
19
20
24
14
11
17
0
3km

第１図　調査位置図

第２表　平成25年度の遺跡調査一覧

No	遺跡名	読み方	所在地	時代	種別	現状
1	越中国府関連遺跡	えっちゅうこくふかんれんいせき	伏木	古代～中世	官衛	宅地
2	西佐野千代遺跡	にしさのせんだいいせき	西佐野	弥生～平安	散布地	水田・宅地
3	百橋宮田遺跡	どのはしみやたいせき	五十里東町	縄文	散布地	宅地
4	石塚遺跡	いしづかいせき	石塚	縄文晩期・弥生～近世	集落	水田・宅地
5	上二上遺跡	かみふたがみいせき	二上	奈良～中世	散布地	水田
6	守護町遺跡	しゅごまちいせき	守護町	奈良～中世	散布地	宅地
7	中木津遺跡	なかきづいせき	木津	奈良～近世	散布地	水田
8	出来田南遺跡	できでんみなみいせき	出来田	奈良～平安	集落	水田・宅地
9	井口本江遺跡	いぐちほんごういせき	井口本江	奈良～平安	集落	水田・宅地
10	瑞龍寺遺跡	ずいりゅうじいせき	関本町	近世	寺院	境内地
11	戸出後生寺遺跡	といでごしょうじいせき	戸出後生寺	古代～近世	散布地	水田
12	下佐野遺跡	しもさのいせき	下佐野・西佐野		散布地	水田・宅地
13	笹八口遺跡	ささやつくちいせき	笹八口	古墳～中世	散布地	水田
14	下老子笹川遺跡	しもおいごささがわいせき	下老子・笹川	縄文晩期～近世	集落	水田
15	中曽根遺跡	なかそねいせき	中曽根	弥生～中世	散布地	水田
16	中曽根西遺跡	なかそねにしいせき	中曽根	弥生～中世	集落	水田
17	戸出光明寺東遺跡	といでこうみょうじひがしいせき	戸出光明寺	古代～近世	散布地	水田
18	守山城跡	もりやまじょうあと	二上	中世～近世	城館	山林・公園
19	石名瀬A遺跡	いしなせえーいせき	石名瀬	弥生～中世	集落	水田
20	中保B遺跡	なかほびーいせき	中保	縄文晩期・弥生～中世	集落・官衛	水田・宅地
21	山園町遺跡	やまぞのちょういせき	山園町	奈良～中世	散布地	宅地・境内
22	北木津遺跡	きたきづいせき	木津	平安～中世	散布地	水田
23	東木津遺跡	ひがしきづいせき	木津	弥生～近世	集落・官衛	水田・宅地
24	上野B遺跡	うわのびーいせき	上野	縄文前期・中期	散布地	集落・耕作地
25	江尻C遺跡	えじりしーいせき	江尻	古代～中世	散布地	畑
26	蓮花寺遺跡	れんげじいせき	蓮花寺	平安～中世	散布地	水田
27	鷲北新遺跡	わしきたしんいせき	能町	弥生～中世	散布地	鉄道用地・水田他
28	石堤長光寺遺跡	いしづつみちょうこうじいせき	石堤・字長光寺	弥生・奈良～中世	集落	畑

第２章　越中国府関連遺跡（牧野地区）発掘調査報告

第１節　遺跡概観

越中国府関連遺跡は、庄川河口部に接する河岸段丘上の伏木台地に位置し、古墳後期～中世・近世に至るまで断続的に集落が確認され、古代においては越中国府が置かれた場所とされる。越中国府の所在は伏木台地にあったとされ、それがほぼ定説になっている。

越中国庁跡推定地とされている勝興寺の南側一帯は、白鳳時代の瓦が多く採集されており、国庁設置以前に寺院が存在したとされている。小字名から「御亭角廃寺」と称されるこの寺院は、伊弥頭国造射水臣氏との関連が指摘されている。越中国庁跡については、勝興寺南接地区において掘立柱建物群が検出されている。また、美野下遺跡高岡古府庁舎地区では多量の国分寺式瓦や供膳用土器のほか、「傅厨」と墨書された須恵器など国庁周辺施設の存在を示す遺物が出土している。

戦国時代に入り、天正９年（1581）に佐々成政は勝興寺･瑞泉寺を中心とする一向一揆を制圧し越中を支配した。天正 12 年（1584）に成政と守山城を拠点とする神保氏張により勝興寺は現在の地に土地を寄進された。現在の勝興寺の土塁と堀について、勝興寺移転後に築いたとする説と、天正 12 年以前にすでにあったとされる古国府城の一部を利用したとする説がある。

本調査地点は伏木台地の南東側に位置し旧遺跡名は東館遺跡と呼ばれる。古岡英明氏により古府八幡社境内にて丸瓦が採集されている。過去の調査として、勝興寺南接地区では古代～中世の掘立柱建物や溝など検出された。美野下遺跡では遺構の検出はないが､台地上から移動した多量の土器類が出土し､双方とも瓦･高級陶器が存在する。

第２図　越中国府関連遺跡（牧野地区）位置図

第２節　越中国府関連遺跡の歴史的環境

縄文時代

縄文時代の遺構は見つかっていないが、古岡英明氏らが表採した縄文土器や石器がある。縄文土器は中期～後期に帰属するものが多く、いずれも小破片である。石器は伏木の各台地からの出土が認められ、特に中央台地山麓部や北台地に多く確認している。磨製石斧を中心に採取され、それらの土器・石器は伏木小学校に保管されている。

古墳時代（５～６世紀）

オダケホーム地区（67 ～ 69）では、古墳後期の集落が見つかっている。竪穴住居が 15 棟検出され、古墳後期（漆町編年 14 ～ 15 群）の竪穴住居があり、切り合い関係も見られる。出土遺物は土師器（椀・甕・高杯）とミニチュア土器、須恵器がある。周辺の土坑からは、古代の瓦や須恵器が出土しており、古墳時代と古代の２時期で集落が存在している。伏木台地周辺の古墳は希薄な状況である。越中国府関連遺跡の南側に古府古墳群が周知されているが、いずれも削平され消滅している（高岡市 1959）。そのうち矢田窪古墳からは、７世紀を中心とした遺物が出土しており、前述した古墳時代の集落との連続性がうかがえる。第 20 図に伏木台地付近出土の古墳～古代の土器類を紹介している。

飛鳥時代～古代前半（７～９世紀代）

飛鳥時代から継続している代表例として御亭角遺跡（05・71）が挙げられる。射水市（旧小杉町）小杉丸山遺跡で焼かれた瓦が多量に出土しており、白鳳期の寺院造営に使用された瓦類と考えられている。その後 10 世紀代までの遺物が出土しており、性格は不明であるが継続して営みが確認できる。当地では越中国分寺跡から出土する国分寺系瓦も一定量出土していること、加えて掘立柱建物の柱穴と考えられる遺構が検出されていることから、造営期のみでなく以降にも瓦を伴う建物などの存在が指摘される。

８世紀中葉以降、古代の掘立柱建物跡や溝等の国府に関係する、大規模で計画的な遺構群が確認される。勝興寺南接地区（07）や牧野地区（92・93）では８世紀中葉以降の掘立柱建物群が検出された。その北側に位置する伏木測候所地区（21・39）においても古代の掘立柱建物が検出されたことから、勝興寺南東部一帯に掘立柱建物を主体とする官衙ブロックの広がりが考えられる。その南側の古府宿舎１・２地区（01・02）では、これらの台地上の遺構群から流れ込んで堆積した古墳時代から中世までの遺物が多く出土している。

県史跡である越中国分寺跡周辺（44 他）においては、灰色で軟質な胎土が特徴的な国分寺系瓦の出土はもちろん、御亭角遺跡で出土する格子叩き目の瓦が出土している。明確な国分寺に関する遺構は検出されておらず、国分寺域の範囲も不明である。

古代末～鎌倉時代（10 世紀代～ 14 世紀代）

下水道国府串岡地区（23）では、平安時代末～中世の土坑や溝が検出されている。また御亭角や能松地区（71）や牧野地区（92・93）でも遺物が確認できることから、勝興寺周辺に古代後半の遺構・遺物の分布がある。加えて、氣多神社周辺では多くの古代土師器が出土している。宗教関係の遺物や縣仏等の特徴的な遺物も確認できる。

中世（15 世紀～）

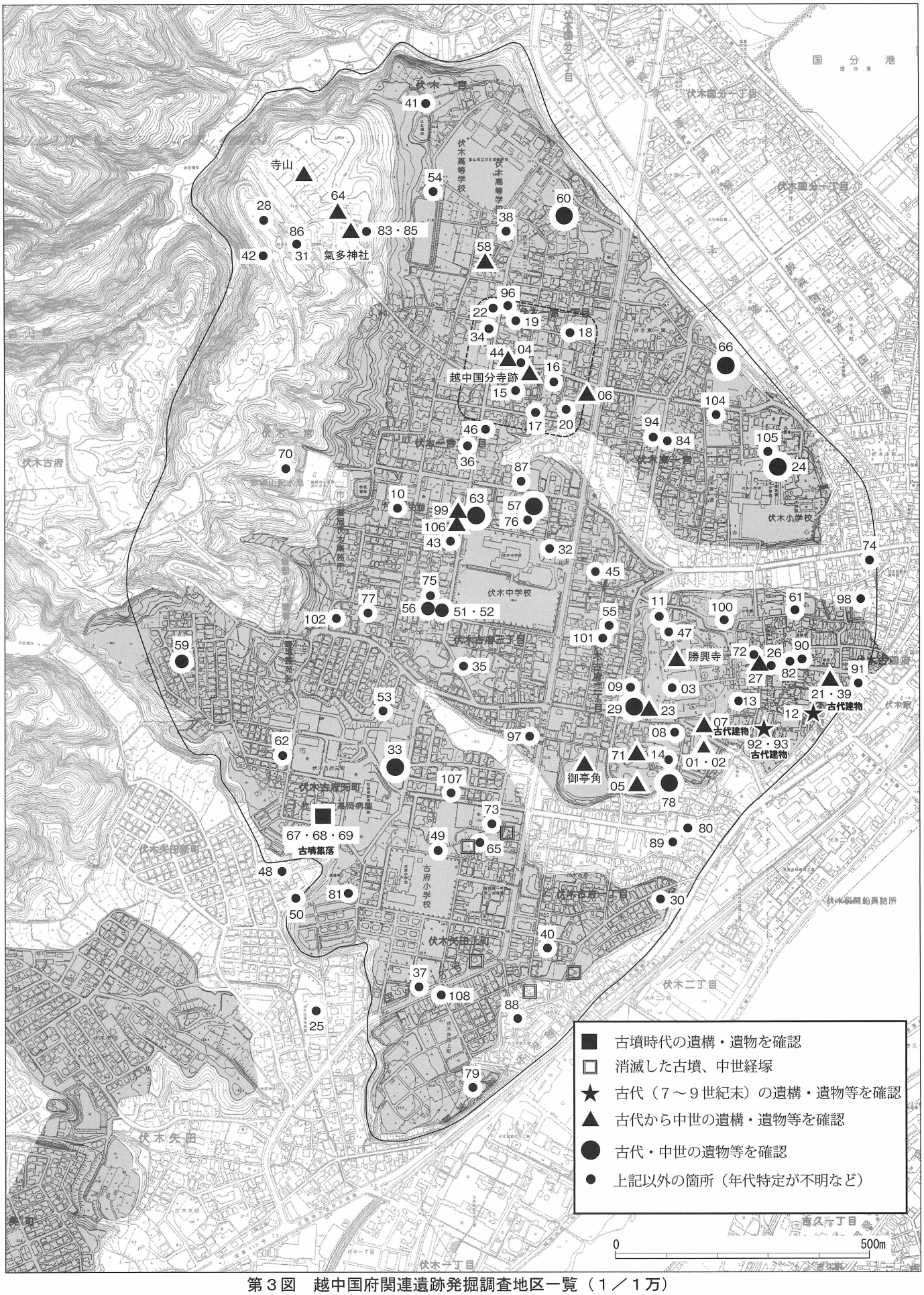
現在の勝興寺の境内地は戦国時代に築かれた古国府城跡と推定されている。勝興寺周辺の調査区では、非ロクロ形成の京都系土師器が出土する場合が多い。御亭角・小谷地区（05）や能松地区（71）などで多く出土しており、現存する土塁や壕などと合わせて、中世城郭やその周辺の集落の状況を示している。また、中世土師器皿や瓦質土器など、県立伏木高等学校付近や氣多神社周辺の寺山遺跡で表採資料が確認されている。台地北部においての開発の痕跡は、遺物からは確認できるが、明確な遺構の検出はない。

文献等資料

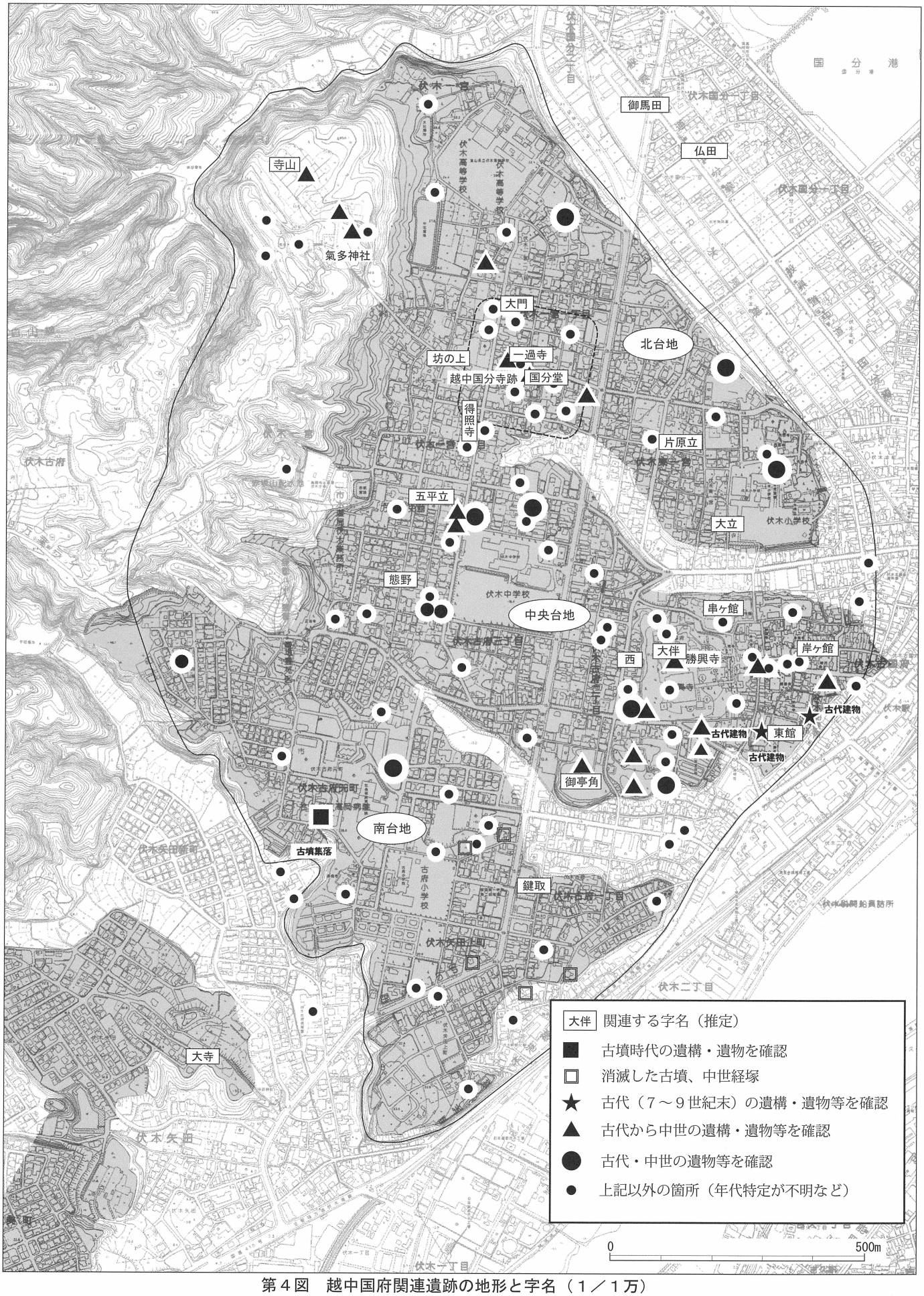
越中国府に直接関係する明確な史料は少なく、一例を挙げれば『倭名類聚抄（わみょうるいじゅうしょう）』に記載された「国府在射水郡行程上十八日下八日」とある。そのほか、天平 18（746）年から天平勝宝３（751）年に越中国司として赴任した大伴家持が残した万葉集に収録された 325 首に、執務や生活の中心であったと考えられる国府周辺の風景が読み込まれる。また第４図に示したように、国府の施設に関連する字名が確認できる。

No	地区	記号	所在地	年度
01	古府宿舎1	TMM1	伏木古府２丁目67番地	1985
02	古府宿舎2	TMM1	伏木古府２丁目67番地	1985
03	勝興寺本堂裏	F2	伏木古国府17番	1985
04	国分寺北接	F3	伏木一宮２丁目	1986
05	御亭角・小谷	－	伏木古府２丁目	1986
06	国分寺東側	F5	伏木一宮１丁目	1987
07	勝興寺南接	F6	伏木古府２丁目	1987
08	勝興寺南側１	F7	伏木古府２丁目	1987
09	勝興寺西側	F8	伏木古府２丁目	1987
10	万葉歴史館	F9	伏木一宮１丁目	1987
11	勝興寺北接	F10	伏木古国府17番	1988
12	妙法寺	F11	伏木古国府１２番	1988
13	矢田安太郎	F12	伏木古国府	1988
14	勝興寺南側２	F13	伏木古府２丁目	1988
15	坂口幸夫	F14	伏木一宮１丁目	1989
16	松谷二郎	F15	伏木一宮１丁目	1989
17	立野二郎	F16	伏木一宮１丁目	1989
18	栗田喜代治	F17	伏木一宮２丁目	1989
19	向一次	F18	伏木一宮２丁目	1989
20	海員会館	F19	伏木一宮１丁目	1989
21	伏木側候所	F20	伏木古国府12-５	1990
22	芹沢貢	F21	伏木一宮２丁目	1990
23	下水道古府串岡	F22	伏木古府２丁目	1991
24	伏木児童館	－	伏木東一宮17番１号	1991
25	古府保育園	－	伏木矢田７番１号	1992
26	伏木古府５号線１	F23	伏木古国府11番	1993
27	伏木古府５号線２	F24	伏木古国府15番	1995
28	白山林道	F25	伏木一宮字大坪２－１	1997
29	林	F26	伏木古府２丁目	1997
30	墓地改修	－	伏木古府１	1998
31	気多神社	－	伏木一宮2063	1998
32	伏木中学校集会所	－	伏木古府３丁目	1999
33	日本重化学（白山経塚）	F29	伏木古府本町476	2000
34	山	F30	伏木古府２丁目	2001
35	堀	F31	伏木一宮３丁目	2001
36	寺嶋	F32	伏木一宮１丁目	2001
37	古府公民館	－	伏木矢田上町	2001
38	林	F33	伏木矢田一宮２丁目	2001
39	気象観測施設	－	伏木伏木古国府12－５	2002
40	大村	F34	伏木矢田上町	2002
41	井	F36	伏木一宮第２区	2003
42	ふるさと林道	－	伏木一宮１－１外	2003
43	奥村１	F37	伏木一宮１丁目	2003
44	奥村２	－	伏木一宮２丁目	2003
45	湊	F38	伏木東一宮	2004
46	滝内・だるま堂	－	伏木一宮１丁目	2004
47	勝興寺庫裏	－	伏木古府716外	2004
48	矢田新町急傾斜地	－	伏木矢田新町地区	2004
49	ロクショウ	F39	伏木古府元町430－１外	2005
50	矢田新町３急傾斜地	－	伏木矢田新町地区	2005
51	西村１	F40	伏木古府３丁目	2005
52	西村２	F40	伏木古府３丁目	2005
53	澤	F41	伏木古府３丁目	2005
54	伏高NTT	F42	伏木一宮字第２区357番	2005
55	オダケホーム	F43	伏木古府２丁目236－３外	2005
56	マルワ住建	F44	伏木古府３丁目81－１	2005
57	竹内	F45	伏木一宮１丁目	2005
58	高田	F46	伏木東一宮２丁目	2005
59	麦谷	－	伏木古府元町	2006
60	ア・ライズ伏木	F48	伏木一宮２丁目413－１外	2006
61	シマダ木材	－	伏木古府221外	2006
62	放地	－	伏木古府元町	2006
63	串田	F49	伏木一宮１丁目	2006
64	森の祭典	F50	伏木一宮字大平２－１外	2007
65	ロクショウ２	－	伏木古府元町430－６	2007
66	佐野	－	伏木東一宮	2007
67	オダケホーム古府元町１	－	伏木古府元町478－１	2007
68	オダケホーム古府元町２	F51	伏木古府元町478－１	2007
69	オダケホーム２	－	伏木古府元町478－１	2007
70	伏木配水池	－	伏木一宮知古塚14－２	2007
71	御亭角・能松	F53	伏木古府２丁目207	2008
72	麻生	F54	伏木古国府15番	2008
73	ハマヤ興産	－	伏木古府元町430－５	2008
74	魚川	F59	伏木東一宮	2009
75	島１	F60	伏木古府３丁目	2009
76	島２	F58	伏木一宮１丁目	2010
77	岩城	F60	伏木古府３	2010
78	古府３急傾斜法面工	F55	伏木古府172－１	2010
79	地区総合流域防災（急傾斜）	F56	伏木古府２－１－20	2009
80	地区総合流域防災（急傾斜）	F57	伏木古府２－１－20	2009
81	角納築蔵・悦子地区	F61	伏木古府元町	2010
82	古枝	F62	伏木古国府651、654番地	2010
83	白山林道拡幅	F63	伏木一宮字大平2064－５	2010
84	高橋	F64	伏木東一宮	2010
85	白山林道拡幅（本調査）	F65	伏木一宮字大平2064－５	2010
86	気多神社	F67	伏木一宮１－10－１	2010
87	能松	F69	伏木古府２	2011
88	谷内	F70	伏木古府１丁目	2011
89	高倉	F71	伏木古府293番地	2011
90	岡田	F72	伏木古国府	2011
91	南	F73	伏木古国府６	2012
92	牧野	F74	伏木古府２丁目	2012
93	牧野（本調査）	F75	伏木古府２丁目	2012
94	満田	F76	伏木東一宮	2012
95	山崎	F77	伏木古国府717番２～５・717番７・721番	2012
96	魚倉	F78	伏木一宮２丁目	2012
97	上野	F79	伏木古府３丁目	2012
98	秦	F80	伏木東一宮１	2012
99	奥村	F81	伏木一宮	2013
100	山崎２	F82	伏木古国府717番2～5・717番7・721番	2013
101	ホームサポートオダケ	F83	伏木古府二丁目	2013
102	宮野	F84	伏木古府３丁目	2013
103	柳	F85	伏木古府３丁目	2013
104	松原	F86	伏木東一宮	2013
105	寺林	F87	伏木東一宮	2013
106	山本	F88	伏木一宮１丁目	2013
107	大菅	F89	伏木古府３丁目	2013
108	折田	F90	伏木矢田上町	2013

第２表　越中国府関連遺跡発掘調査地区一覧表（昭和 60 年以降）



第３図　越中国府関連遺跡発掘調査地区一覧（１／１万）



第４図　越中国府関連遺跡の地形と字名（１／１万）

第３節　調査の概要

調査は、まず重機で表土を掘削し、その後に作業員を動員して包含層の掘削をはじめ、遺構検出・遺構掘削・遺物取り上げといった一連の掘削関連の作業を行った。またこれと並行して各種写真撮影のほか、遺構概略図・遺構断面図・遺構平面図作成等の記録図化作業を実施した。

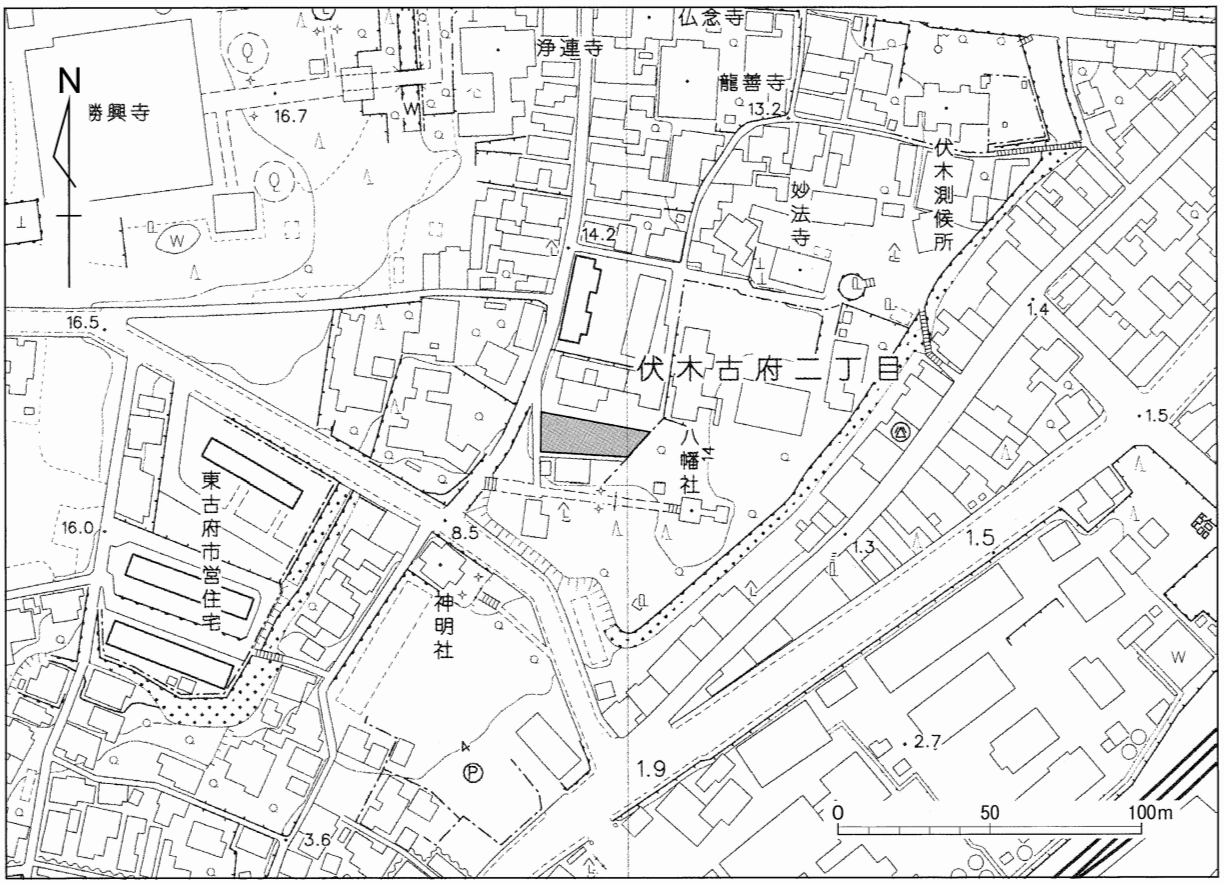
作業は平成24年７月25日から９月７日まで行い、対象となる499㎡のうち試掘調査の結果を基に対象地西側の発掘調査可能な201㎡を発掘調査した。

本調査地区の基本層序は、基盤層をふくめ計４層に分層できる。まず、厚さ約20～35mのⅠ層（表土層）を最上層とし、以下は、厚さ約15～20cmのⅡ・Ⅲ層（黒褐色土）がある。調査区西側は、表土層直下が検出面となる。Ⅲ層は遺物包含層であり、その下が遺構検出面及び基盤層（Ⅴ層）となっている。調査対象地東側は住宅建設により破壊されていた。また、近世～現代の瓦や盛土が厚く積まれており、遺構・遺物ともに確認されなかった。

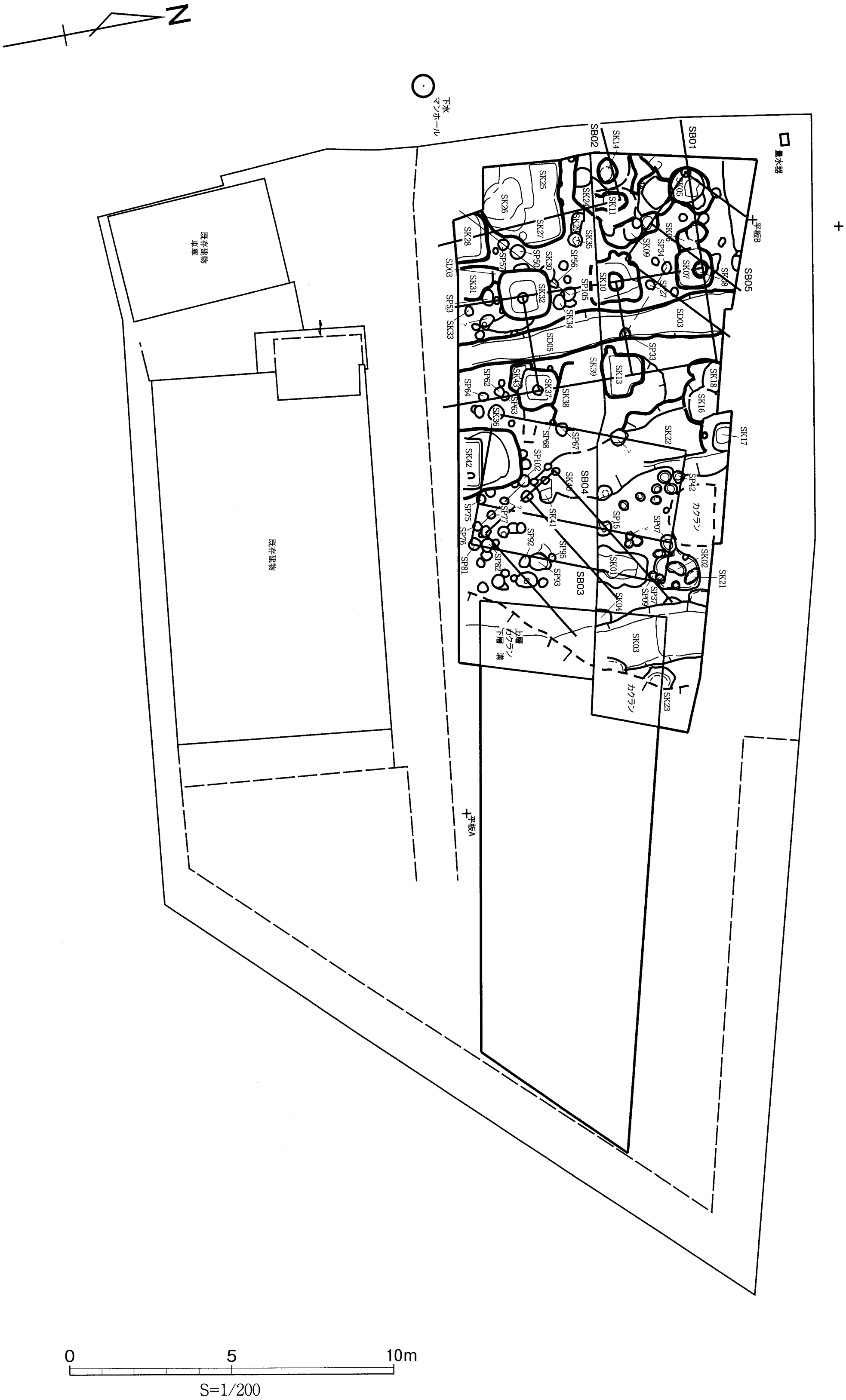
第４節　検出遺構と出土遺物

本調査地区は、平成24年度に試掘調査を実施しており、その結果にもとづき遺構面が１面あることを想定して今回の本発掘調査を実施した。遺構が確認されたのはⅣ層である。

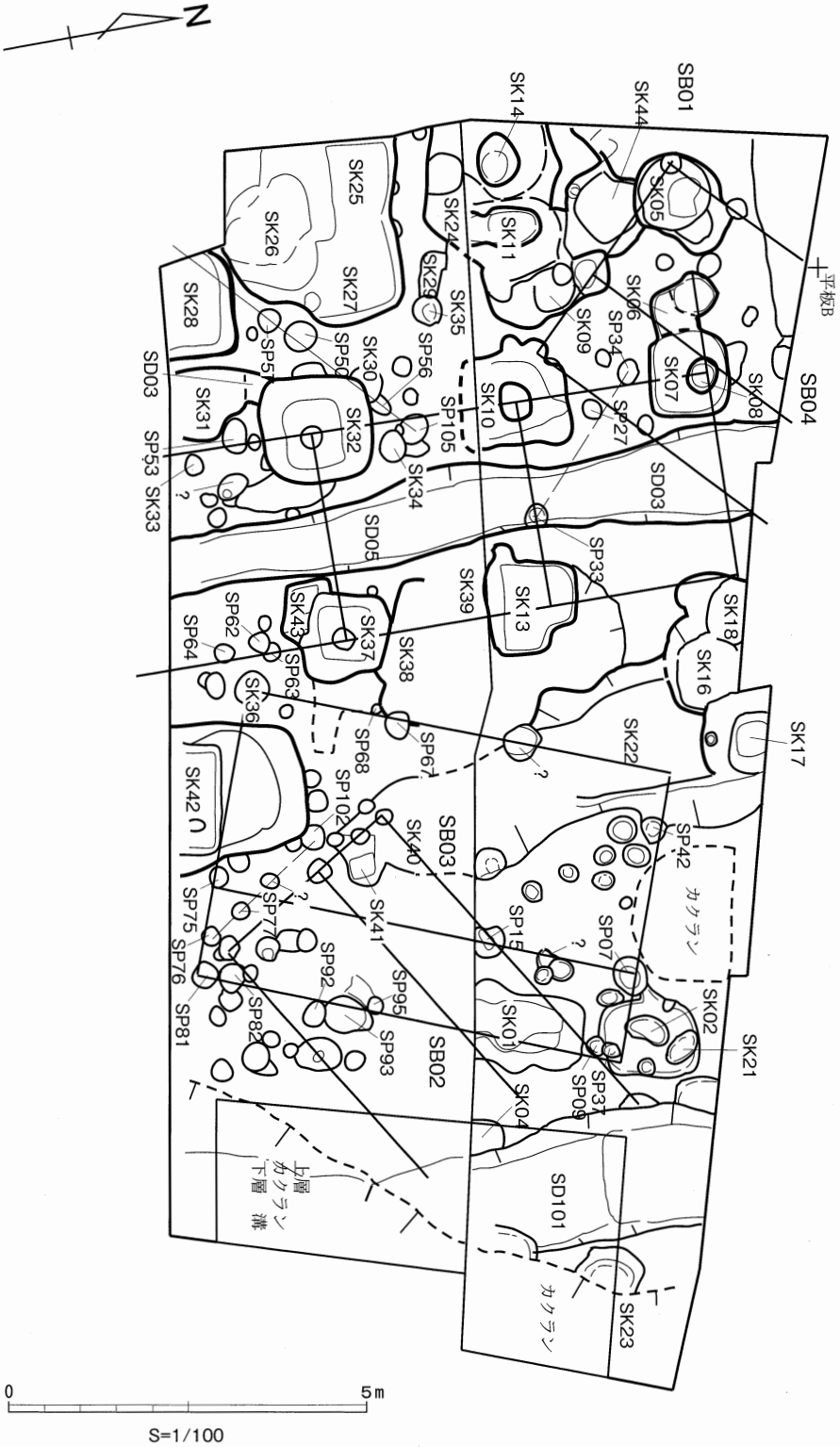
検出遺構は、掘立柱建物４棟以上、柱穴105基以上、土坑20基、溝状遺構２条（ＳＤ03ほか）である。出土遺物は、古代須恵器、古代土師器、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器、古代瓦（丸瓦・平瓦）、中世土師器、中世珠洲、近世陶磁器、近世瓦などが出土している。出土した遺物の量はコンテナ12箱を数える。出土する遺物の時期は古代が中心であり、特に古代土師器が多く出土した。



第５図　越中国府関連遺跡（牧野地区）調査区位置図



第６図　越中国府関連遺跡（牧野地区）全体図



第７図　越中国府関連遺跡（牧野地区）遺構実測図

1　検出遺構

掘立柱建物　ＳＢ01

調査区西側で検出された。南北軸の掘立柱建物である。建物は南北双方に続く可能性がある。軸はＮ－１°－Ｅで、ほぼ磁北と方向を揃える。規模は桁行２間以上（約6.4ｍ）、梁行１間以上（約2.8ｍ）で、柱間は桁行約2.7～2.9ｍ、梁行は不明である。ＳＫ10とＳＫ13、ＳＫ32とＳＫ37の対応関係を根拠にしており、周辺の土坑に広がる可能性がある。掘り方の平面は隅丸方形ないし不整方形で、検出面からの柱穴の深さは約60～70cmである。柱穴の一部で、柱痕と底部にあたりが確認できる。ＳＫ07は北側に浅い掘り込みと西側にＳＫ06があり、足場等の痕跡も認められる。切り合い関係は明確ではないが、ＳＫ10はＳＰ29に切られ、その他小規模な柱穴に切られると見られる。柱穴からの出土遺物は、古代土師器（杯・椀）、古代煮炊具、赤彩土師器、須恵器（杯・甕）、古代平瓦（越中国分寺式）、円面硯、墨書土器などがある。

掘立柱建物　ＳＢ02

調査区東側で検出された。南北軸の側柱建物である。軸はＮ－22°－Ｅで東に振る。規模は、桁行４間以上（約6.3ｍ）、梁行２間以上（約3.5ｍ）で、柱間は約1.7～2.1ｍと一定しない。掘り方の平面は不整楕円形で、検出面からの柱穴の深さは約30～40cmである。いずれの柱穴も規模は小さく、柱筋の通りは悪い。出土遺物は、古代土師器（杯・椀）、須恵器甕である。遺物の主体は、９世紀後半以降である。

掘立柱建物　ＳＢ03

調査区東側で検出された。南北軸の側柱建物である。軸はＮ－58°－Ｅで東に振る。規模は、桁行２間以上（約5.5ｍ以上）、梁行２間程度（約2.9ｍ）で、柱間は桁行2.1～2.3ｍ程度である。掘り方の平面は不整楕円形で、柱穴の径の規模は小さい。検出面からの柱穴の深さは約20～40cmである。出土遺物は、古代土師器椀、古代須恵器甕である。

掘立柱建物　ＳＢ04

調査区西側で検出された。南北軸の側柱建物である。軸はＮ－46°－Ｅで東に振る。規模は、桁行２間以上（約3.7ｍ以上）、梁行２間（約3.3ｍ）で、柱間は桁行1.1～1.8ｍ程度とばらつきがある。掘り方の平面は不整楕円形で、柱穴の径の規模は小さい。検出面からの柱穴の深さは約20～40cmである。

その他古代の掘立柱建物について

調査区西側に重複して検出された柱穴が確認される。柱痕の検討が十分ではないため、建物の復元は難しいが、ＳＫ25～ＳＫ27のうち１箇所とＳＫ14などほぼ正方位の軸に並ぶものがある。調査区中央北側のＳＫ16～ＳＫ18においても、北側に建物の広がりが推測される。これらの柱穴・土坑の切り合い状況から、建て替えの痕跡が最低でも２回以上あることが判断できる。

土坑　ＳＫ05

調査区西側で検出された。長軸1.6ｍ、幅1.1～1.2ｍ、深さ約60～70cmを計る。断面形状は北側の柱痕を残す深い掘り方は箱状を呈し、南側は浅い部分に切られる。ＳＫ44を切る。出土遺物は、古代須恵器や土師器や古代瓦や漆が付着した土師器など、古代の遺物が多く出土している。

土坑　ＳＫ 09・11・14・44

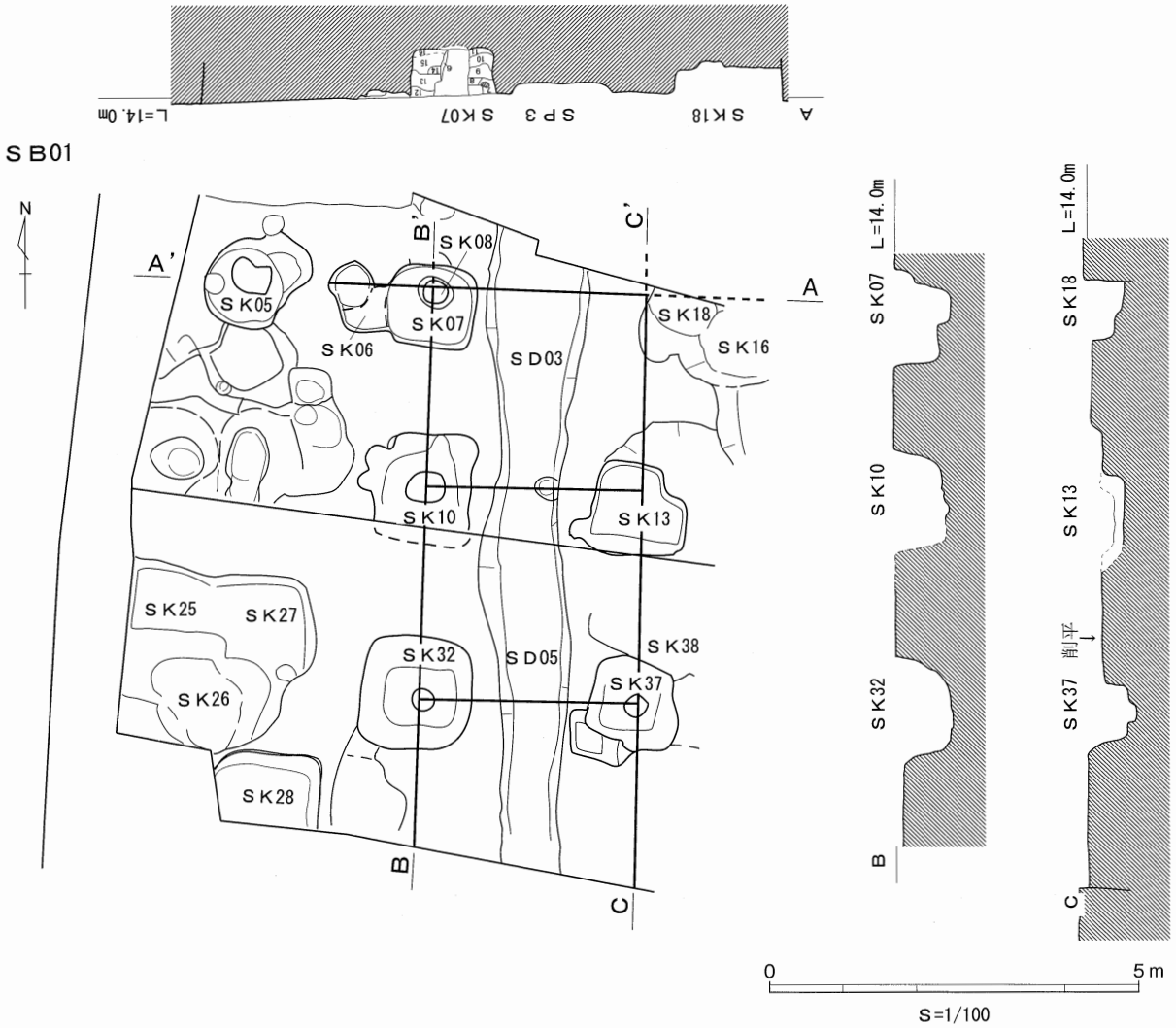
調査区西側で検出された。少なくとも、４基の柱穴もしくは土坑が確認される。主な平面プランは隅丸方形状であると考えられる。そのうち、柱のあたりを検出したのはＳＫ 11 とＳＫ 14 であり、あたりと柱の掘り方の比高差は約 20cm 程度であった。ＳＫ 09 とＳＫ 44 はやや浅く掘られており、ＳＫ 11・ＳＫ 44 の最も低い部分は最大で 50cm 程度の比高差がある。

土坑　ＳＫ 16 ～ＳＫ 18

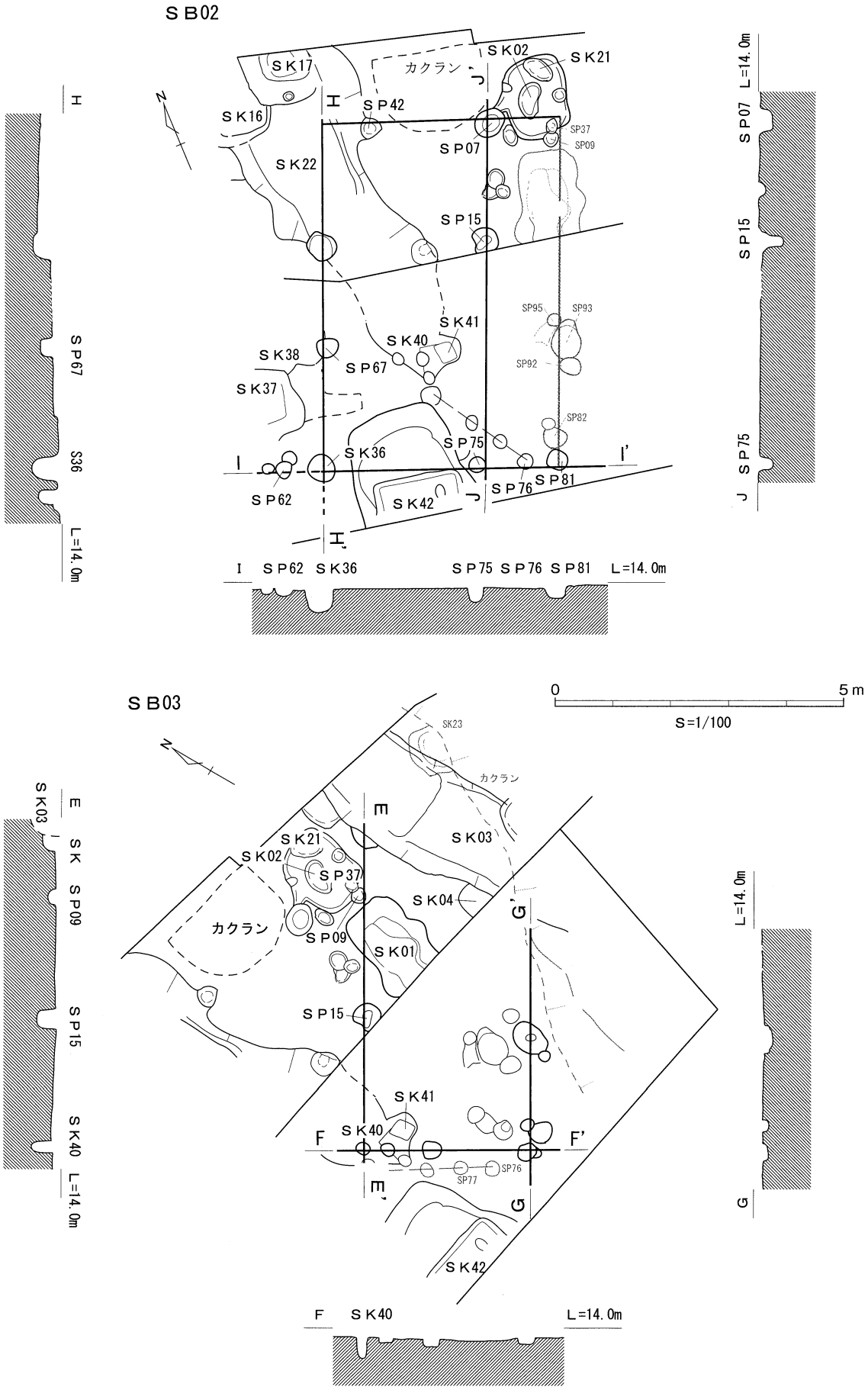
調査区北側で検出された。ＳＫ 22 を掘削した底面から検出され、いずれもＳＫ 22 より古い土坑と考えられる。切り合い関係はＳＫ 17 ＞ＳＫ 16 となる。ＳＫ 16 とＳＫ 18 との新旧関係は不明である。いずれも隅丸方形状の掘り方と考えられ、そのうちＳＫ 17・ＳＫ 18 はあたりの痕跡を確認している。北側にも掘立柱建物が存在することを示唆する遺構である。

土坑　ＳＫ 25 ～ＳＫ 27

調査区西側で検出された。少なくとも、３基の柱穴もしくは土坑が確認される。主な平面プランは隅丸方形状であると考えられる。そのうち柱痕を確認したものは、ＳＫ 26 のみであり、他の遺構では掘り方のみを検出した。切り合い関係はＳＫ 25 ～ＳＫ 26 を切ることを土層断面で把握した。ＳＫ 27 の切り合い関係は不明である。ＳＫ 26 は最も深く掘られており、最も低い部分とＳＫ 27 との比高は約 20cm 程度となる。

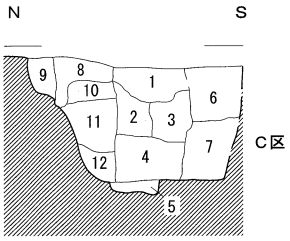


第８図　越中国府関連遺跡（牧野地区）掘立柱建物ＳＢ 01　実測図



第９図　越中国府関連遺跡（牧野地区）掘立柱建物ＳＢ 02・03　実測図

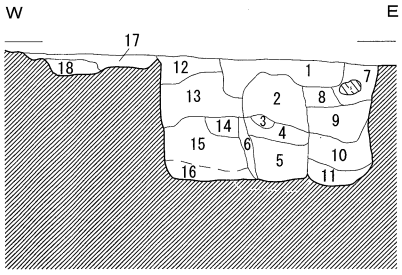
ＳＫ10



ＳＫ10

1　10YR3/1　砂質土　土器・地山ブロック・炭少量含む
2　10YR3/1　砂質土　土器・細かい地山ブロック・炭少量含む
3　2.5Y6/1　砂質土　大きい地山ブロック・砂質土含む
4　10YR4/1　砂質土　小さい地山ブロック・炭少量含む
5　2.5Y3/1　シルト　しまり有り
6　2.5Y3/1　砂質土　大きい地山ブロック・炭少・土器含む
7　2.5Y4/1　砂質土　大きい地山ブロック・炭多含む
8　10YR3/1　砂質土　小さい地山ブロック・炭少量含む
9　2.5Y5/1　砂質土
10　2.5Y4/1　砂質土　褐色ブロック多量・炭少量含む
11　10YR3/1・10YR4/1 砂質土　炭微少・土層少量含む
12　10YR3/1・10YR4/1 砂質土　上層純・地山ブロック含む

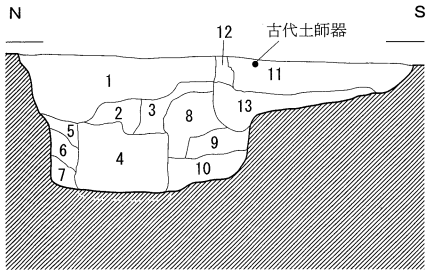
ＳＫ07



ＳＫ07

1　10YR4/1　砂質土　大地山ブロック少量
2　10YR2/1　砂質土　小地山ブロック・炭少量
3　2.5Y6/1・2.5Y5/1　砂質土
4　10YR5/1　砂質土　中地山ブロック多・炭少量
5　10YR5/2　砂質土　大地山ブロック多・炭なし
6　2.5Y3/1　砂質土　小地山ブロック少量含む
7　2.5Y3/1　砂質土　小地山ブロック・炭少量
8　10YR3/2　砂質土　大地山ブロック多少まだら状
9　10YR3/2　砂質土　大地山ブロック多まだら状
10　2.5Y3/1　砂質土　小地山ブロック微量
11　2.5Y6/1・2.5Y7/1 シルト　小地山ブロック少量
12　10YR3/2　砂質土
13　９層＋12層を多くまだらに含む
14　９層
15　10YR3/1　砂質土　地山ブロックなし
16　10YR3/1　砂質土シルト　小地山ブロック少量
17　2.5Y4/1　砂質土
18　2.5Y4/2　砂質土シルト　地山まだら

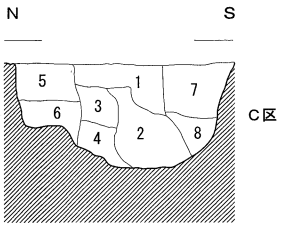
ＳＫ05



ＳＫ05

1　10YR3/1　砂質土　土器・炭少量
2　10.5YR7/3 砂質土　小ブロック土少量
3　2.5Y4/2　砂質土　小ブロック土多
4　10YR7/3　砂質土　大ブロック多量
5　2.5Y4/2　砂質土　小ブロック少量・炭
6　2.5Y3/1　砂質土　炭
7　2.5Y3/1　砂質土　大ブロック多量
8　10YR4/1　粘質土　小地山ブロックまだら状
9　10YR3/1　粘質土　小地山ブロック少量
10　10YR3/1　粘質土　大地山ブロック多量
11　10YR3/2　砂質土　地山ブロック・炭なし
12　10YR3/2　砂質土　地山ブロック少量
13　10YR6/4　粘質土　しまり有り

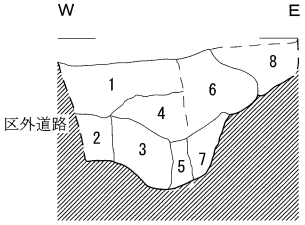
ＳＫ11



ＳＫ11

1　10YR3/1　砂質土　小地山ブロック多量
2　2.5Y3/1　砂質土　小地山ブロック少量
3　2.5Y6/3　砂質土　小地山ブロック多量
4　2.5Y6/3　砂質土　小地山ブロック多量　しまり有り
5　10YR7/4　砂質土　大地山ブロック多量　しまり有り
6　10YR7/4　砂質土　大地山ブロック多量
7　2.5Y7/2　砂質土　小地山ブロック少量
8　2.5Y3/2　砂質土　大地山ブロック多量　しまり有り

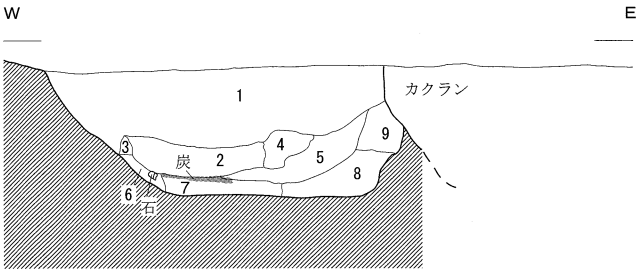
ＳＫ14



ＳＫ14

1　10YR3/1　砂質土　大地山ブロック
2　2.5Y3/1　砂質土　小地山ブロック少量
3　2.5Y3/1　砂質土　小地山ブロック少量 柱痕か
4　2.5Y3/1　砂質土　小地山ブロック少量
5　2.5Y3/1　砂質土　小地山ブロック
6　2.5Y3/1　砂質土　しまりなし
7　2.5Y6/2-5/2 砂質土 小地山ブロック多量
8　粘質土

ＳＤ03・ＳＫ15



ＳＤ03

1　2.5Y5/1　砂質土
2　2.5Y3/2　砂質土 炭少量・小地山ブロック少量
3　10YR4/2　砂質土
4　10YR4/3　砂質土 しまり有り 小地山ブロック・炭少量
5　2.5Y4/1-4/2 砂質土 小地山ブロック・炭少量

ＳＫ15

6　2.5Y3/2　砂質土 小地山ブロック・炭層状に
7　2.5Y3/1　砂質土＋シルト炭少量
8　10YR3/1　砂質土 小地山ブロック多量　しまり有り
9　2.5Y3/2　砂質土 中地山ブロック中量・炭少量

0　1　2m
S=1/40

第 10 図　越中国府関連遺跡（牧野地区）土層断面図

土坑　ＳＫ 22・42

調査区中央で検出された。南北軸の土坑であるが、２基の土坑が南北に続き同軸の溝になる可能性がある。ＳＫ 22 は幅 1.9 ～ 2.4 m、ＳＫ 42 は幅 1.7 ～ 2.2 mを計り、双方の間には掘りこまれずに途切れた部分がある。前後関係は確認できないが、ＳＫ 22 の遺構掘削後にＳＫ 16 ～ 18 が検出された。ＳＫ 42 の底面で南側に方形の掘り込みを検出した。土坑の掘削以前に掘立柱建物などの遺構がある可能性がある。ＳＫ 22 は出土遺物は古代土師器、土製品が、ＳＫ 42 からは古墳須恵器、古代須恵器、古代土師器等が出土した。

土坑　ＳＫ 12

上記のＳＫ 22・42 の中間地点で検出された。古代土師器や古代須恵器、古代瓦などが集中的に出土し、ＳＫ 22 上層に堆積した遺物である可能性があることから、土坑単体として扱う。ＳＫ 12 は幅約 1.5 mの不整楕円状に古代土師器等の小破片が、多量かつ集中している土器だまりである。遺構の形状は不明であるが、完掘時にはＳＫ 12 に続くように落ち込みが連続していた。

溝ＳＤ 03・05

調査区中央で検出された。南北軸の溝で長さ 8.6 m以上、幅 0.7 ～ 1.3 m、深さ 40 ～ 50cm を計る。ＳＢ 01 とほぼ同じ軸で検出された。前後関係は明確ではないが、ＳＢ 01 の後に掘削された可能性が高い。出土遺物は古代須恵器、古代土師器、古代瓦（御亭角式）等が出土している。

溝ＳＤ 101

調査区東側で検出された。南北軸の土坑で、長さ 3.5 m以上、幅 1.5 ～ 1.8 m、深さ約 50cm を計る。南側は住宅の建築等の撹乱により、続きは検出できなかった。断面形状は底面は緩い皿状で、側面はほぼ垂直に立ち上がる。底面にて不整方形の掘り込みを検出したことから、溝掘削以前に柱穴等の遺構が存在したと考えられる。出土遺物は古代須恵器、古代土師器、円面硯、古代瓦などである。

２　出土遺物

ＳＢ01出土遺物

柱穴ＳＫ05出土遺物　ＳＫ05からは、古代須恵器（杯・甕類）、古代土師器、転用硯、古代瓦（平瓦ほか）などが出土している。遺構上面より中世珠洲（擂り鉢）が出土している。

５・６・29は須恵器。５・６は杯Ａである。29は甕の口縁部で、波状文と２条の沈線が施される。10・12～17は古代の土師器。10・12・13・15・16は杯Ａで、いずれも底部は回転糸切り痕が残る。15のみが椀形状を呈す。14は有高台の皿。脚部は外反し、丸く細く収める。17は有高台の椀である。器高・口径も大きく、高台脚部は外反した端部となる。72は古代瓦である。凸面は縄叩き目が残り、離れ砂の使用が認められる。凹面は布目を残し、端部はナデで仕上げられる。81は中世珠洲の擂り鉢。注口部が付近が遺存しており、卸目等は確認できない。

柱穴ＳＫ32出土遺物　ＳＫ32からは古代須恵器、古代土師器が出土している。28は土師器の椀。外面はミガキ調整が確認できる。32は須恵器の蓋。裏面は転用硯として利用され、朱墨が付着している。

土坑・柱穴他出土遺物

土坑　ＳＫ07出土遺物　ＳＫ07からは、古代須恵器が出土している。19は円面硯である。硯面が凸面となる。陸部と海部の間に太い内堤があり、内堤・外堤ともに外上方に短く延びる。脚体部には台形状の透し孔があり、４～６箇所と想定される。８世紀中～後葉に比定される。

土坑・柱穴　ＳＫ09・16・17出土遺物　ＳＫ09からは土製品（土錘）が出土している。31は土錘で、樽状を呈する。ＳＫ16からは、古代土師器が出土している。26は椀もしくは皿Ｂである。ＳＫ17からは古代須恵器が出土している。24は須恵器で内面に墨痕があり、転用硯として利用している。

土坑　ＳＫ22出土遺物　ＳＫ22からは古代土師器、土製品（土錘）が出土している。25は土師器で、底面は回転糸切り痕が残る。30は土錘である。

不明土坑　ＳＫ12出土遺物　ＳＫ12からは古代須恵器、古代瓦、中世越中瀬戸が出土している。20は須恵器の蓋である。裏面に墨痕が付着しており、転用硯として使用している。21～23は須恵器の杯Ｂである。22は墨書土器で、底面中央に「川ヵ」と１文字墨書される。75～76は古代瓦である。75は丸瓦である。黄灰色の焼成良好なもので、凸面はナデで調整され、凹面の側縁部は面取りを行い、その他は布目痕が残る。布目痕には、布のとじ目や模骨痕が残る。76は平瓦である。凸面は縄叩き目と離れ砂の使用が確認できる。凹面の側面はナデ調整、その他は布目が残る。77は瀬戸美濃の小皿。内面（上面）は透明釉がかかり、底面は露胎である。

土坑ＳＫ25出土遺物　ＳＫ25からは古代須恵器が出土している。27は杯Ａである。口縁部にタールが付着しており、灯明に用途に使用されたと考えられる。

土坑ＳＫ42出土遺物　ＳＫ42からは古代須恵器、古代土師器（皿系）等が出土している。39は飛鳥～奈良時代の須恵器の杯Ｈである。33・35・36は須恵器の蓋。いずれも比高が低く、厚みがあり、返しは肥厚で丸く収める。38・40は須恵器の杯。38は杯Ａである。内面に朱墨が付着しており、転用硯として利用している。40は杯であるが、口縁～体部のみで底部を欠損している。37は緑釉陶器である。青灰色の硬陶で、釉は深緑である。41は古代土師器の高坏。杯部内面に暗文が施され、内外面は赤彩される。

柱穴ＳＰ90出土遺物　ＳＰ90からは古代須恵器、古代須恵器が出土している。66は須恵器の円面硯で脚部のみが残る、外堤はに外上方に短く延びる。脚体部の器厚はやや薄く、長方形状の透し孔と考えられ、４箇所以上の透か孔が存在すると考えられる。

溝出土遺物

溝　ＳＤ101出土遺物　ＳＤ101からは、古代須恵器、古代土師器、土製品（円面硯）、転用硯、古代瓦（平瓦ほか）などが出土している。

１～４は古代須恵器。１は杯Ａの墨書土器であり、底面上側に墨痕が確認できる。２～４は蓋であり、３・４は朱墨が付着しており、転用硯として底面が使用される。７・８は硯である。７は特殊円面硯の脚部である。外面は

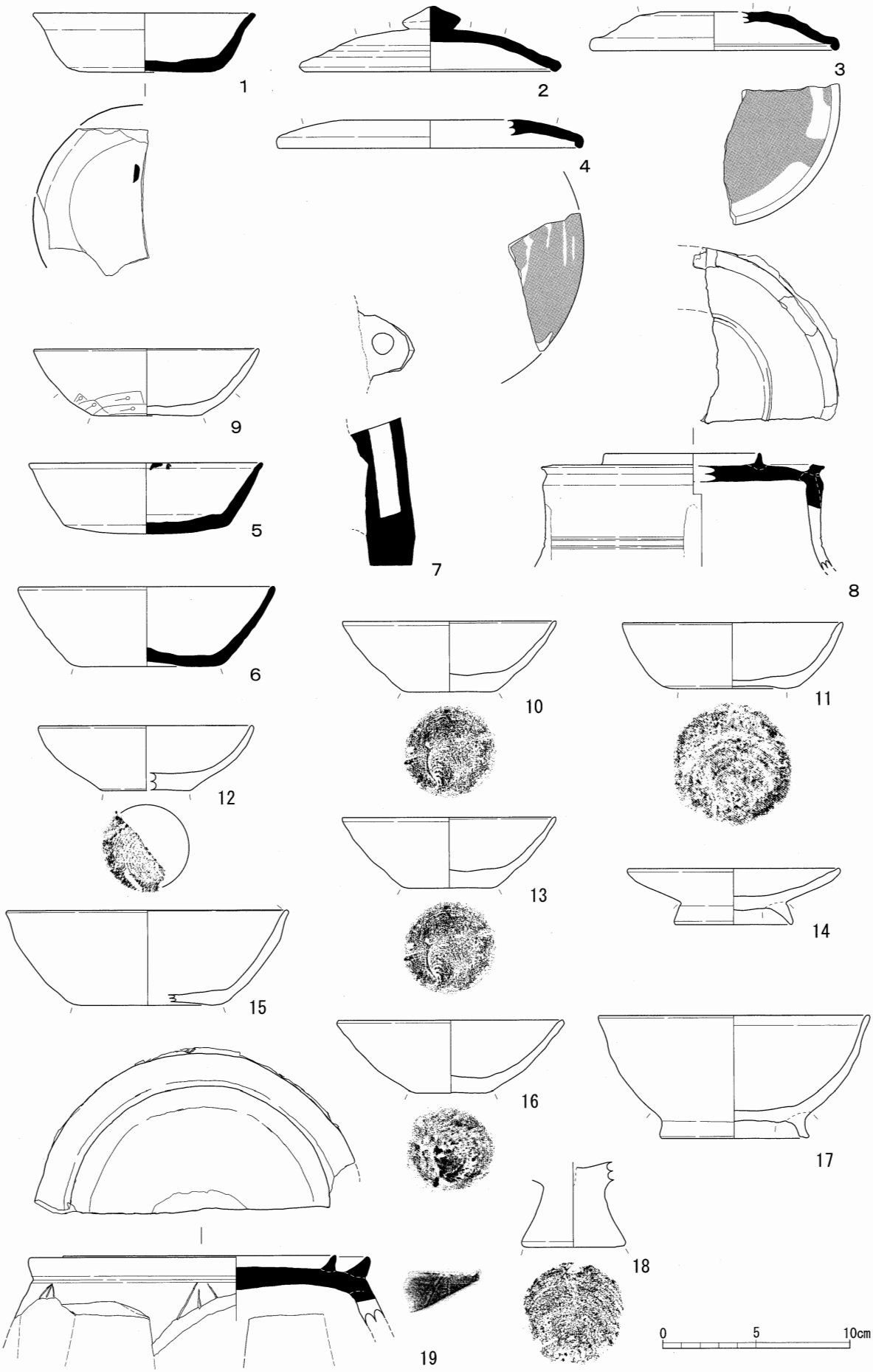
縦に面取りがされ、脚部中央に筆立てと考えられる穴が穿孔される。上面はナデで仕上げる。脚底部全体に自然釉が施釉されることから、脚部を上に向けて焼成している。８は円面硯である。硯面はやや凹面になる。陸部と海部の間に細く上方に延びる内堤があり、外堤は外上方に延びる。脚体部には２条の沈線の文様が付き、細い長楕円状の透かし孔が、直交４箇所にある。９・11・18は古代土師器。９・11は杯Ａである。９は外面底部付近にケズリの痕跡が見られる。11の底部は回転糸切り痕が残る。18は柱状高台のみ残る。69・70・74は古代瓦である。すべて平瓦となる。69・70は焼成良好であり灰色で硬質だが、74は胎土が灰白色で軟質であり、越中国分寺で多く出土するものと類似する。69・70の凸面は縄叩き目が残り、離れ砂の使用が見られる。凹面は布目を残し、布の合わせ目が確認できる。側縁はナデで調整され、双方ともナナメに明瞭に縁取りされる。74は灰白色で焼成が不良な平瓦である。凸面は縄叩き目が残り、離れ砂の使用があり、凹面は布目を残し、布の合わせ目が確認できる。側縁はナデで調整されるが、剥落があり明瞭ではない。

溝　ＳＤ03・05出土遺物　ＳＤ03・05は同一の溝であることから同時に報告する。ＳＤ03・05からは、古代須恵器、古代土師器、古代瓦、中世土師器などが出土している。34は須恵器の蓋である。全体に器高が低く肥厚であり、肥厚な口縁部は下方に収める。土師器は古代と中世の土師器が双方出土した。48は古代に帰属するが、42～45・47は中世に帰属するものである。48は内面のほぼ全てと外面の部分的にススが付着する。42～44は手づくねの中世土師器皿である。45はややや口径が大きいもの、47は御亭角周辺の過去の調査で一定量出土するものである。

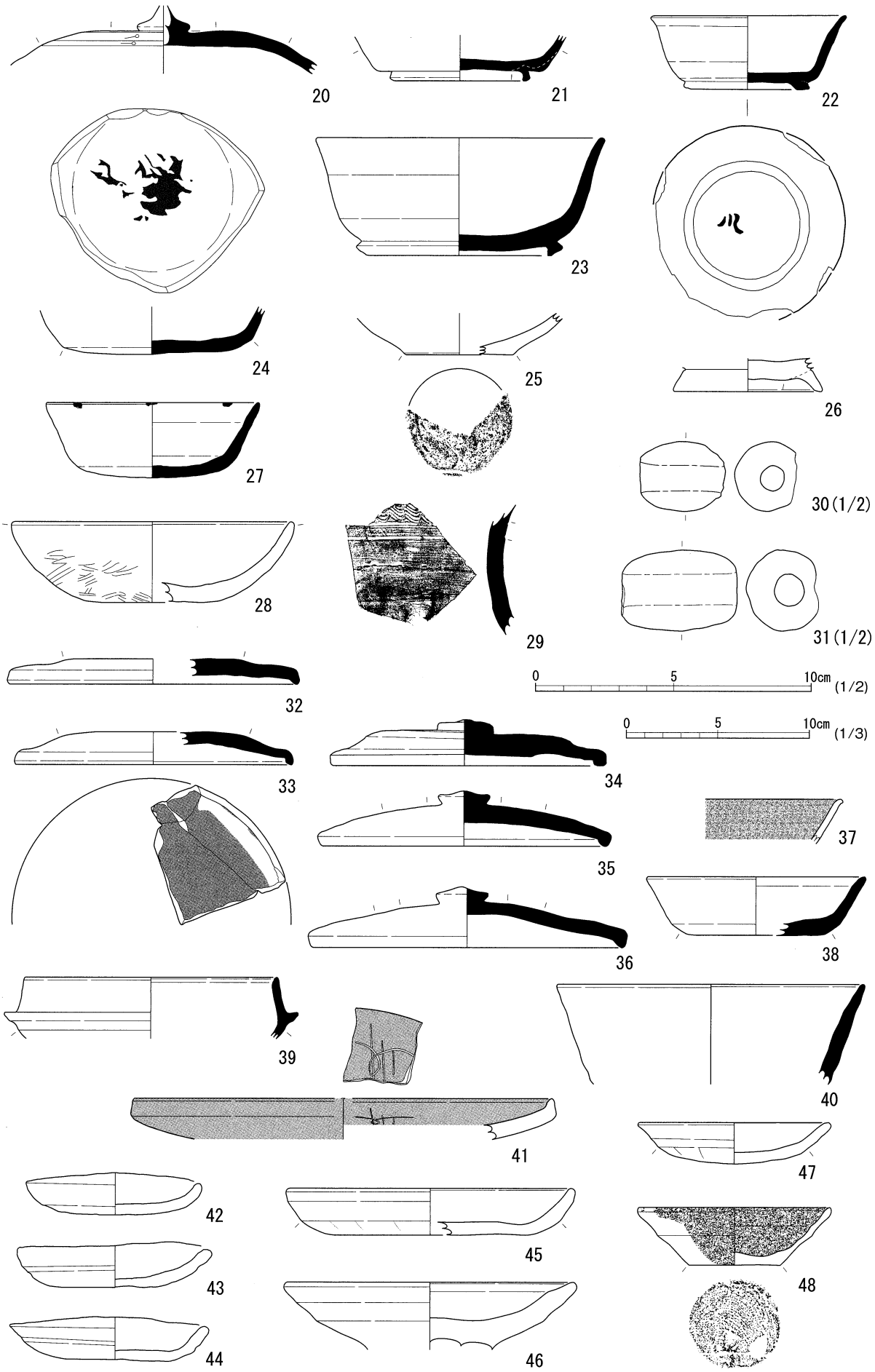
包含層出土遺物

包含層からは古代須恵器、古代土師器、土製品（円面硯）、転用硯等が出土している。

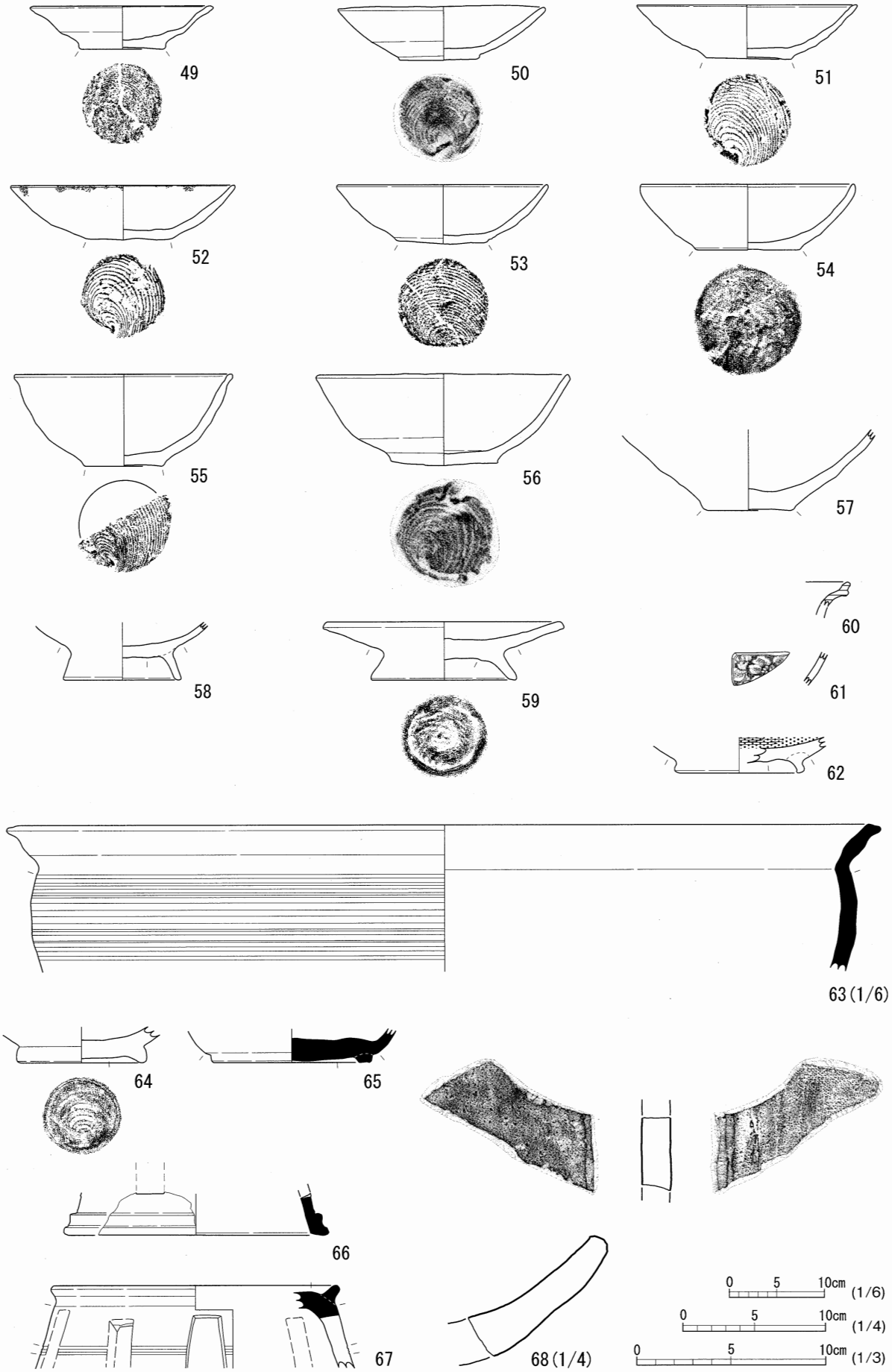
49～56・58・59は古代土師器。49は椀か皿である。底部付近の屈曲部からすぼまり、器厚は薄い。50は椀か皿で明瞭な底部を持ち、直線的に口縁までゆるく立ち上がる。51～54は器高の低い杯Ａ。53・54は底部からやや丸みを持って立ち上がる。52は口縁部の一部にタールが付着しており、灯明具としての使用が想定される。55・56は器高の高い椀で、底部との境が明瞭である。55は椀で、口縁部を上方につまみ上げる。58は足高高台を持つ椀か。59は小皿、回転糸切り痕の残る杯部に高台を貼り付ける。57は土師器である。報告では胎土と立ち上がりの形状から甕とするが、椀の可能性もある。60は灰釉陶器の壺・瓶の口縁部と考えられる。61は青磁の小片。椀か。62は黒色土器の椀Ｂ。内面のみ黒色処理される。63は須恵器の広口の鉢。頸部下をヨコカキメで調整する。64・65は須恵器の杯Ｂ。64は灰色のきめ細かい胎土で高台は丸く肥厚に仕上げられ、回転糸切痕が底部に残る。67は須恵器の円面硯。硯面が欠損しているが、外堤はに外上方に短く延びる。脚体部の器厚は厚く、長方形状の透し孔は８箇所と想定される。８世紀前～中葉に比定される。68は古代瓦である。平瓦と考えられ凸面はナデで調整、凹面は布目痕が残り、布の合わせ目と模骨痕が確認できる。端部調整は側縁と凹面を調整している。



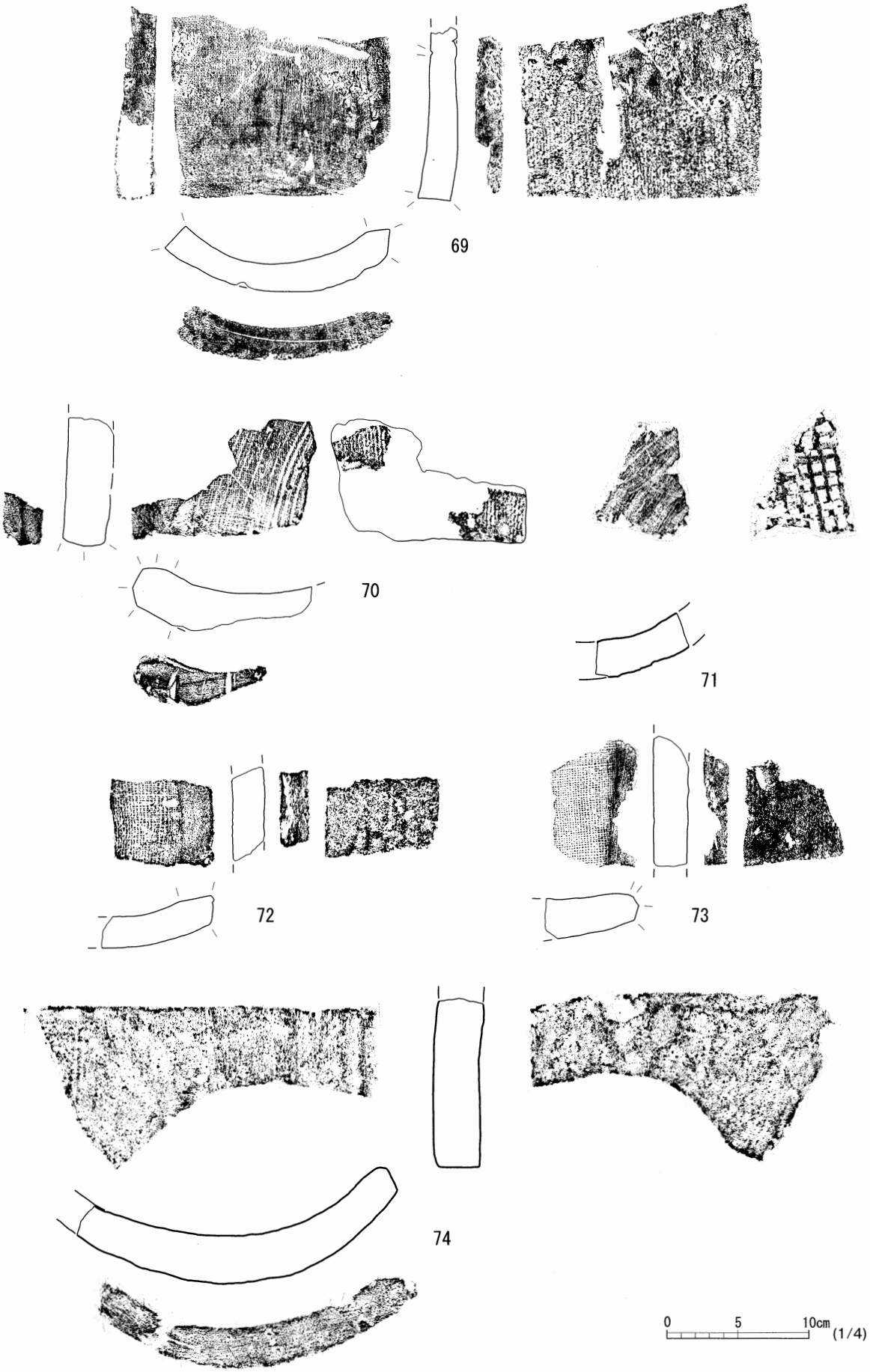
第 11 図　越中国府関連遺跡（牧野地区）遺物実測図（1）



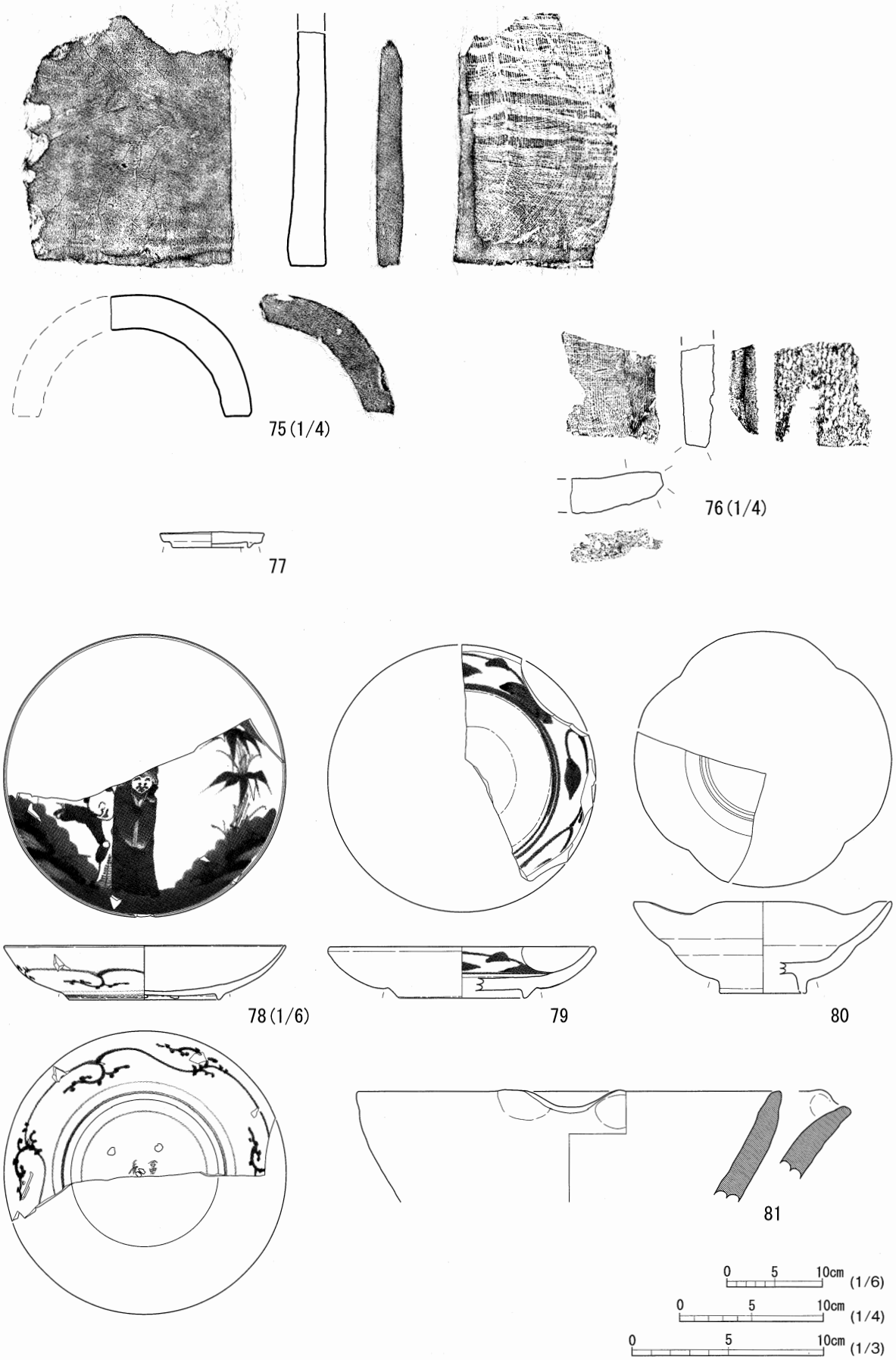
第 12 図　越中国府関連遺跡（牧野地区）遺物実測図（２）



第13図　越中国府関連遺跡（牧野地区）遺物実測図（3）



第 14 図　越中国府関連遺跡（牧野地区）遺物実測図（４）



第 15 図　越中国府関連遺跡（牧野地区）遺物実測図（５）

第５節　総括

１　掘立柱建物の検討

（１）過去に検出された掘立柱建物群との検討

牧野地区で検出された掘立柱建物群と勝興寺南接地区（以下南接地区）、伏木測候所地区（以下測候所地区）で検出されたものと比較検討してゆく。東西軸の南接地区ＳＢ01・ＳＢ03と南北軸の牧野地区ＳＢ01は、建物の軸がほぼ同軸である。柱穴の平面規模と柱間は南接地区ＳＢ01と同様である。また牧野地区ＳＢ01は西側に通る柱穴がなく、廂状の柱通りと考えられる。その他、南接地区で検出された同軸の掘立柱建物は牧野地区では確認できないが、西側の市道側に広がる土坑・柱穴群に所在する可能性がある。測候所地区ＳＢ01は真北に対して東に約６度偏っているものの、柱穴の平面規模は牧野地区ＳＢ01と同等である。建物の時期に関しても、真北を軸とした牧野地区ＳＢ01は８世紀前半以降に帰属することが判明した。

（２）　調査区東側の土坑・柱穴について

調査区東側で多く検出された小規模な遺構の特徴を述べておく。径約40cm以上のものについては、深さを伴うものが多く（ＳＰ35など）、それ以下の平面プランのものはおおむね約20～30cmの深さとなる傾向がある。前述したＳＢ02・03の関わる柱穴は柱通りが悪いものの、深く明確な掘り方を呈す。いずれも柱穴から遺物は確認できないため、帰属時期は判断できなかった。そのため、古代末から中世にかけての掘立柱建物が存在すると考えられる。

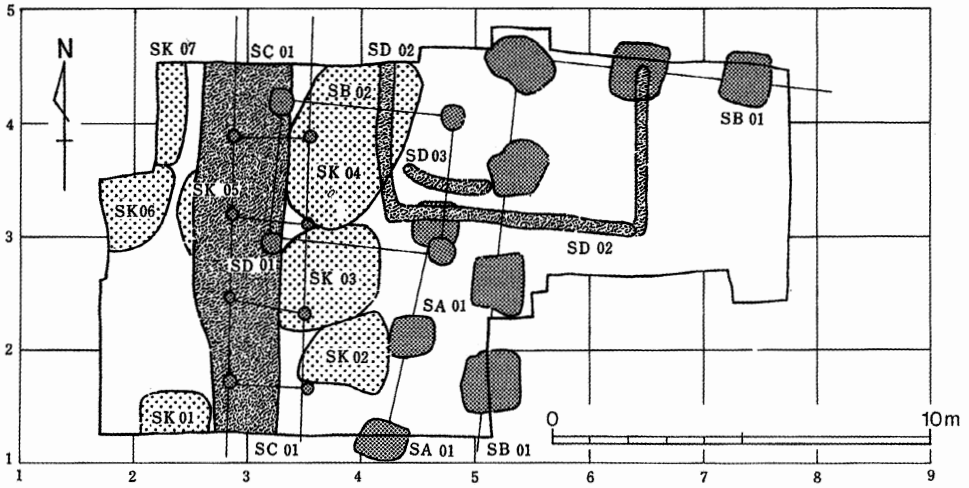
（３）　掘立柱建物・柱穴の検討

古代に帰属する掘立柱建物の柱穴の構造については、礎石は検出されず、根石等も見つかっていないことから、基礎固めの構造は持たない可能性がある。掘り方中央に柱痕が残されたものが多くあり、牧野地区ＳＢ01の柱穴のの多くから、ＳＢ01の柱穴の多くで柱の沈下した”あたり”の窪みが確認できる。建て替えが確認されるのは調査区西側と中央北側である。切り合いの関係から、少なくとも２～３時期の建物変遷が考えられる。

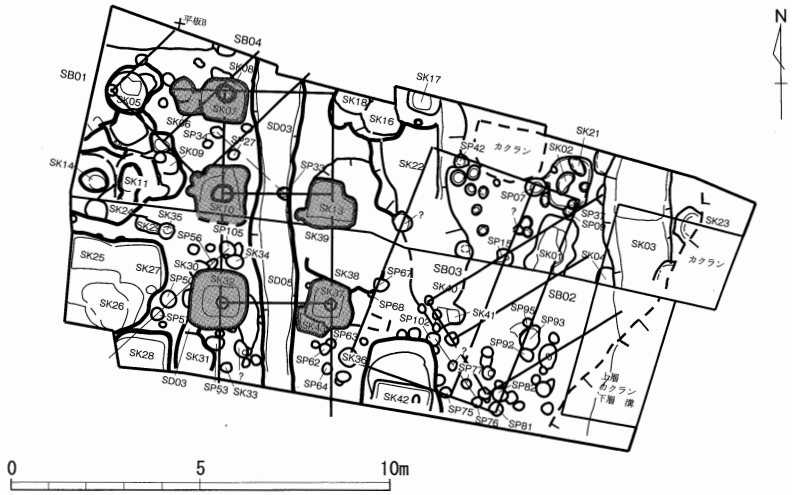
構造の関連として、近隣の昭和41年に実施された御亭角遺跡の発掘調査で砂岩などの小石や堅化面が報告されている（富山県教委1967）。これらは、牧野地区で見つかった隅丸方形状の平面形状を呈する建物の柱穴の構造と平面形状や掘り方が類似していることから、根固めの構造も今後注意して調査してゆきたい。

（４）　遺構の時期と特徴

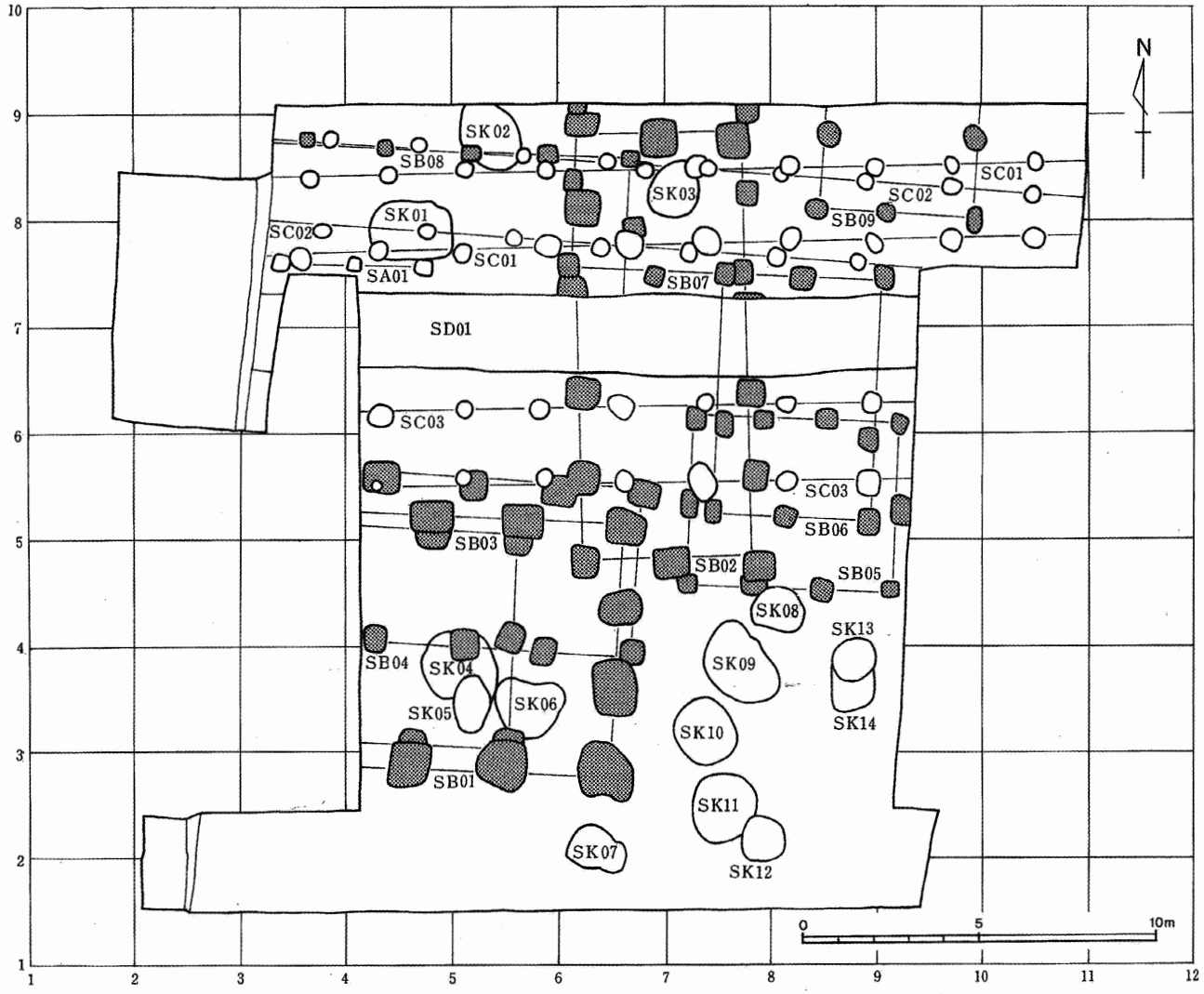
古代前半の遺物が出土する大型の掘立柱建物と、古代後半に帰属する小規模な掘立柱建物群に大別される。古代前半の建物群は、牧野地区ＳＢ01の帰属時期から８世紀代のものと考えられる。これらの建物は古代瓦の出土量も少なく、かつ小破片のみが出土している。加えて伏木小学校所蔵の旧東館遺跡遺跡にて表採された瓦類は全て丸瓦であり、牧野地区の平瓦が主体であった傾向とは異なる。結果として、瓦葺きの建物である可能性は低い。



第16図　伏木測候所地区遺構配置図（1／200）



第 17 図　牧野地区遺構配置図（1 ／ 200）



第 18 図　勝興寺南接地区遺構配置図（1 ／ 200）

建物の切り合いは明確ではないが、牧野地区ＳＢ 01 とほぼ同軸の溝が存在する。牧野地区ＳＤ 03・05 からは古代～中世の遺物が出土していることから、牧野地区ＳＢ 01 の後に、溝ＳＤ 03・05 が掘削された可能性が高い。

２　出土遺物の検討

（１）　出土遺物について

牧野地区出土の遺物は、６世紀後半（ＴＫ 47 ～ＭＴ 15 併行）、古代（８世紀前半～）、中世（12 ～ 14 世紀）、近世以降の遺物が出土している。６世紀後半の遺物は１点のみであり、混入と考えられる。古代の遺物は、８世紀中葉以降の遺物が少量出土し、その後９世紀後半から 10 世紀代まで継続的に遺物が確認できる。古代遺物の比率は、土師器の出土量が多く、須恵器は少量に留まる。調査区東側のＳＫ 03 のように、遺物の流れ込みが確認できる溝でも同様の傾向が指摘できる。中世の遺物は 12 ～ 14 世紀の幅で出土する。ほぼ完形の土師器皿も出土することから、牧野地区の周辺に中世前半の政治拠点や集落、また古府八幡神社に関係する拠点等の存在が推定される。近世以降は調査区東側の撹乱に瓦類が厚く堆積していた。

（２）　出土した硯類について

牧野地区で出土した硯類は、円面硯が５点以上出土した。風字硯は確認できない。円面硯の内訳は８世紀前半以前のものが１点、８世紀代のものが２点出土するなど古代前半が中心となる。うち、７は筆立ての穴が脚の部分に確認でき、同じ構造を持つものとして、富山市西金屋窯跡出土の例がある。19 はＳＢ 01 の柱穴の掘り方から出土していて、射水市小杉丸山遺跡から出土するものに類似する。67 は８世紀前半のものと考えられる。須恵器・杯蓋等を転用した転用硯は最低でも８点以上出土しており、４点を図示した。そのうち、朱墨が付着していたものは４点以上であり、黒色の墨に匹敵する数が出土していることが特筆できる。また、墨書土器も出土したことから、文書事務が付近で行われていたことを指摘したい。

３　古代の掘立柱建物の特徴など

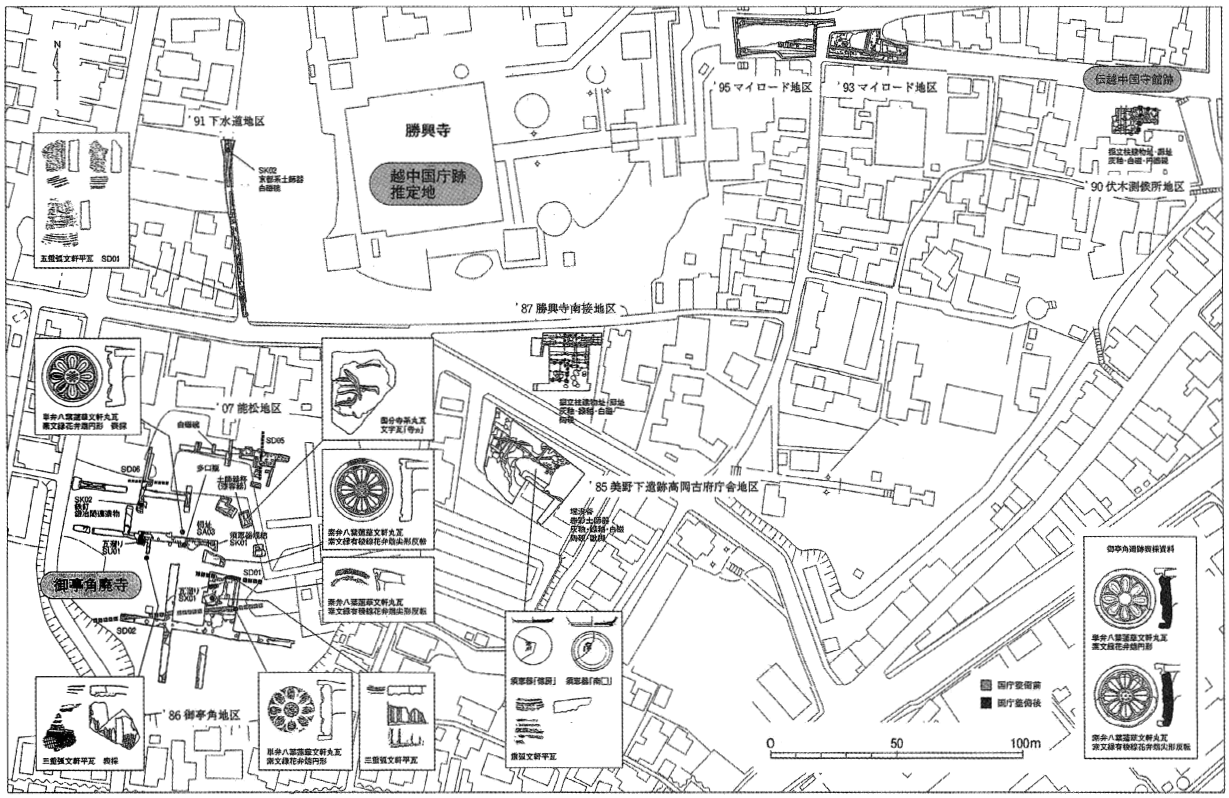
牧野地区の発掘調査の結果、勝興寺南部から東部にかけて、掘立柱建物が広がることが確実となった。この地域の旧遺跡名は東側は東館遺跡、南側の御亭角遺跡・廃寺であった。この周辺では古代土器類や古代瓦が多く採集され、特に御亭角周辺では、御亭角式と国分寺式の双方の瓦が多量に見つかっていた。

出土遺物の傾向から見ると、南接地区・牧野地区・測候所地区３箇所ともに共通して、瓦の出土が少なく、硯が一定量出土することが挙げられる。また、高級陶器類（緑釉陶器・灰釉陶器ほか）も一定量の出土があることも共通する。いずれも墨書土器の出土例が少なく各地区の遺構の性格は把握できないが、硯の出土数から勘案すれば文書事務をこれらの建物周辺で行われていた可能性は高い。建物との切り合いは明確ではないが、牧野地区ＳＢ 01 とほぼ同軸の溝が存在する。牧野地区ＳＤ 03・05 からは古代～中世の遺物が出土している。牧野地区ＳＢ 01 の存続時期に遅れて、ＳＤ 03・05 が掘削された可能性が高い。本報告の作成にあたり、伏木小学校所蔵の遺物の実見にご協力いただいた、遺物を採集された古岡英明氏と高岡市立伏木小学校の関係者の皆様に、深い感謝を申し上げます。

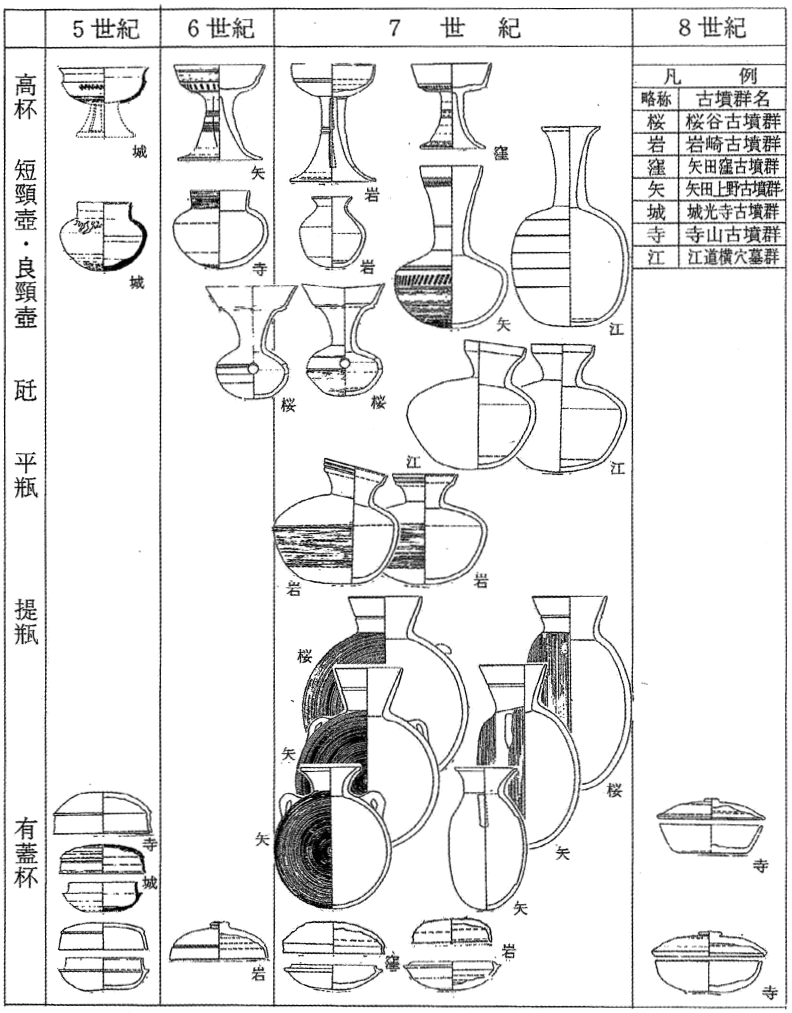
	調査地点	古代の遺構	御亭角系瓦	国分寺系瓦	円面硯	風字硯	墨書土器等	緑釉陶器	灰釉陶器	白磁	赤彩土師器	黒色土器	製塩土器	備考	文献
1	美野下遺跡（古府庁舎）	（2次堆積・堆積谷）	●	●	★	●	●	★	★	★	★	●			市教委1986
2	勝興寺南接地区	掘立・柵・廊跡・溝		●	●			★	●	★	●	●	●	大型建物有	市教委1988
3	勝興寺境内地			○										国衙推定地	古岡・西井1987
4	下水道古府串岡枝線地区	溝	●	●							●	●			市教委1994、内田2002
5	伏木測候所地区	掘立・柵			●				●	●		●	●		市教委1991
6	伏木古府５号線2地区		●	●						●					市教委1996
7	牧野地区	掘立・溝	●	●	●		●	●	●	●	●	●		大型建物有	本書
8	御亭角遺跡（廃寺）	土坑・溝	★	★			●	●	●	●	●	●		丸鞆出土	県教委1967、古岡・西井1987 市教委2009・2010
9	越中国分寺跡（周辺含）	土坑（根石）、溝		★			●					●		鉄製品出土	県教委1967、古岡・西井1987 市教委2003
10	寺山遺跡（氣多神社）	溝		●										懸仏出土	古岡・西井1987、市教委2012

★発掘調査で多量に出土するもの　●発掘調査で確認できるもの　○表採・伝世品があるもの

表３　遺構が検出された調査地点における出土遺物組成



第 19 図　勝興寺周辺の調査地点と成果（高岡市教委 2008）



第 20 図　伏木台地付近の古墳～古代須恵器（高岡市 1988）

Eボーリング中央掘方（南より）

Cトレンチとその遺構（北より）

第 21 図　昭和 41 年　通称御亭角発掘調査遺構検出状況（富山県教委 1967）

その他の試掘調査区

第３章　その他の遺跡調査

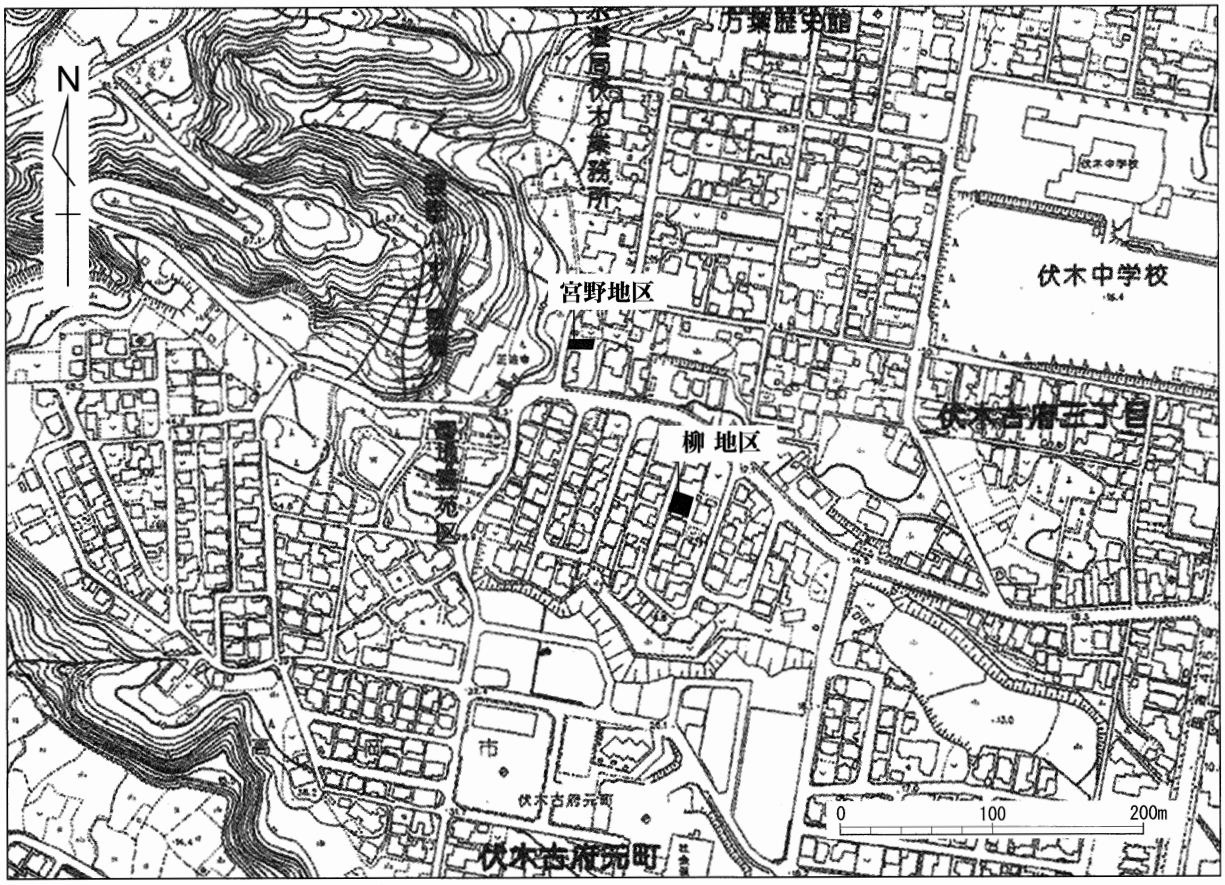
１．越中国府関連遺跡（柳地区・宮野地区）

	柳地区	宮野地区
所 在 地	高岡市伏木古府３丁目 12-10	高岡市伏木古府３丁目 14 番８外
調査期間	平成 25 年４月９日	平成 26 年２月７日
対象面積	255.32 ㎡	227.26 ㎡
試 掘 坑	２本	１本
発掘面積	2.44 ㎡	27.88 ㎡
調査原因	個人住宅建設	個人住宅建設
検出遺構	なし	なし
出土遺物	なし	古代須恵器１点

調査概要

柳地区、宮野地区は旧一宮村に所在し、小字「熊野」に比定される。東側に赤坂谷があり、谷地形に向かって標高が低くなる。

柳地区の試掘調査は２箇所のトレンチを設定し、地下の状況を把握したところ、遺構・遺物ともに検出できなかった。宮野地区の試掘調査は１箇所のトレンチを設定し、地下の状況を把握したところ、遺構は検出されず、遺物は須恵器・杯Ｂが１点出土した。遺物の破片が大きいことから、付近に遺構が存在する可能性がある。



第 22 図　越中国府関連遺跡（柳地区・宮野地区）調査区位置図

２．西佐野千代遺跡（林地区）

所 在 地　高岡市佐野 468 番２、468 番４～５、469 番２

調査期間　平成 25 年４月 18 日

対象面積　484.91 ㎡

試 掘 坑　１本

発掘面積　３㎡

調査原因　個人住宅建設

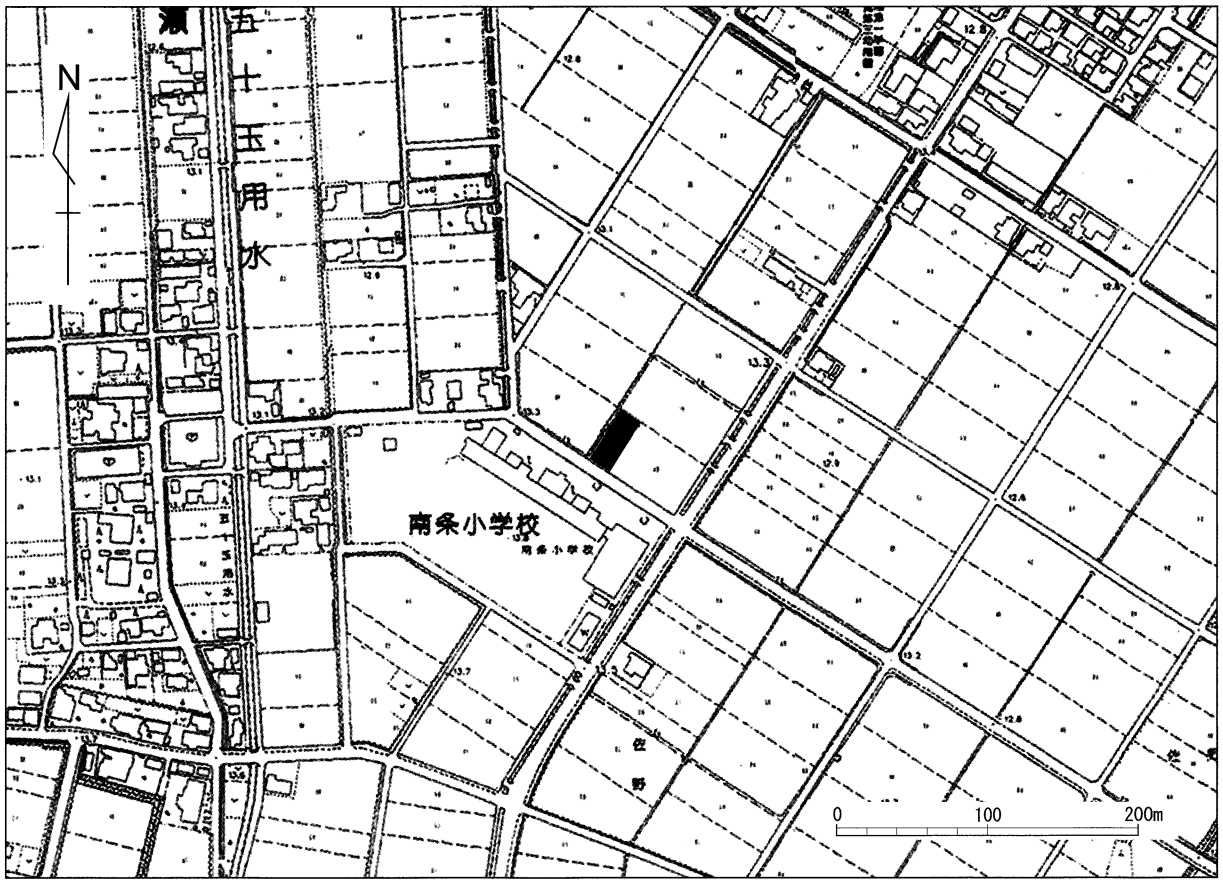
検出遺構　なし

出土遺物　なし

調査概要

西佐野千代遺跡は、東木津遺跡や下佐野遺跡の南西に位置し、弥生時代中期から古墳時代前期をはじめとする遺跡である。松崎地区では、多くの弥生時代から古墳の遺構の検出があり、遺物も多く出土している（高岡市教委 2011a）。佐野台地北側に広範に広がる遺跡群の１つと考えられる。

今回の調査対象は、同遺跡の西側の隣接地に位置する。試掘調査は１箇所のトレンチを設定し、地下の状況を把握したところ、遺構・遺物ともに検出できなかった。



第 23 図　西佐野千代遺跡（林地区）調査区位置図

３. 百橋宮田遺跡（東地区）

所 在 地　　高岡市五十里東町 84 番

調査期間　　平成 25 年５月 16 日～ 17 日

対象面積　　263.45 ㎡

試 掘 坑　　１本

発掘面積　　16.3 ㎡

調査原因　　個人住宅建設

検出遺構　　中世井戸１基、時期不明土坑２基

出土遺物　　縄文土器、弥生土器、古代須恵器、珠洲擂り鉢、青磁、中世土師皿、時期不明土師器、
　　近世肥前陶磁器

調査概要

百橋宮田遺跡は、小矢部川左岸に位置する。小矢部川が蛇行して形成された微高地上に所在する。現在まで明確な調査歴がなく、分布調査を除けば今回が初の埋蔵文化財調査である。

本地点は北側隣接地に位置し、須田藤の木遺跡と本遺跡の間に所在する。試掘調査は２本のトレンチを設定し、地下の状況を把握したところ、現地表面下約 10cm 前後の地点にて遺構確認面に同を検出した。遺構は、中世井戸１基と時期不明土坑２基を検出した。中世井戸は木枠を持つ縦板組のもので、掘り方長軸 1.35 m、短軸 1.0m、井戸枠は長軸 0.8 ～ 0.9m 程度、深さは 0.5m 以上確認した。遺物は珠洲（吉岡編年Ⅱ期）、青磁、中世土師器が出土し、おおむね 13 ～ 14 世紀に帰属する。調査結果より、中世の集落が遺跡北側に広がることが判明した。

第 24 図　百橋宮田遺跡（東地区）調査区位置図

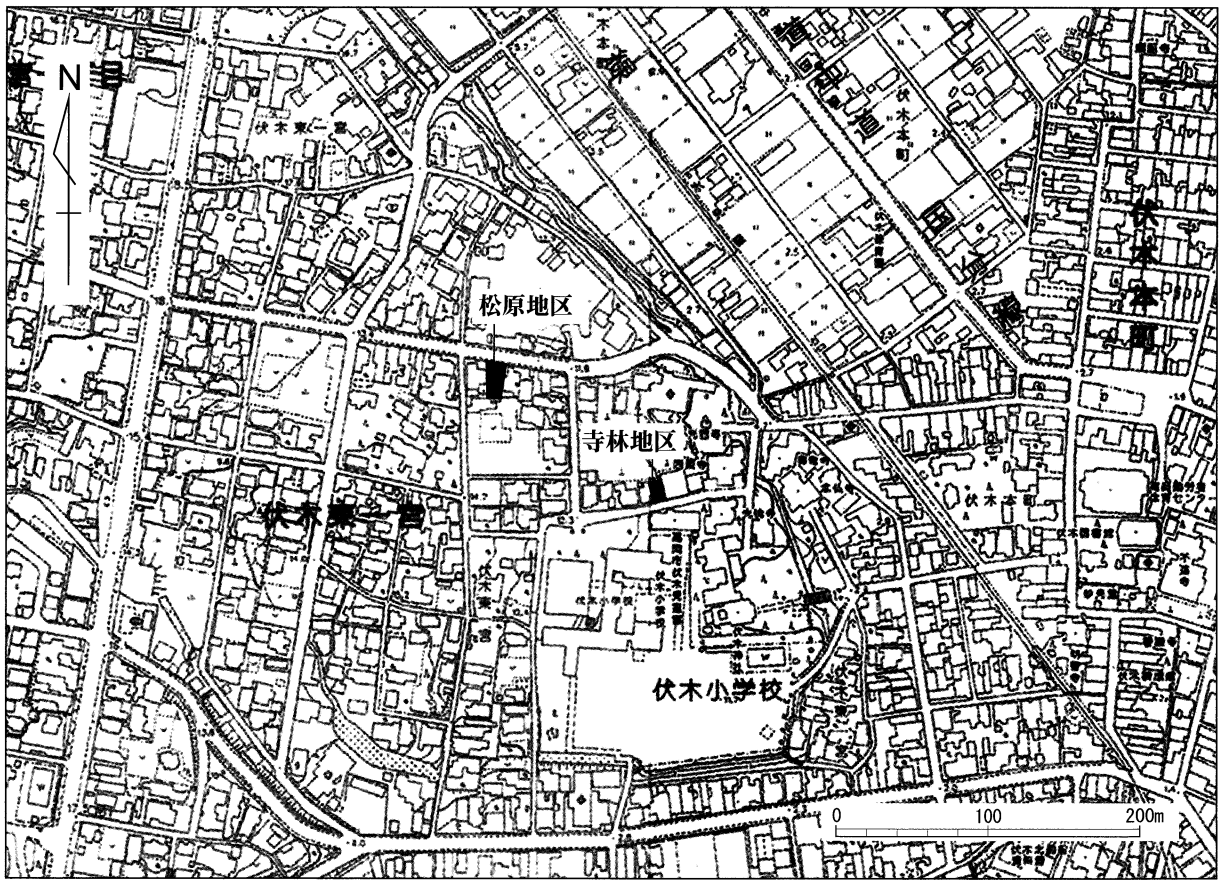
４．越中国府関連遺跡（松原地区・寺林地区）

	松原地区	寺林地区
所 在 地	高岡市伏木東一宮 1020	高岡市伏木東一宮 366- 3
調査期間	平成 25 年５月８日	平成 25 年６月６日～７日
対象面積	104.35 ㎡	80.12 ㎡
試 掘 坑	１本	１本
発掘面積	2.25 ㎡	3 ㎡
調査原因	個人住宅建設	個人住宅建設
検出遺構	なし	なし
出土遺物	なし	なし

調査概要

松原地区、寺林地区は旧一宮村に所在し、小字「山崎」「徐貝」に比定される。東側は小矢部川河口であり、東に向かって標高が低くなる。付近で過去に試掘調査を数回実施しているが、遺構・遺物は確認されていない。

松原地区の試掘調査は１箇所のトレンチを設定し、地下の状況を把握したところ、遺構・遺物ともに検出できなかった。寺林地区の試掘調査は１箇所のトレンチを設定し、地下の状況を把握したところ、遺構・遺物ともに検出できなかった。



第 25 図　越中国府関連遺跡（松原地区・寺林地区）調査区位置図

５．石塚遺跡（戸出高岡線地区）

所 在 地　　高岡市石塚 253 外９筆

調査期間　　平成 25 年５月 20 日～ 21 日

対象面積　　706.75 ㎡

試 掘 坑　　２本

発掘面積　　約 20.4 ㎡

調査原因　　道路建設

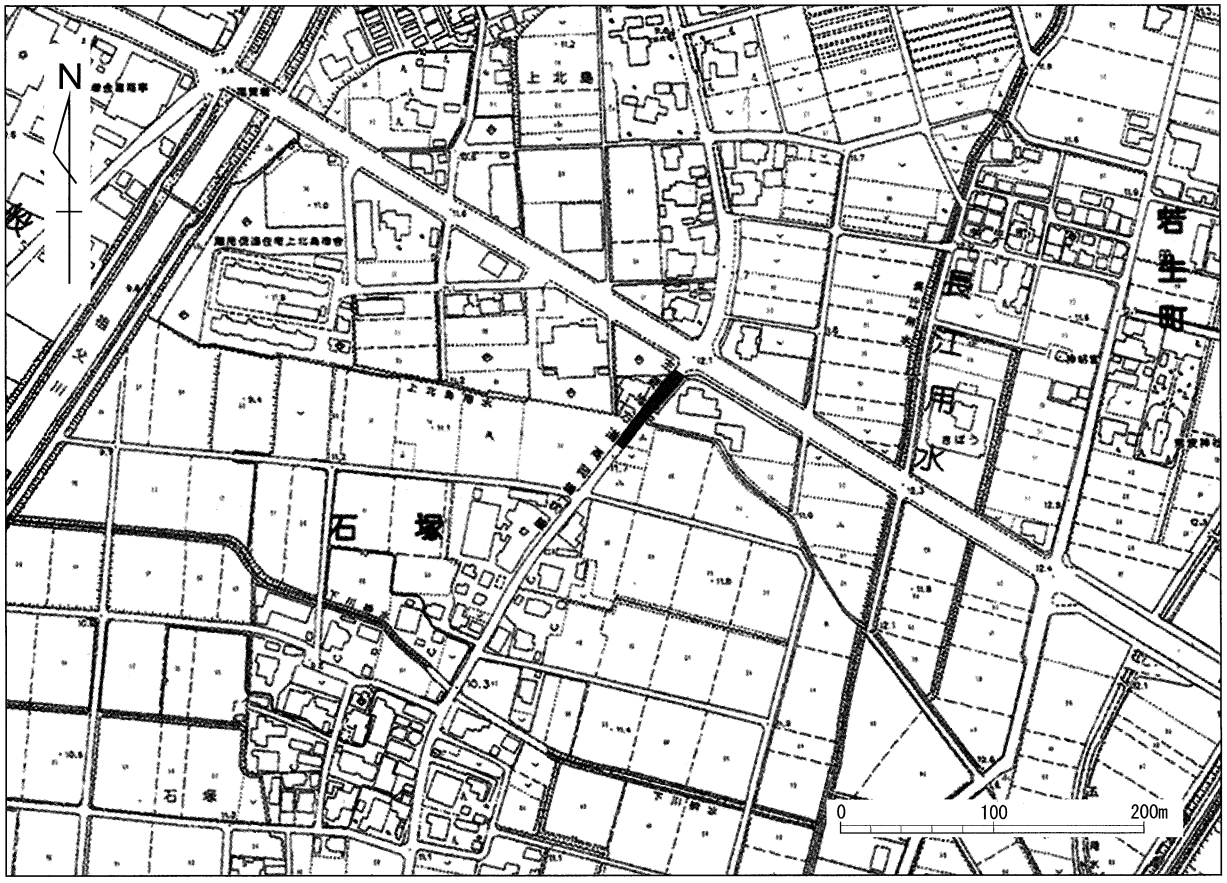
検出遺構　　ピット４基

出土遺物　　なし

調査概要

石塚遺跡は、庄川が形成した扇状地の端部、佐野台地の辺縁部にあたる。遺跡の東側には和田川、西側には祖父川が流れ、微高地上に位置する。当遺跡は弥生時代の集落遺跡として、県西部において代表的な遺跡として知られる。

調査対象地は北東端に位置し、石塚江之戸遺跡と隣接する。対象地に計２本のトレンチを配し地下の状況把握につとめ、現地表面下約 90 ～ 110cm、標高 10.7 m程度で遺構面を検出した。遺構はピット４基が検出された。出土遺物はなかった。



第 26 図　石塚遺跡（戸出高岡線地区）調査区位置図

６．上二上遺跡（二上・守山統合保育園地区）

所 在 地　高岡市二上町 1014- 1、1014- 2、1015、1016- 1、1016- 2、1017- 1、1105- 1、1106- 1、1106- 2

調査期間　平成 25 年６月３日～４日

対象面積　6,675 ㎡

試 掘 坑　3 本

発掘面積　186 ㎡

調査原因　保育園建設

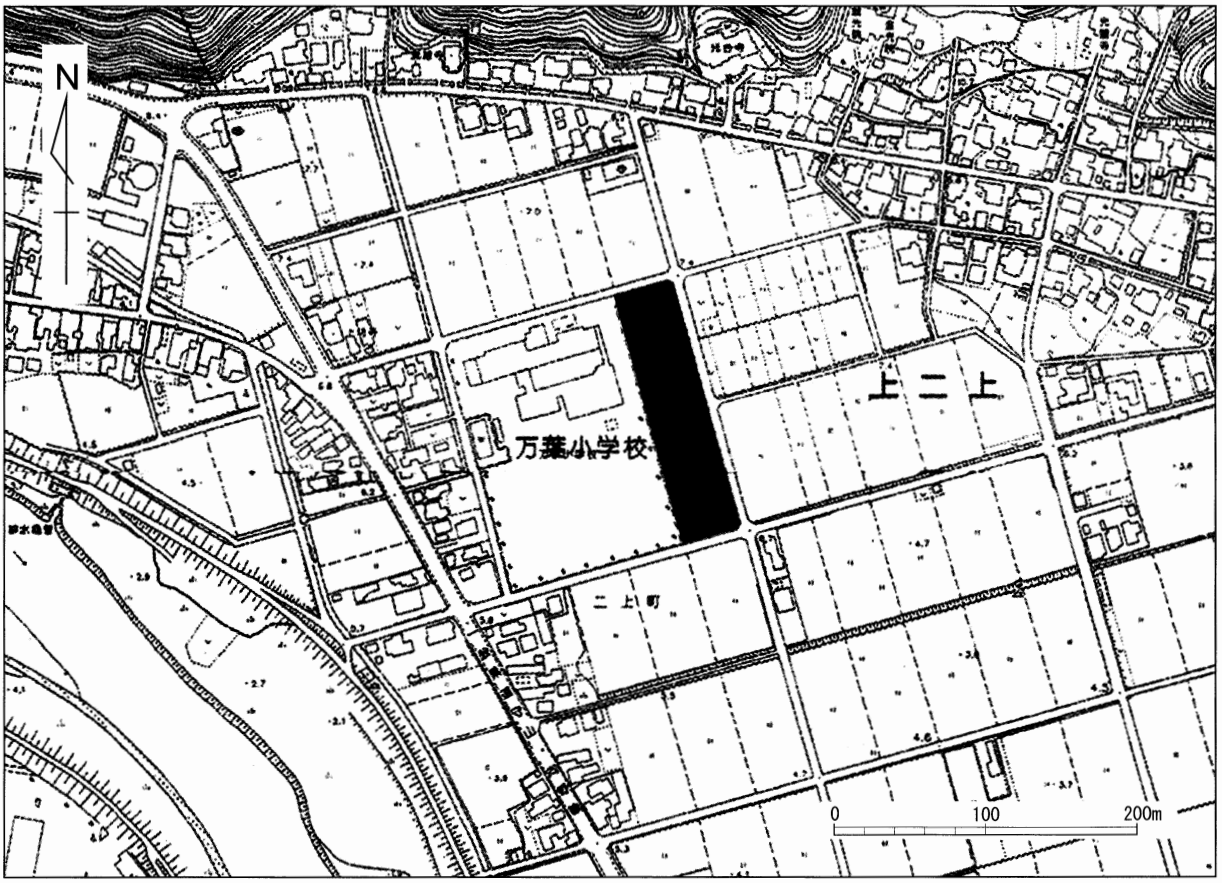
検出遺構　なし

出土遺物　縄文土器、弥生土器、古墳土師器、古代須恵器、近世陶器、時期不明土師器

調査概要

本遺跡は二上山麓の小矢部川左岸に位置する。近隣地区では明確な遺構は見つかっていないが、古墳時代から中世の遺物が出土している。

試掘調査は３本のトレンチを設定し、地下の状況の把握につとめたところ、現地表下約 20cm で地山を検出した。検出遺構はなかったが地形の落ち込みが認められた。遺物は、主に古墳土師器が多く出土しており、落ち込みからは縄文土器や弥生土器などの古い時代の遺物が一定量出土している。



第 27 図　上二上遺跡（二上・守山統合保育園地区）調査区位置図

7．守護町遺跡（シーケー金属地区）

所 在 地　高岡市守護町二丁目242番、243番１、243番２、243番３、243番４

調査期間　平成25年６月13日～14日

対象面積　1,424㎡

試 掘 坑　２本

発掘面積　67.3㎡

調査原因　駐車場建設

検出遺構　なし

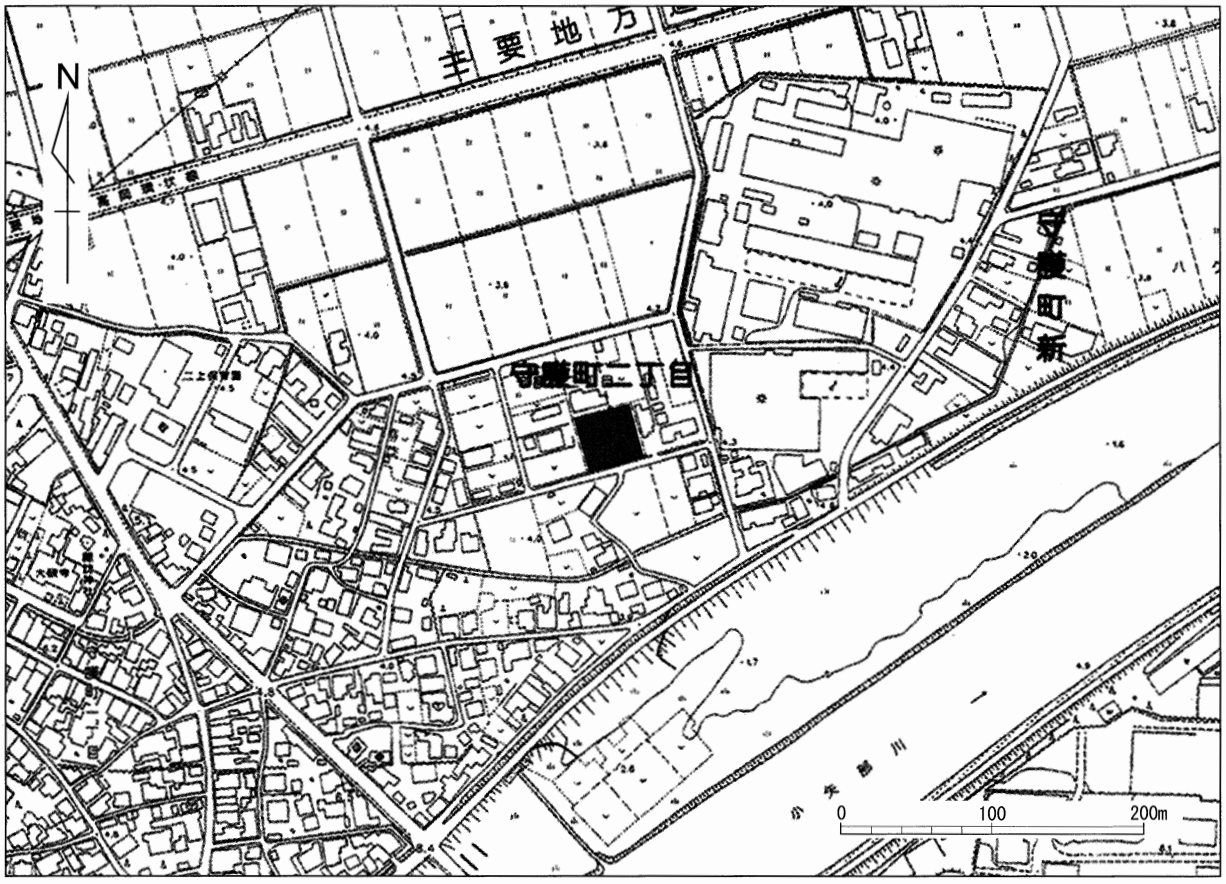
出土遺物　なし

調査概要

本地点は遺跡の南端に位置する。過年度の調査歴では、遺構・遺物ともに検出されていない。

対象地に試掘坑を２箇所設定し、地下の状況の把握したところ、掘削した２箇所の試掘坑からは遺構は検出されず、遺物は出土しなかった。

北側に設定した第１トレンチでは、全体に盛土が高く積まれていることを確認した。トレンチ端部で深堀をかけたところ、地表面下約130～140cm、標高約2.7ｍにて灰色の小礫を含む河川堆積物を検出した。南側に設定した第２トレンチでは、地表面下約120cmまで掘り下げたところ、盛土が更に続くことを確認した。



第28図　守護町遺跡（シーケー金属地区）調査区位置図

８．中木津遺跡（山本地区）

所 在 地　　高岡市木津 895- ２　外６筆

調査期間　　平成 25 年７月１日

対象面積　　860 ㎡

試 掘 坑　　１本

発掘面積　　30 ㎡

調査原因　　個人住宅建設

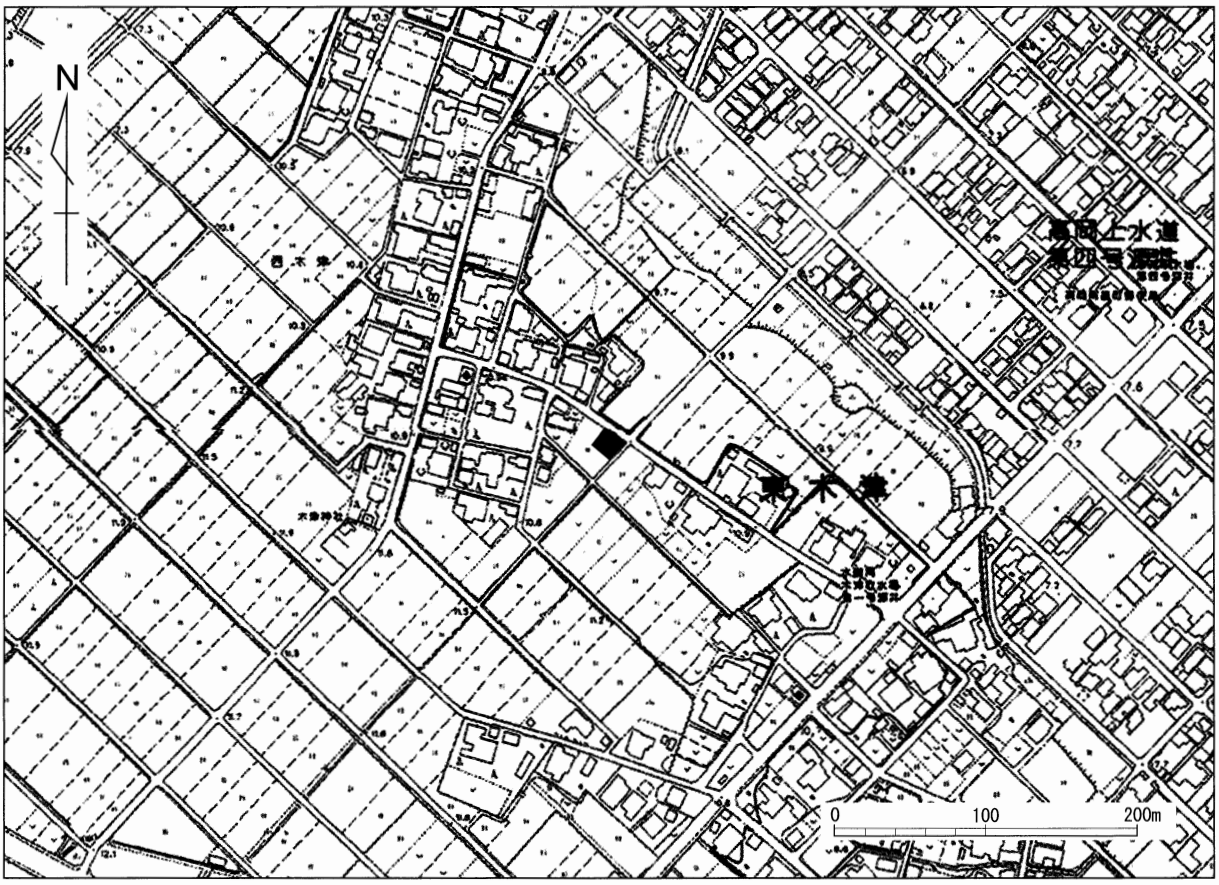
検出遺構　　溝２条

出土遺物　　珠洲小片、中世土師器、時期不明土師器

調査概要

本地点は、本遺跡の東端に位置する。平成 21 年度より高岡市教委による区画整理に伴う本調査が実施され、古代～中世の掘立柱建物など集落が検出されている（高岡市教委 2014b）。

試掘調査は１本のトレンチを配し、地下の状況の把握につとめたところ、現地表面下約 40 ～ 50cm 付近で遺構面を検出した。遺構は溝２条検出し、遺物は珠洲小片、中世土師器、時期不明土師器が出土した。いずれも中世～近世の遺物であり、遺物の破片が小さいことから流れ込みの遺物と考えられる。



第 29 図　中木津遺跡（山本地区）調査区位置図

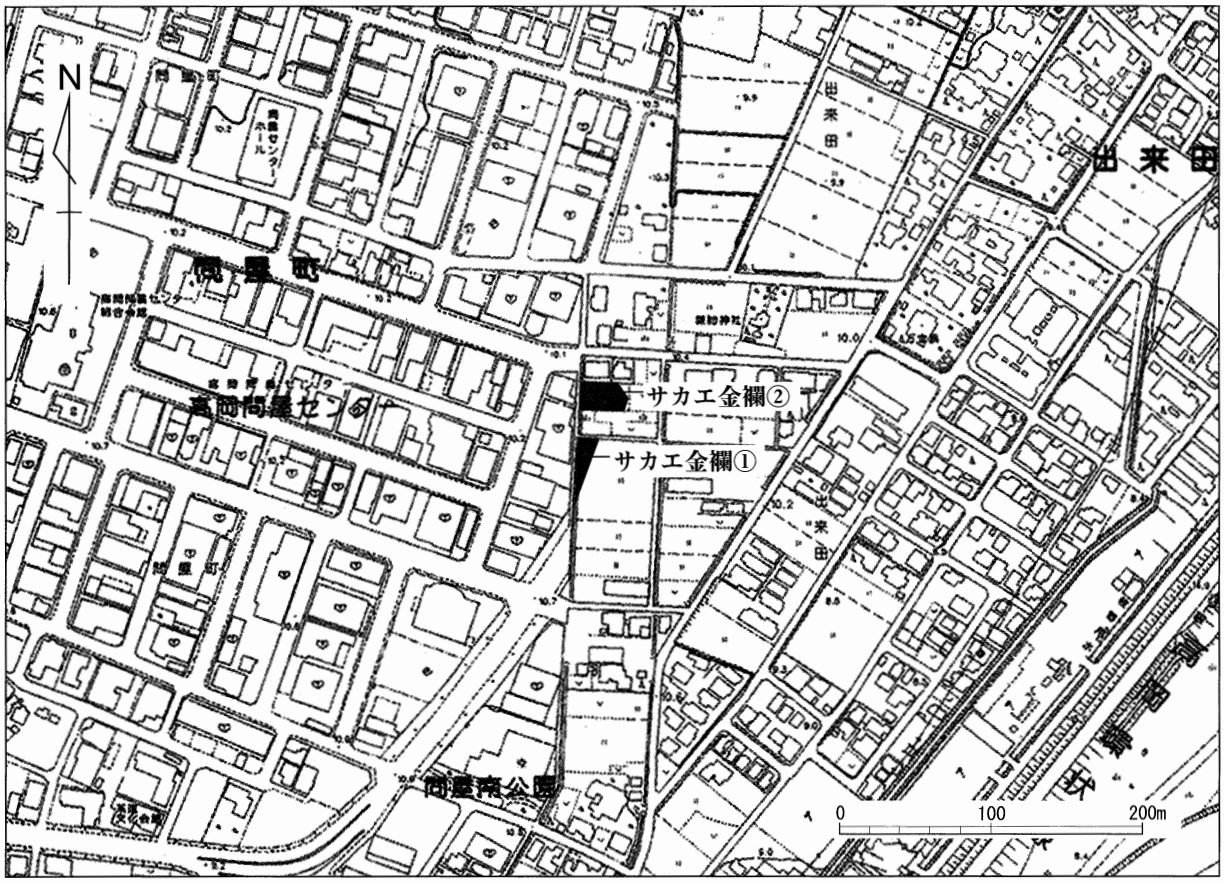
９．出来田南遺跡（サカエ金襴１地区・２地区）

	サカエ金襴１地区	サカエ金襴２地区
所 在 地	高岡市出来田 137- ４、138- ４、139- ４	高岡市出来田 230 番
調査期間	平成 25 年７月 19 日	平成 25 年７月 22 日
対象面積	414.81 ㎡	471 ㎡
試 掘 坑	１本	１本
発掘面積	約 32 ㎡	44 ㎡
調査原因	駐車場建設	駐車場建設
検出遺構	掘立柱建物２棟以上、土坑６基、柱穴 28 基、溝５条ほか	
出土遺物	縄文土器（時期不明）、古代須恵器（杯・蓋・甕）、古代土師器（杯・煮炊具）、黒色土器（椀）、赤彩土師器、中世珠洲、中世土師器皿、時期不明土師器	

調査概要

本地点は遺跡の北西に位置する。本遺跡は古代～中世の集落跡とされ、遺跡中央～南側にて遺構・遺物が確認されている。特に、県道能町・庄川線とその周辺では、古代集落と文字資料が多く出土している。庄川と和田川の合流地点左岸に位置し、古代の東大寺領荘園の関連も指摘される地点である。(高岡市教委 2000)。

そのうちサカエ金襴２地区では対象地に試掘坑を１箇所設定し、地下の状況の把握したところ、地表面下約 30～ 40cm にて遺構面を検出した。遺構は、東側に多く検出された。明確な掘立柱建物は確認できないが、掘立柱建物の存在が推定される。径１m程度の土坑もあり、近隣の調査区に続く遺構群の広がりがある。溝は北西―南東軸のものが多く検出された。遺物は古代須恵器（杯Ａ・Ｂ、蓋、甕）、古代土師器（杯、長胴甕、甕）、中世珠洲、中世土師器皿、時期不明土師器が出土している。そのうち、掘立柱建物の柱穴からは古代の遺物が出土している。



第 30 図　出来田南遺跡（サカエ金襴１地区・サカエ金襴２地区）調査区位置図

10. 井口本江遺跡（松井地区）

所 在 地　高岡市井口本江字江指廻 81－２、82－２

調査期間　平成 25 年８月９日

対象面積　435 ㎡

試 掘 坑　２本

発掘面積　約 34.3 ㎡

調査原因　個人住宅建設

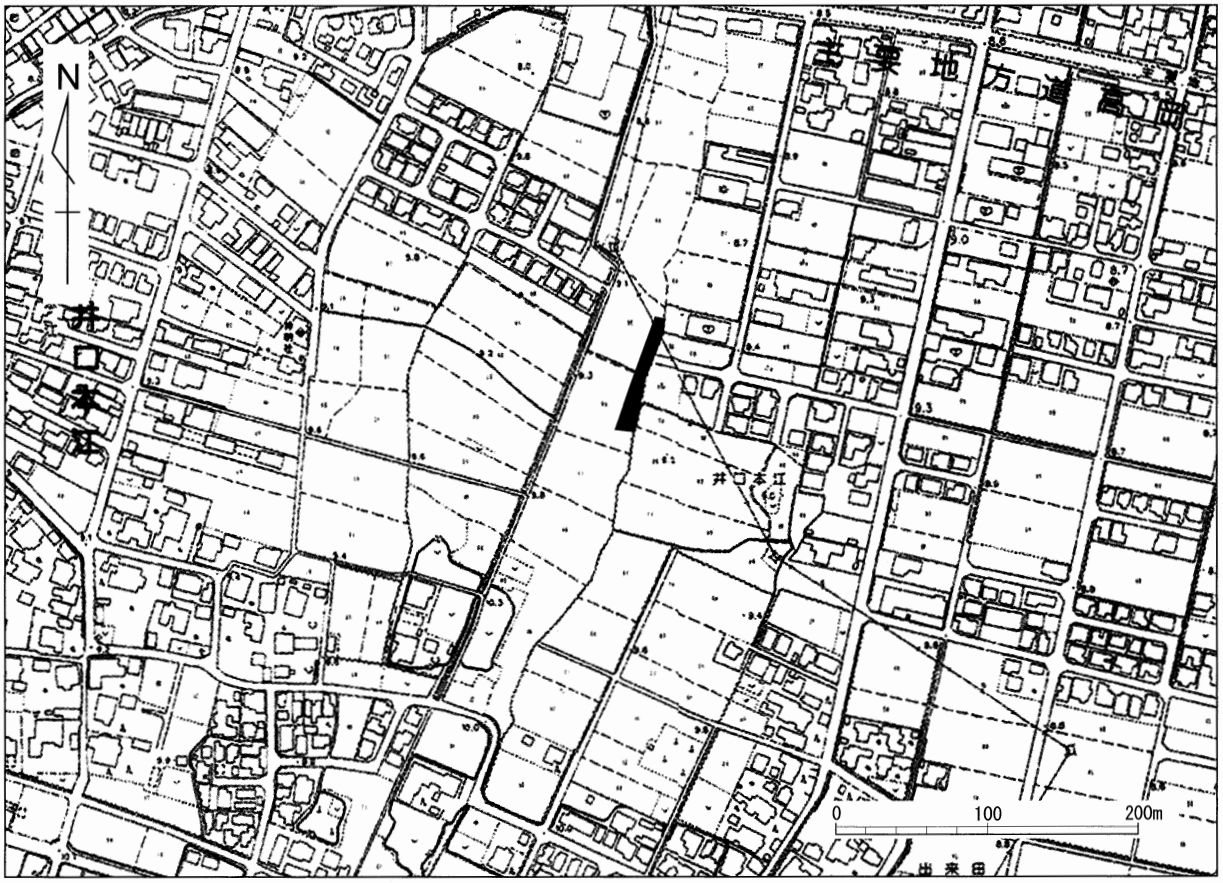
検出遺構　なし

出土遺物　なし

調査概要

井口本江遺跡は、祖父川左岸に位置する縄文時代から近世までの複合遺跡である。同遺跡を含む周辺は古代において東大寺領鳴戸荘（木倉・金田説他）が比定されている。遺跡南方では古代官衙的様相をしめす円面硯や施釉陶器が出土し、建物等も確認されている。現地は湿地状を呈する自然環境にあり、縄文後晩期の傾向と一致する。

調査対象地は遺跡北側に位置する。本地点付近は谷の落ち込みが確認される。対象地に計２本のトレンチを配し、地下の状況把握につとめたところ、対象地南側では地表面下約 100 ～ 110cm、標高 8.3 ～ 8.4 m程度で基盤層（地山）を検出した。北側では、灰色粘質シルトが続き地山は検出できなかった。遺構の検出はなく、遺物の出土もなかった。



第 31 図　井口本江遺跡（松井地区）調査区位置図

11. 瑞龍寺遺跡（車地区）

所 在 地　高岡市関町 15- 4

調査期間　平成 25 年 6 月 24 日～ 25 日

対象面積　324 ㎡

試 掘 坑　２本

発掘面積　約 12 ㎡

調査原因　個人住宅建設

検出遺構　なし

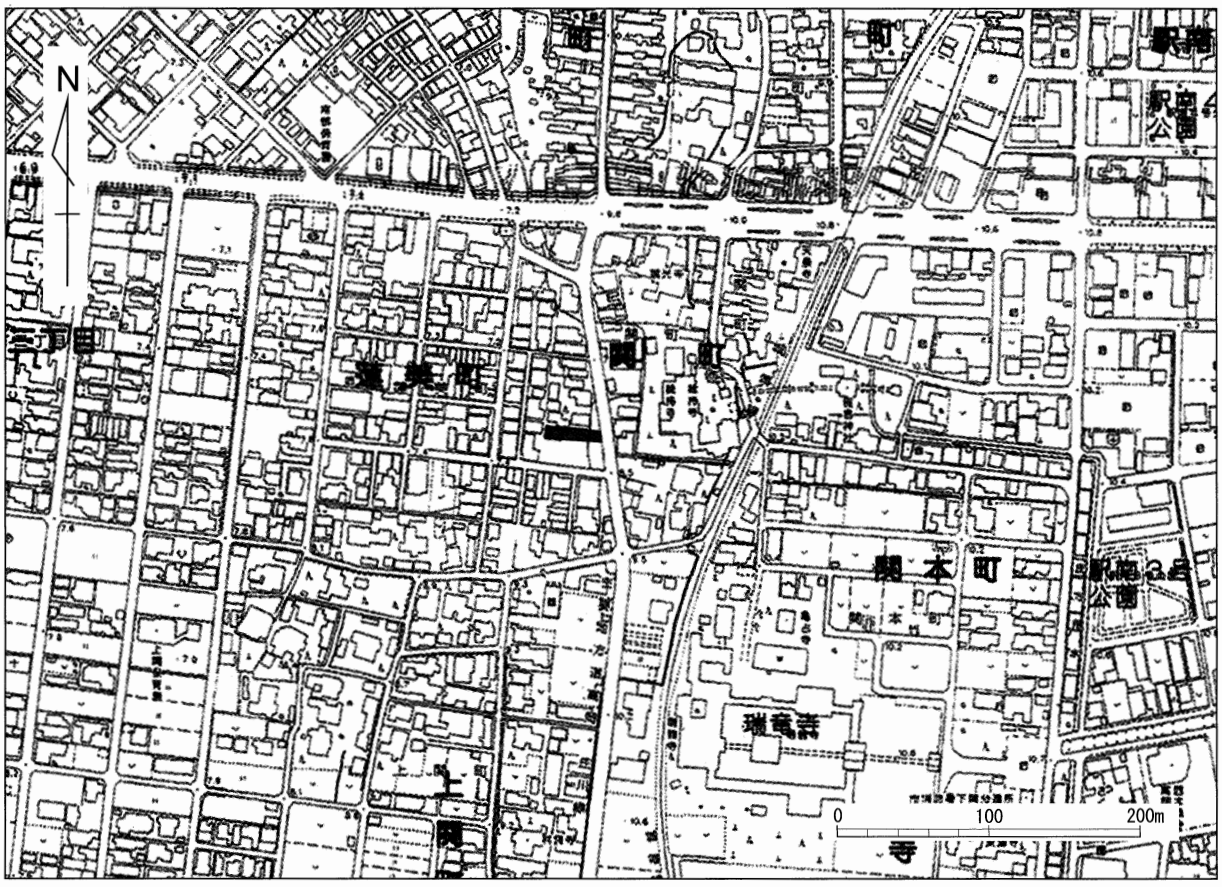
出土遺物　なし

調査概要

本地点は瑞龍寺遺跡の北西の隣接地となる。瑞龍寺遺跡の西側の試掘調査においては、近世の瓦が出土しており、一部中世の遺構・遺物も検出されている。

試掘調査は対象地に試掘坑を２箇所設定し、地下の状況を把握したところ、掘削した２箇所の試掘坑から遺構は検出されず、遺物は出土しなかった。

西側に設定した第１トレンチでは、地表面下約 90 ～ 100cm、標高約 6.6 mにて灰色の地山を検出した。東側に設定した第２トレンチでは、地表面下約 80cm、標高約 7.0 mにて灰色の地山を検出した。西側に向かって標高が低くなることは、過年度の調査傾向と一致する。



第 32 図　瑞龍寺遺跡（車地区）調査区位置図

12. 戸出後生寺遺跡（戸出福祉会地区）

所 在 地　　高岡市醍醐 1254 番 3

調査期間　　平成 25 年 7 月 9 日～ 10 日

対象面積　　2,200 ㎡

試 掘 坑　　4 本

調査面積　　約 139.8 ㎡

調査原因　　駐車場建設

検出遺構　　溝 1 条

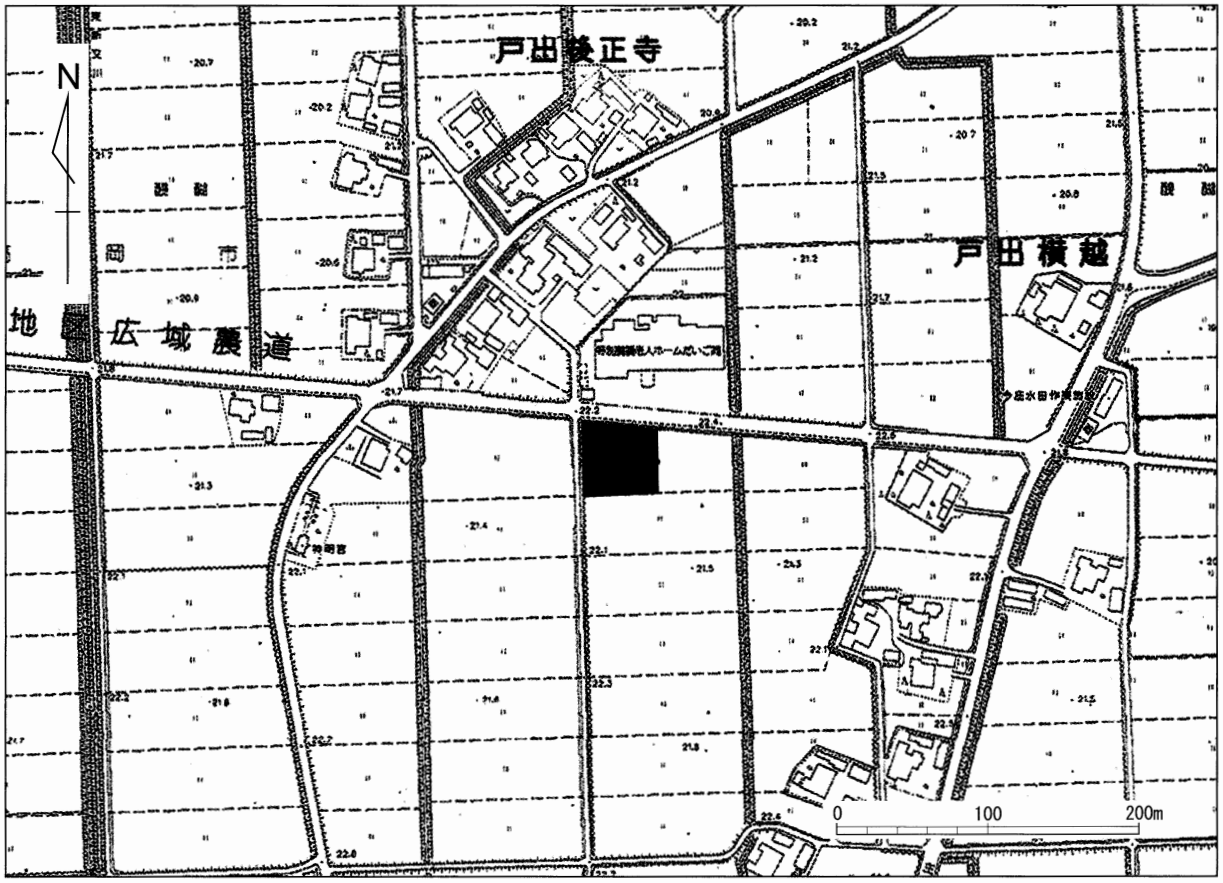
出土遺物　　縄文土器、弥生土器、古墳土師器、時期不明土師器

調査概要

本地点は遺跡の北端の隣接地に位置する。過去に北に隣接する地点で試掘調査を実施し、古代須恵器や近世陶磁器、近世瓦が出土している。

試掘調査は対象地に試掘坑を 4 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、遺構は溝 1 条が検出され、遺物は黒褐色土の表土から、縄文土器、弥生土器、古墳土師器、時期不明土師器が出土した。

平均で地表面下約 90 ～ 100cm にて灰色の地山を検出した。遺物の残りがよいことから近隣に集落が存在する可能性がある。出土する遺物は、縄文後・晩期、弥生時代後期～古墳時代前期である。いずれも一定量の出土がある。



第 33 図　戸出後生寺遺跡（戸出福祉会地区）調査区位置図

13. 下佐野遺跡（酢谷地区）

所 在 地　高岡市泉が丘 3300 番 329

調査期間　平成 25 年 6 月 20 日～ 21 日

対象面積　280.66 ㎡

試 掘 坑　1 本

調査面積　8.25 ㎡

調査原因　個人住宅建設

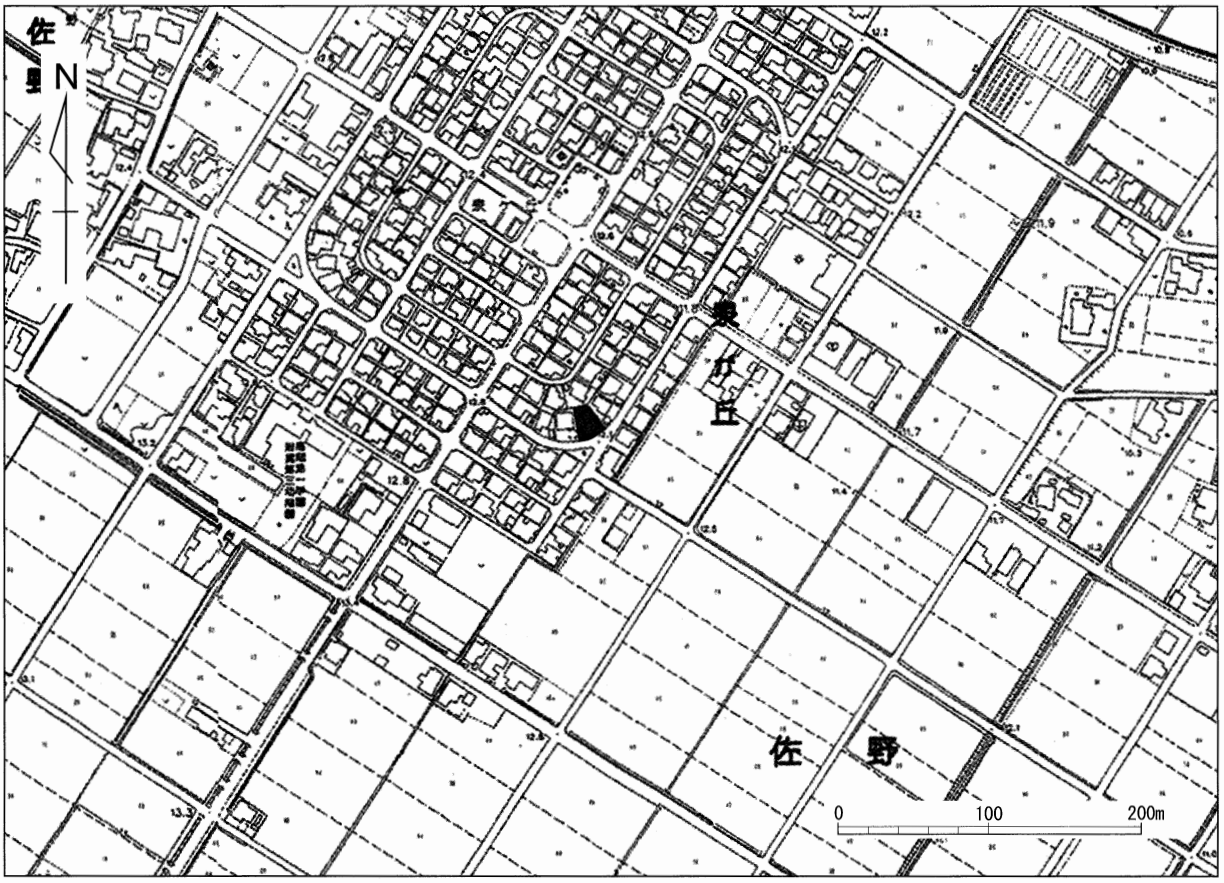
検出遺構　土坑 1 基

出土遺物　弥生土器、古墳土師器、古代須恵器・土師器、中世珠洲・甕、時期不明土師器

調査概要

本地点は下佐野遺跡北西の隣接地にあたる。付近の小字は西田島と呼ばれる。県道高岡環状線他の本調査の結果、複数時期の集落が検出されている。特に古代においては、木簡や馬型墨画土器など文字資料のほか、祭祀関連の遺物も出土している（富山県埋文センター 2011、高岡市教委 2011c 他）。

試掘調査は試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況の把握につとめたところ、現地表約 90cm 下の標高約 11.7 ～ 11.9 m付近にて褐色の検出面と地山を確認した。出土した遺物は流れ込みと考えられ、弥生土器、古墳土師器、時期不明土師器、古代須恵器・土師器、中世珠洲・甕が出土した。



第 34 図　下佐野遺跡（酢谷地区）調査区位置図

14. 笹八口遺跡（中島地区）

所 在 地　高岡市笹八口 1429 番 1

調査期間　平成 25 年 9 月 19 日

対象面積　495 ㎡

試 掘 坑　2 本

発掘面積　約 14.4 ㎡

調査原因　個人住宅建設

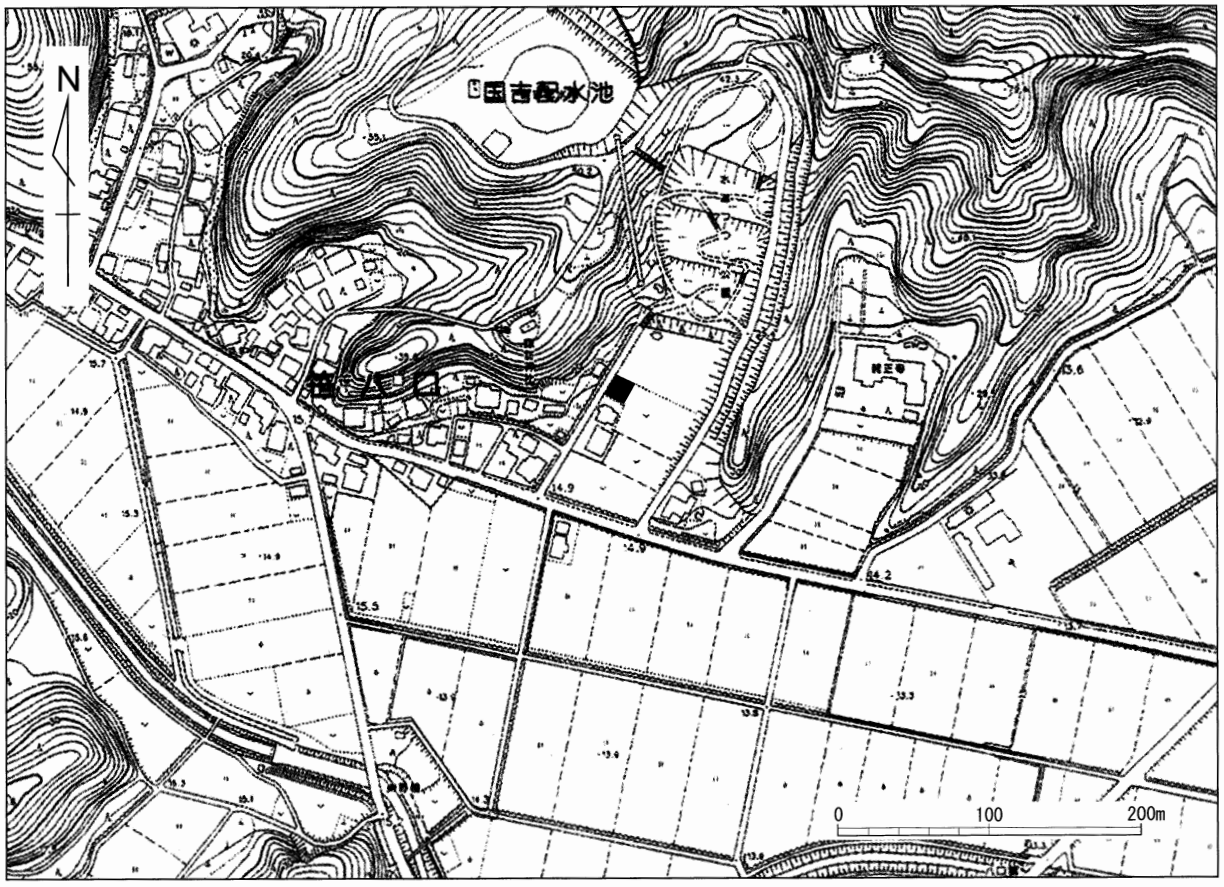
検出遺構　なし

出土遺物　なし

調査概要

本地点は遺跡の北側に位置し、字親撲する谷と呼ばれる。周辺の試掘調査では、遺構・遺物とも見つかっていないが、周辺の分布調査では古墳時代～中世の遺物が採集されている（高岡市教委 1999）。

試掘調査は試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況の把握につとめたところ、現地表約 60cm 下にて黒褐色砂質土を検出したが、地山の検出はできなかった。出土遺物もなく、谷の埋土が深く堆積していると考えられる。



第 35 図　笹八口遺跡（中島地区）調査区位置図

15. 下老子笹川遺跡（中野地区）

所 在 地　高岡市福岡町下老子 563 番 5

調査期間　平成 25 年 6 月 26 日～ 27 日

対象面積　493 ㎡

試 掘 坑　2 本

発掘面積　約 33.15 ㎡

調査原因　個人住宅建設

検出遺構　なし

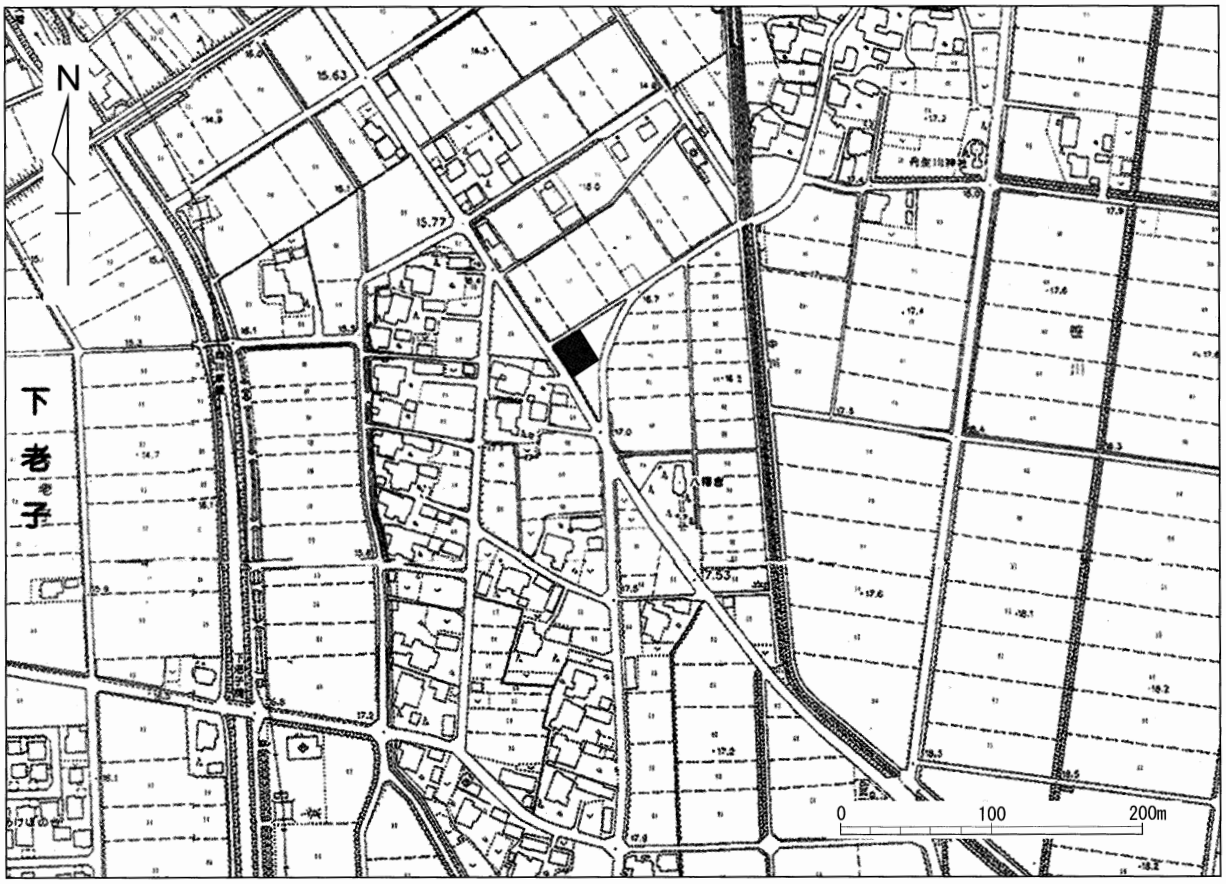
出土遺物　弥生土器、古代須恵器、近世肥前陶磁器、時期不明土師器

調査概要

下老子笹川遺跡は、庄川扇状地扇端部に位置する。能越自動車道と北陸新幹線の建設にともなう発掘調査の結果、弥生後期から古墳時代の集落や水田が検出された（富山県文化振興財団 2006・2013b）。

多量の土器類の他に、玉作に関連する遺物や木製品が出土しており、地域の拠点となる集落と考えられている。

試掘調査は２本のトレンチを設定し、地下の状況の把握したところ、現地表下約 30 ～ 40cm で地山を検出した。遺構は検出されなかったが、落ち込みを一部で検出している。遺物は弥生土器と古代須恵器などの小破片が出土している。これらは出土状況から流れ込みの遺物と考えられる。



第 36 図　下老子笹川遺跡（中野地区）調査区位置図

16. 越中国府関連遺跡（山本地区）

所 在 地　高岡市伏木一宮１丁目５－９

調査期間　平成 25 年７月 30 日

対象面積　430 ㎡

試 掘 坑　１本

発掘面積　約 22.4 ㎡

調査原因　個人住宅建設

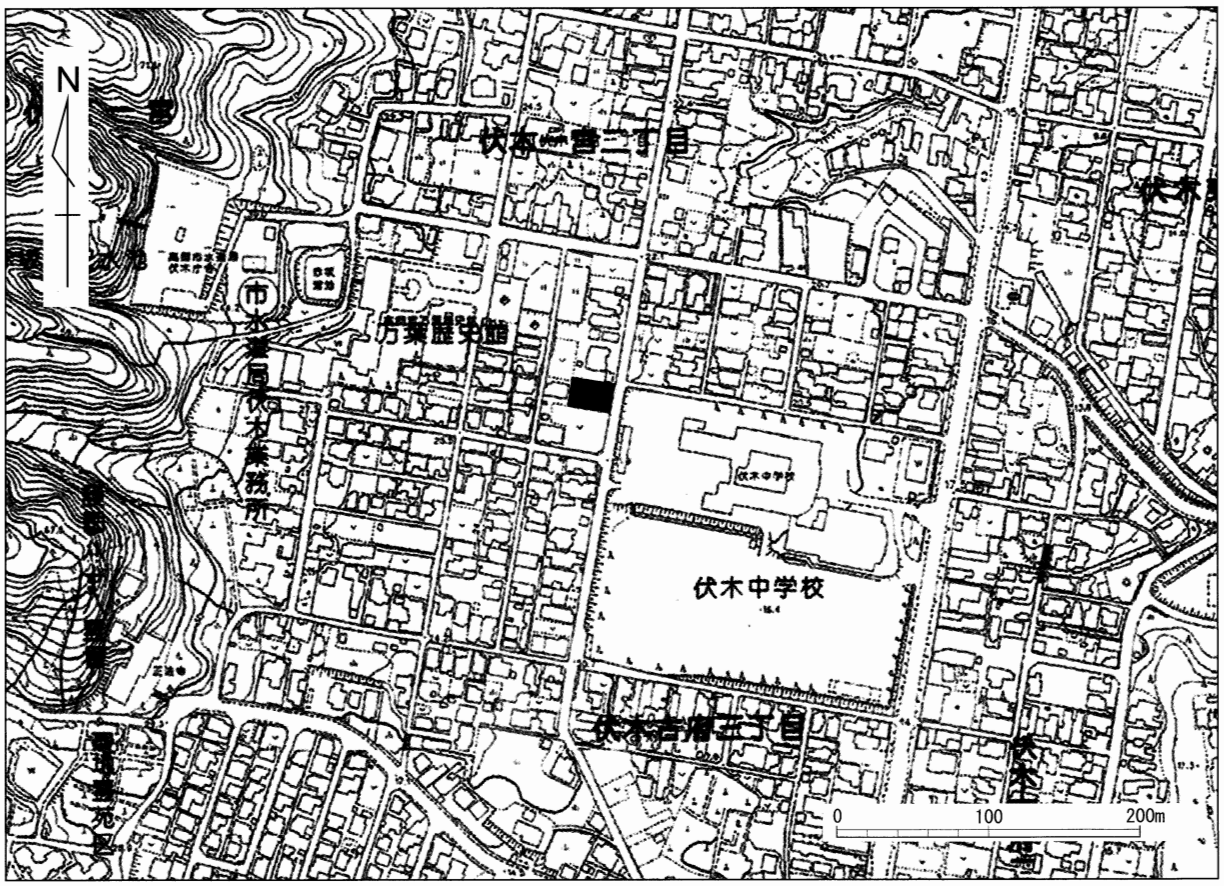
検出遺構　掘立柱建物１棟、溝７条、土坑７基、ピット 38 基

出土遺物　弥生土器甕、古墳土師器、古代須恵器（蓋・甕）古代土師器皿、中世土師器、時期不明土師器

調査概要

本地点は旧一宮村に所在し、付近の小字「大塚」「五平立」に比定される。周辺では、遺構は検出されないが、串田地区にて古代の遺物が出土している。

本地点の試掘調査は１本のトレンチを配し、地下の状況の把握につとめたところ、地表面下約 30cm、標高約 23.0 m付近にて灰褐色の地山を検出した。東側は明確な地山が検出できないことから、盛土による平坦地の造成を行っていると考えられる。



第 37 図　越中国府関連遺跡（山本地区）調査区位置図

17. 中曽根遺跡（道野地区）

所 在 地　高岡市中曽根 792、791 の一部

調査期間　平成 25 年８月 14 日

対象面積　168.1 ㎡

試 掘 坑　１本

発掘面積　約５㎡

調査原因　個人住宅建設

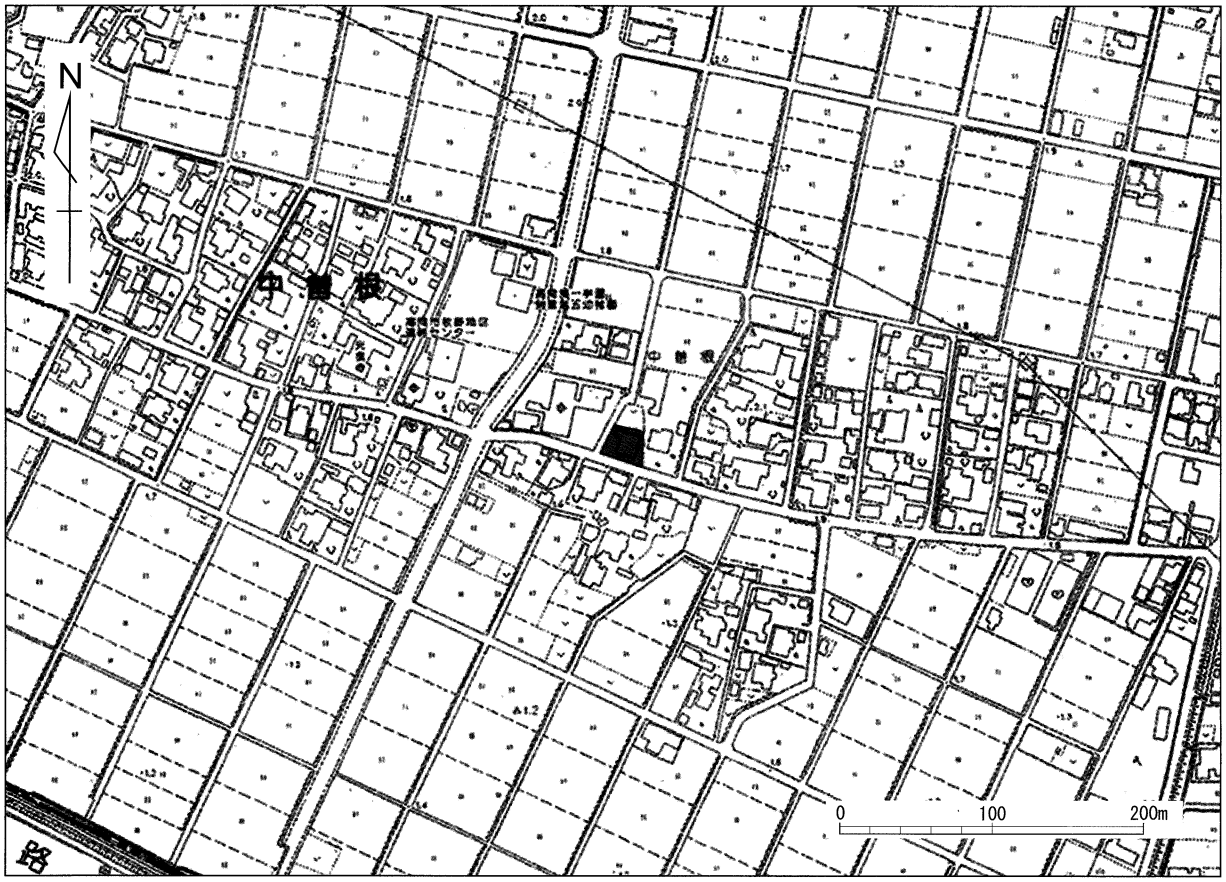
検出遺構　なし

出土遺物　なし

調査概要

中曽根遺跡は、西神楽川などが流れ込む放生津潟付近の砂帯に立地する。間坂儀一郎氏の精力的な調査により、字名から旧遺跡名は吉原田遺跡と呼称していた。過去の調査では、弥生～中世の遺物と遺構が確認され、主に弥生時代の遺構が検出されている。

試掘調査は１本のトレンチを設定し、地下の状況の把握したところ、現地表下約 70 ～ 80cm、標高約 1.2 ～ 1.3 m付近で地山を検出した。遺構は検出されず、遺物は弥生土器片と時期不明土師器片が出土している。これらは出土状況から流れ込みの遺物と考えられる。



第 38 図　中曽根遺跡（道野地区）調査区位置図

18. 井口本江遺跡（市道東側地区）

所 在 地　高岡市井口本江字江指廻 44- 2外2筆

調査期間　平成 25 年 9 月 25 日

対象面積　116 ㎡

試 掘 坑　2 本

発掘面積　約 13.54 ㎡

調査原因　道路建設

検出遺構　土坑 1 基、柱穴 1 基、溝 1 条

出土遺物　古代須恵器（杯Ｂ・貯蔵具）、中世青磁、中世珠洲大甕、時期不明土師器

調査概要

井口本江遺跡は庄川左岸の微高地に位置する。平成２年の分布調査で存在が確認された。遺跡の中央を都市計画道路能町庄川線の建設に伴う本調査などが行われ、弥生～中世の集落が検出されている。本地点は遺跡の中央に位置し、周辺の本調査の結果弥生中期～後期の集落が見つかっている。遺跡の内容把握及び、範囲の確認を目的として調査を行った。

試掘調査は２本のトレンチを設定し、地下の状況を把握したところ、遺構は土坑１基、柱穴１基、溝１条を検出した。遺物は古代須恵器（杯Ｂ・貯蔵具）、中世青磁、中世珠洲（大甕）、時期不明土師器が出土した。遺構密度も高く、遺物の一定量の遺物が出土していることから、平成 26 年度に本発掘調査を行った。

第 39 図　井口本江遺跡（市道東側地区）調査区位置図

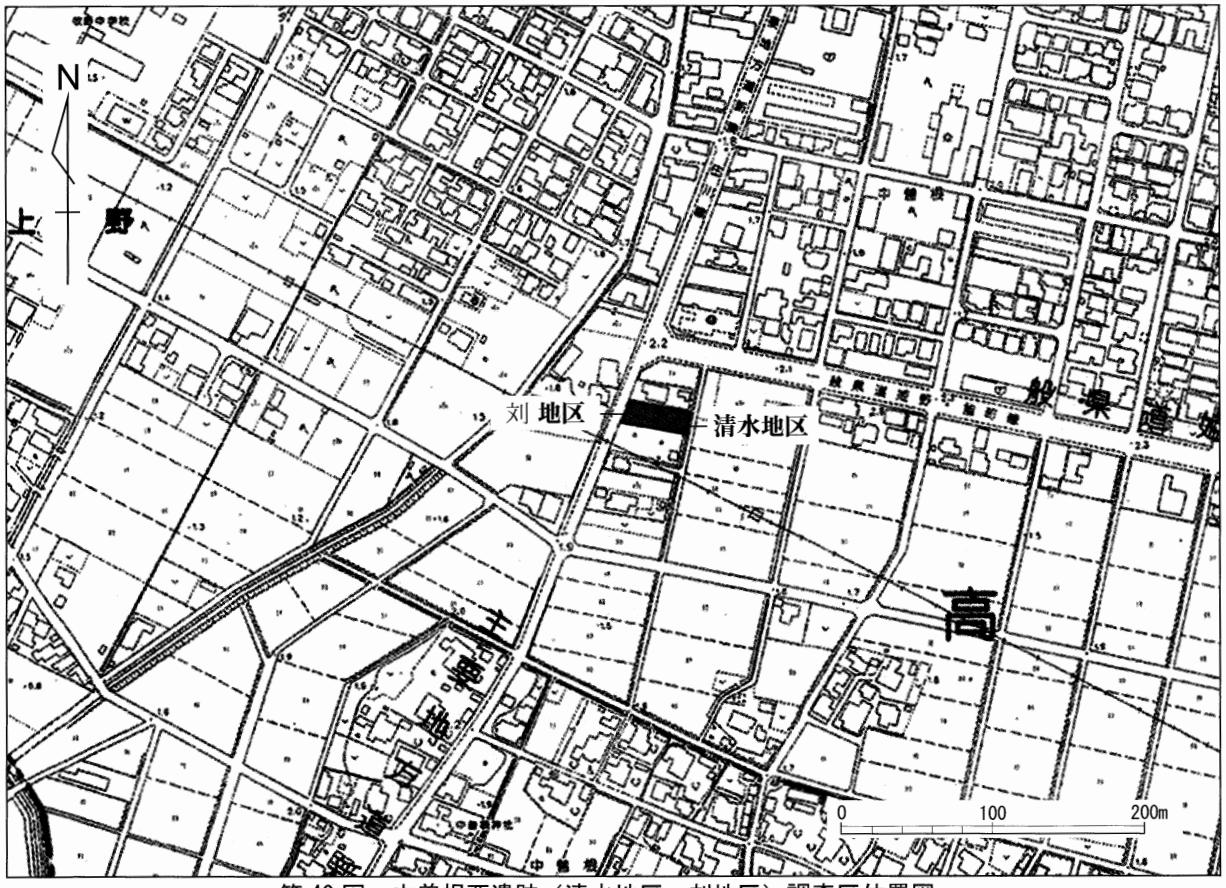
19. 中曽根西遺跡（清水地区・刈地区）

	清水地区	刈地区
所 在 地	高岡市中曽根 2834	高岡市中曽根 2834
調査期間	平成 25 年 7 月 11 日	平成 25 年 7 月 11 日
対象面積	200.83 ㎡	202.6 ㎡
試 掘 坑	1 本	1 本
発掘面積	3.75 ㎡	3.75 ㎡
調査原因	個人住宅建設	個人住宅建設
検出遺構	なし	なし
出土遺物	なし	なし

調査概要

中曽根西遺跡は庄川右岸の射水平野に位置し、潟湖周辺に形成された砂洲上に立地する。近年は周辺の区画整理事業に進展により発掘調査が進み、主に弥生時代と中世に帰属する遺構が検出され、弥生時代から中世まで幅広い時期の遺物が確認されている。

清水・刈両地点は中曽根西遺跡の北側に位置する。清水地区の試掘調査は対象地に試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況を把握した。掘削した第 1 トレンチでは、地表面下約 120cm まで掘り下げたところ、標高約 1.1 m付近にて灰色の地山を検出した。遺構･遺物ともに検出されなかった。刈地区の試掘調査は対象地に試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況を把握した。掘削した第 1 トレンチでは、地表面下約 120cm まで掘り下げたところ、標高約 1.1 m付近にて灰色の地山を検出した。遺構・遺物とも検出されなかった。



第 40 図　中曽根西遺跡（清水地区・刈地区）調査区位置図

20. 下老子笹川遺跡（篠島地区）

所 在 地　高岡市笹川 197 番１、197 番２

調査期間　平成 25 年 10 月４日

対象面積　282.41 ㎡

試 掘 坑　１本

発掘面積　約 21.6 ㎡

調査原因　個人住宅建設

検出遺構　土坑２基、溝１条

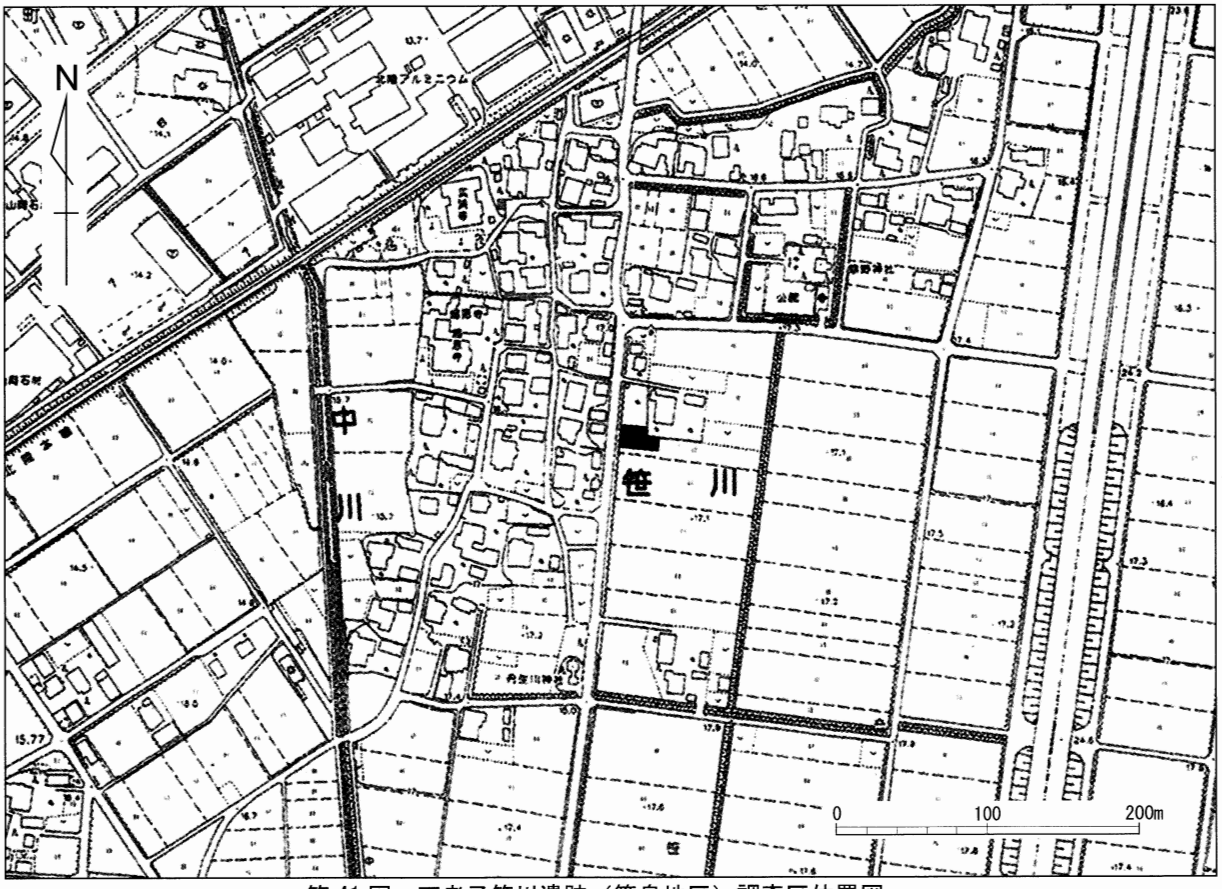
出土遺物　弥生土器、古墳土師器、古代須恵器、中世珠洲、近世唐津、近世越中瀬戸

調査概要

下老子笹川遺跡は庄川の支流である荒又川と祖父川に挟まれた佐野台地上に立地する。遺跡東側にて能越自動車道・北陸新幹線など大規模に本調査が行われた結果、縄文晩期の集落が営まれ、その後弥生後期～古墳前期にかけての時期の大規模な拠点集落が検出されている。

本地点は当遺跡の北西部にあたる。試掘調査は対象地に試掘坑を１箇所設定し、地下の状況の把握したところ、遺構は溝１条と土坑２基が検出され、遺物は弥生終末期～古墳前期の弥生土器・古式土師器片と古代須恵器蓋、中世珠洲甕、近世越中瀬戸小片、近世唐津碗片が出土した。

地表面下約 50cm まで掘り下げたところ、標高約 16.5 ～ 16.6 mにて遺構検出面を確認した。遺構は、溝１条と土坑２基を検出した。遺物は弥生土器・古式土師器片と古代須恵器蓋、中世珠洲甕、近世越中瀬戸小片、近世唐津碗片が出土した。溝１からは弥生土器・古墳土師器が数点出土している。これらのことから、トレンチ中央の溝１は弥生後期～古墳前期に帰属すると考えられる。



第 41 図　下老子笹川遺跡（篠島地区）調査区位置図

21. 戸出光明寺東遺跡（脇田地区）

所 在 地　高岡市戸出古戸出 36- 5、36- 3、38- 3、2012

調査期間　平成 25 年 8 月 20 日

対象面積　603 ㎡

試 掘 坑　1 本

発掘面積　16 ㎡

調査原因　コンビニエンスストア建設

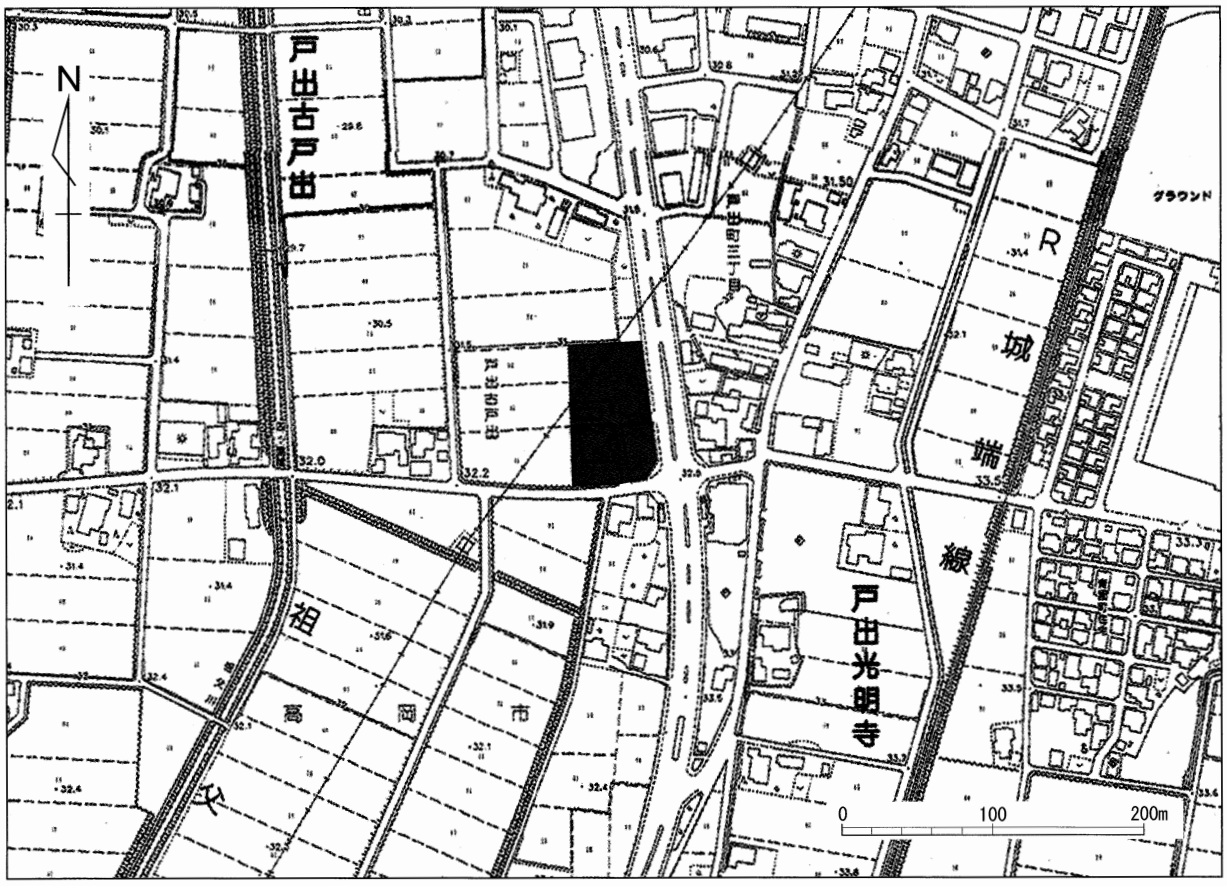
検出遺構　なし

出土遺物　なし

調査概要

本地点は遺跡の東端に位置する。平成 12 年度の石倉地区においては、遺構の検出はないが、土師器の出土がある。戸出光明寺東遺跡の北西には、礪波郡杵名蛭荘の比定地と考えられる。戸出古戸出遺跡が所在する。

対象地に計 1 本のトレンチを配し、地下の状況の把握につとめたところ、地表面下約 1.2 ～ 1.3 mまで掘り下げたが地山は検出されず、造成土が厚く堆積していた。遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。



第 42 図　戸出光明寺東遺跡（脇田地区）調査区位置図

22. 越中国府関連遺跡（大菅地区）

所 在 地　高岡市伏木古府３丁目 424 番９

調査期間　平成 25 年 10 月 29 日

対象面積　256.96 ㎡

試 掘 坑　１本

発掘面積　約 16 ㎡

調査原因　個人住宅建設

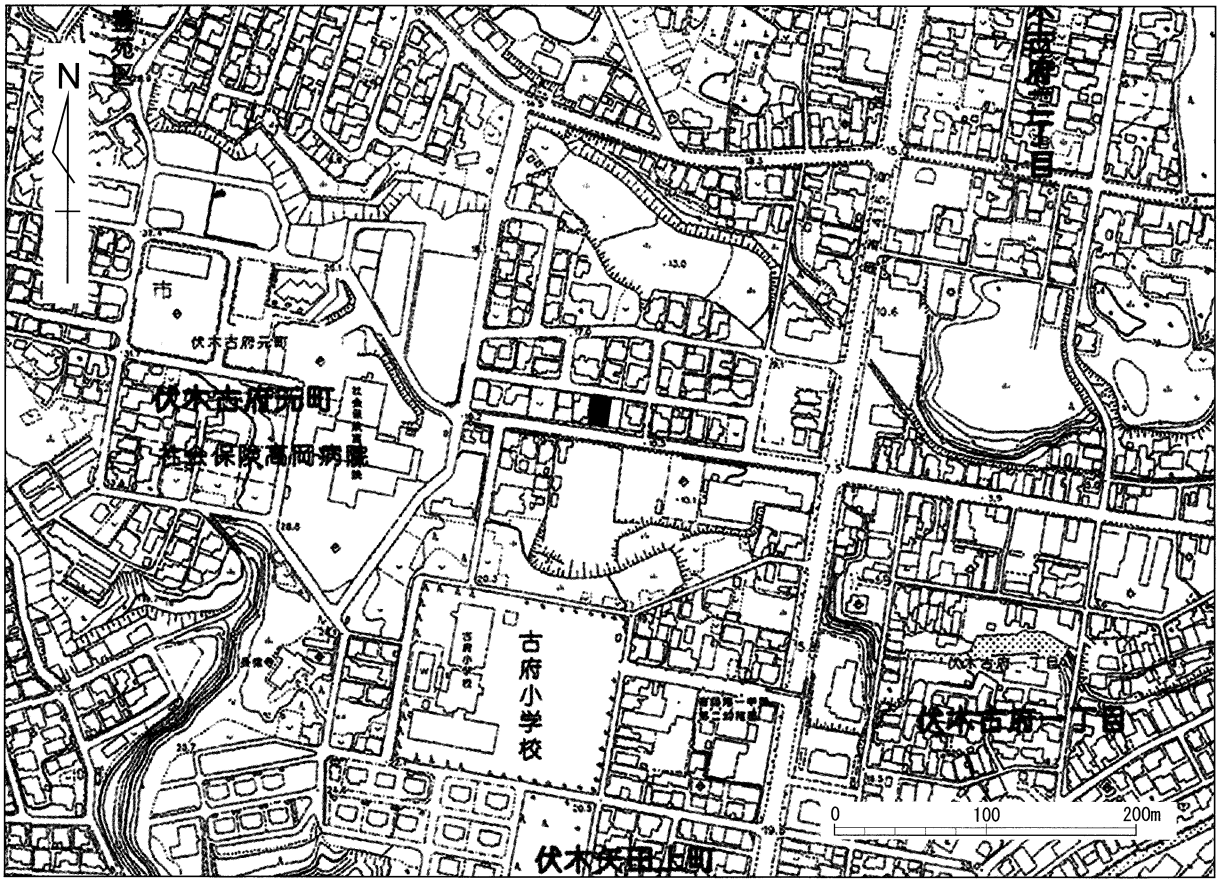
検出遺構　なし

出土遺物　なし

調査概要

本地点は遺跡の中央に位置し、旧古府村字東上野又は尻谷に所在する。中世の白山経塚に近く、周辺は宅地化が進み地形は改変されている。近隣の過年度の試掘調査では、遺物の出土はあるものの遺構は見つかっていない。

試掘調査は対象地に試掘坑を１箇所設定し、地下の状況の把握したところ、本日掘削した１箇所の試掘坑からは、遺構は検出されず、遺物も出土もなかった。地表面下約 80 ～ 90cm まで掘り下げたところ、標高約 14.0 ～ 14.3 m 付近にて褐灰色の砂礫混じりの地山を検出した。盛土の下に粘土質の褐色土があり、宅地造成時に撹乱を受けていると考えられる。また地山も砂礫を含むものであり、遺構面は削平されていると考えられる。



第 43 図　越中国府関連遺跡（大菅地区）調査区位置図

23. 越中国府関連遺跡（折田地区）

所 在 地　高岡市伏木矢田上町 152 番地

調査期間　平成 25 年 8 月 12 日

対象面積　334.63 ㎡

試 掘 坑　1 本

発掘面積　約 21.4 ㎡

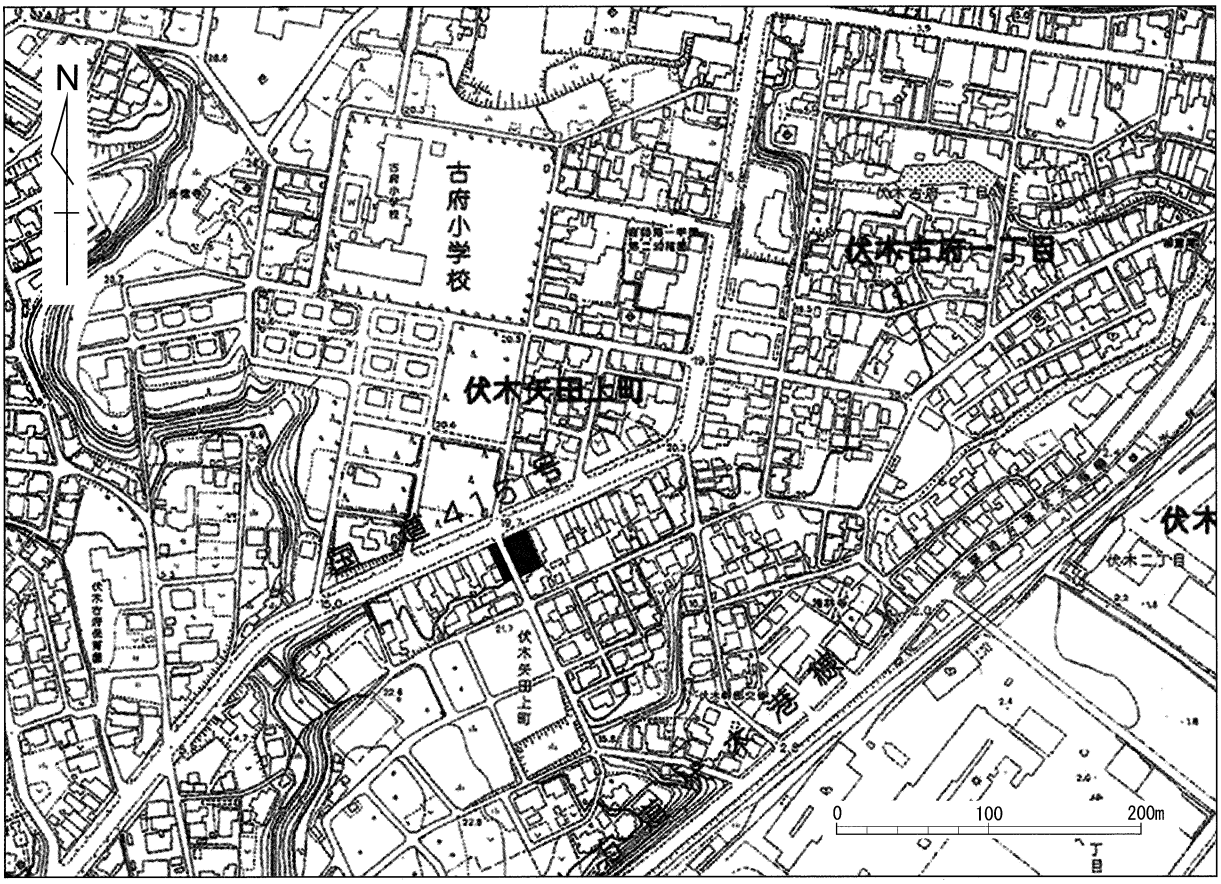
調査原因　個人住宅、駐車場建設

検出遺構　なし

出土遺物　なし

調査概要

本地点は旧矢田村大字座脇に比定される。周辺の調査結果では、遺構・遺物とも見つかっていない。試掘調査は対象地に試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況の把握につとめたところ、現地表約 20 ～ 30cm 下の標高約 19.5 ～ 19.7 m付近にて褐色の地山を確認した。遺物の出土はなく、遺構は検出されなかった。



第 44 図　越中国府関連遺跡（折田地区）調査区位置図

24. 中曽根西遺跡（倉谷地区）

所 在 地　　高岡市中曽根 1180 番地　外 18 筆

調査期間　　平成 25 年 8 月 26 日～ 27 日

対象面積　　1,724 ㎡

試 掘 坑　　3 本

発掘面積　　約 79.04 ㎡

調査原因　　コンビニエンスストア建設

検出遺構　　土坑 2 基、溝 2 条

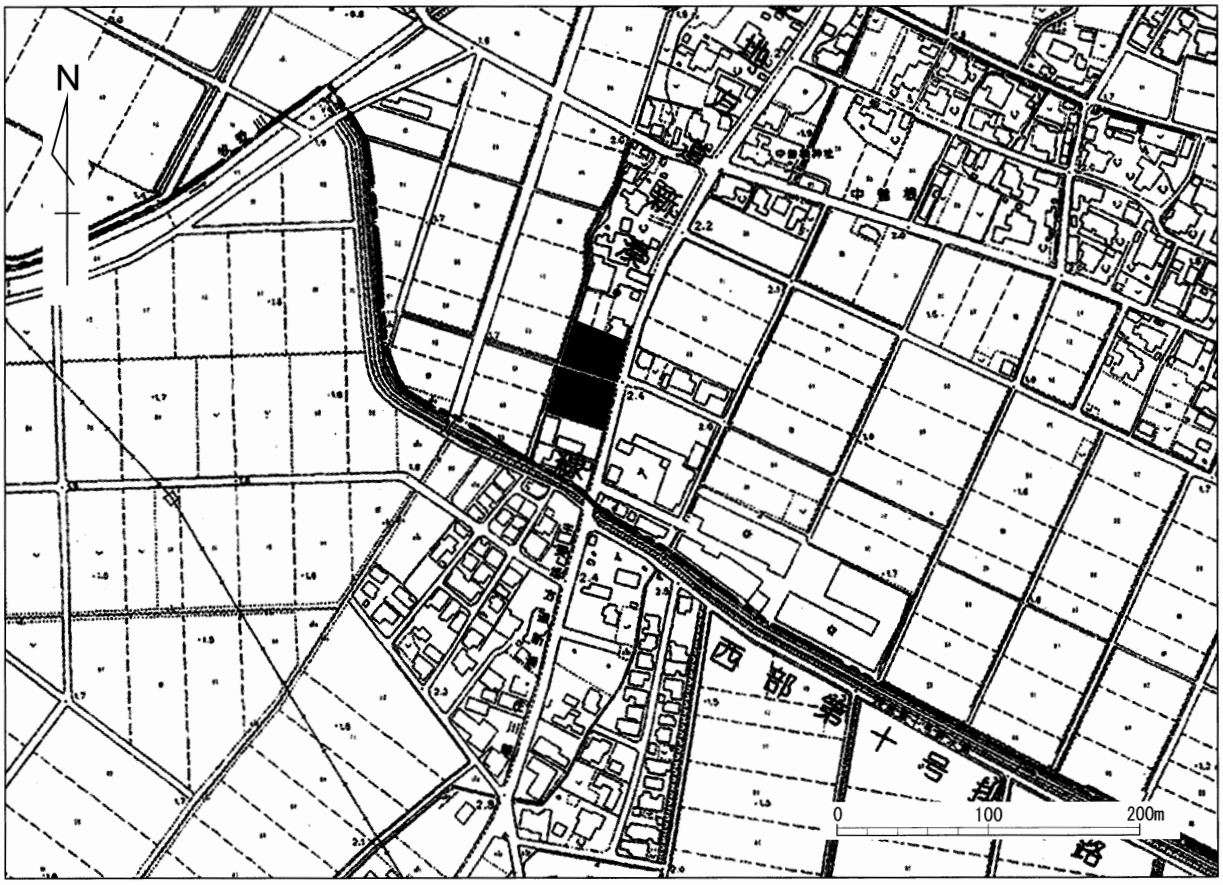
出土遺物　　弥生土器、近世越中瀬戸、近世肥前陶磁器

調査概要

本地点は遺跡の中央にあたる。平成 15 年度に北側を県道能町姫野線建設に伴う本調査を行い、弥生中期から後期の集落と墓域が見つかっており、その後古代から中世においても遺物が確認されている（高岡市教委 2005b）。

試掘調査は対象地に 3 本のトレンチを配し地下の状況の把握したところ、現地表約 50 ～ 60cm 下にて灰色の地山を確認した。試掘坑からは土坑 2 基、溝 2 条が検出され、遺物は弥生土器（中期～後期）、近世越中瀬戸、近世肥前陶磁が出土した。

遺物は弥生土器の甕が主体を占め、近世の遺物は数点出土するにとどまる。溝出土の弥生土器も確認でき、弥生中期～後期の溝と考えられる。全体に耕作による影響を受けているものの、遺構の広がりが推定される。



第 45 図　中曽根西遺跡（倉谷地区）調査区位置図

25. 守山城跡（消防無線基地局地区）

所 在 地　高岡市東海老坂二上山公園城山地内

調査期間　平成25年9月11日

対象面積　97.657 ㎡

試 掘 坑　1本

発掘面積　約16.96 ㎡

調査原因　消防無線基地局建設

検出遺構　なし

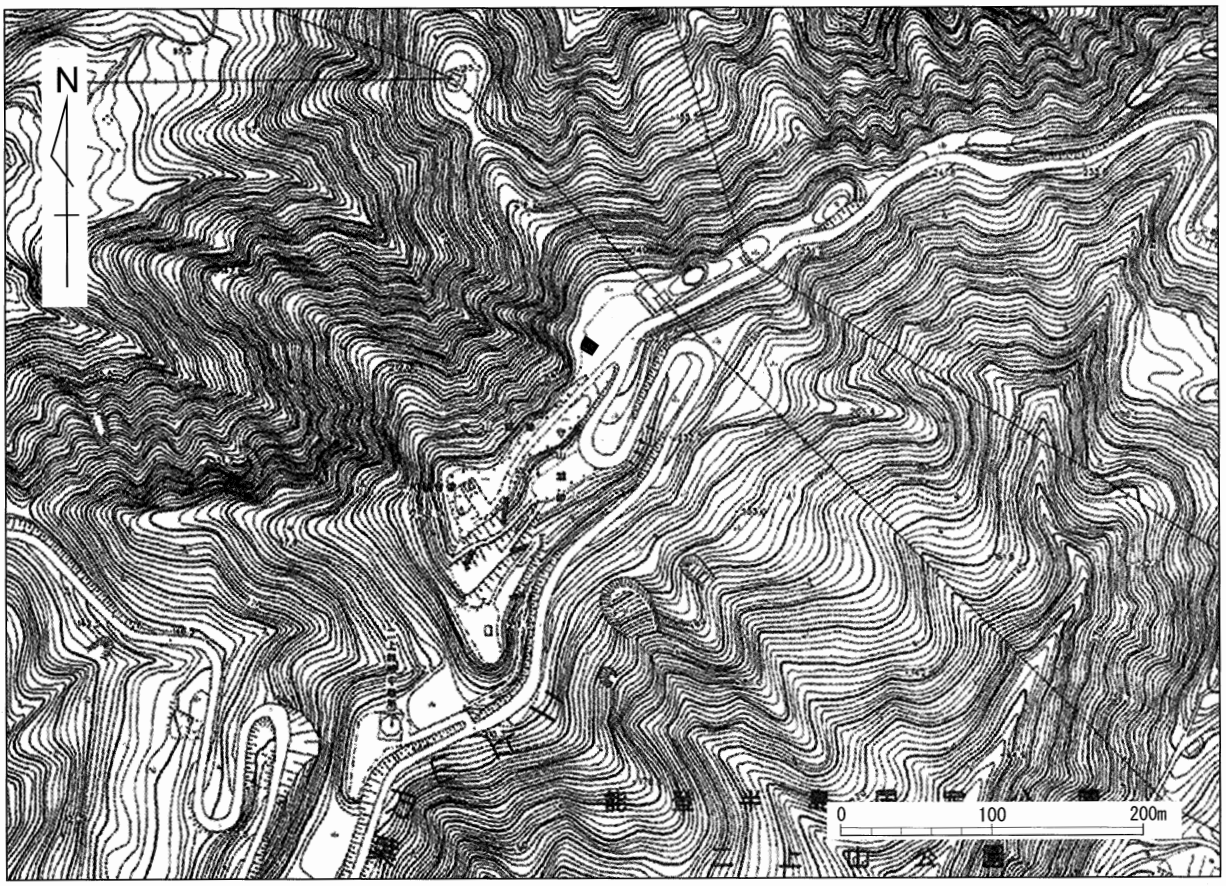
出土遺物　なし

調査概要

本地点は守山城跡の本丸の入り口部分に位置する。平成19年度に本地点の南西側にて試掘調査を実施した結果、溝状遺構が検出されており、本丸外側の堀の可能性が示される（高岡市教委 2009）。

試掘調査は対象地に2本のトレンチを配し地下の状況の把握したところ、試掘坑からは遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。

第1トレンチでは、地表面下約100cmまで掘り下げたが地山は検出されず、近現代の造成土が厚く堆積していることが判明した。また、鉄塔から本丸にかけて設定した第2トレンチでは地表面下約10cm、標高約253.4 m付近で地山を検出した。現代の電柱の埋設線等により攪乱を受けていた。



第46図　守山城跡（消防無線基地局地区）調査区位置図

26. 石名瀬Ａ遺跡（市道地区）

所 在 地　高岡市和田 1306

調査期間　平成 25 年 10 月 23 日～ 24 日

対象面積　290 ㎡

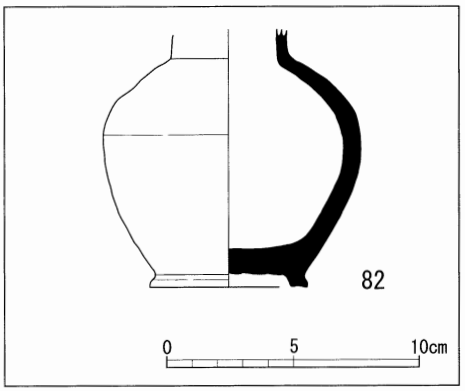
試 掘 坑　1 本

発掘面積　約 57.51 ㎡

調査原因　市道建設

検出遺構　土坑１基、溝３条

出土遺物　弥生土器、古墳土師器、古代須恵器



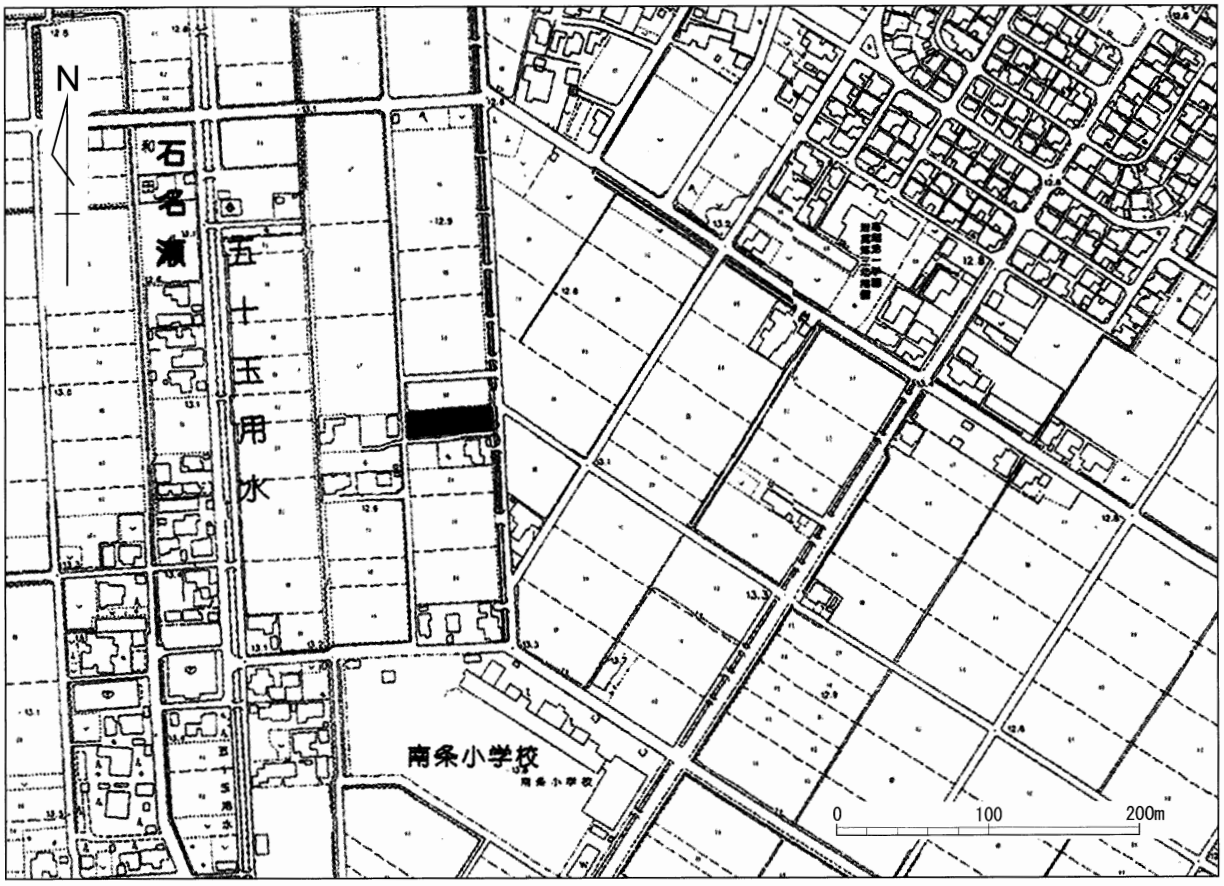
第 47 図　石名瀬Ａ遺跡出土遺物実測図（1/3）

調査概要

本地点は、石名瀬Ａ遺跡の南側と西佐野千代遺跡の北側の隣接地となる。本地点の北側は、県道高岡環状線建設の本調査にて、弥生時代～古墳時代の集落・墓域や古代～中世の集落跡等が検出され、古代の祭祀関連を含む遺物も多量に出土している（高岡市教委 2012）。

対象地に計１本のトレンチを配し地下の状況の把握につとめたところ、現地表面下 50 ～ 70cm 付近にて遺構を確認した。

調査地東側において南北方向の溝が３条、西側では土坑１基が検出された。そのうち溝１・２は幅約４～６ｍ、深さ約 50cm 程度を測る。遺物は溝１からは弥生土器、古墳土師器、古代須恵器壺が出土した。溝２からは弥生土器、古墳土師器が出土し、その他表土から弥生土器、古墳土師器が出土している。これらの溝は、過去に本発掘調査で検出された溝に続くと考えられ、遺物を多く含む溝等が本地点に広がることが判明した。



第 48 図　石名瀬Ａ遺跡（市道地区）調査区位置図

27. 中保Ｂ遺跡（坂森地区）

所 在 地　　高岡市中保 1294

調査期間　　平成 25 年 9 月 6 日

対象面積　　370 ㎡

試 掘 坑　　1 本

発掘面積　　約 21.45 ㎡

調査原因　　福祉施設建設

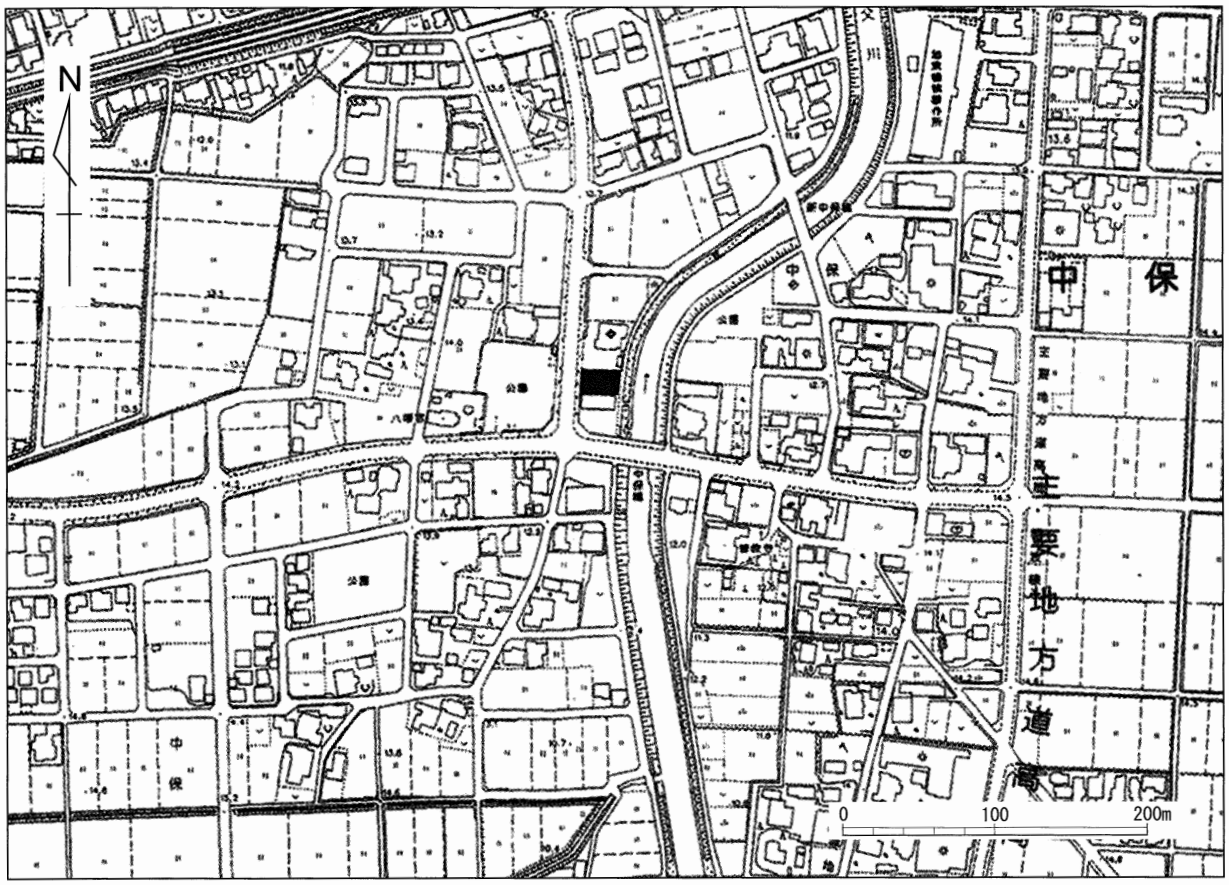
検出遺構　　なし

出土遺物　　なし

調査概要

中保Ｂ遺跡は、庄川の支流である祖父川左岸の佐野台地上に立地する。周辺の試掘結果では古代・中世の遺構と遺物が見つかっている。西高岡駅南東側と区画整理による本調査の結果、古代の船着き場と倉庫群と考えられる遺構群が検出されている。

本地点は遺跡の中央に位置する。試掘調査は対象地に試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。地表面下約 50 ～ 60cm まで掘り下げたところ、標高約 12.6 m付近にて灰色の地山を検出した。東側端部にて深堀をかけたところ、地表面下約 100cm 程度で灰色の地山を検出した。現祖父川に向かって標高が低くなると想定される。



第 49 図　中保Ｂ遺跡（坂森地区）調査区位置図

28. 下老子笹川遺跡（高田地区）

所 在 地　　高岡市福岡町下老子 343- 2

調査期間　　平成 25 年 9 月 25 日

対象面積　　202 ㎡

試 掘 坑　　1 本

発掘面積　　約 16.2 ㎡

調査原因　　個人住宅建設

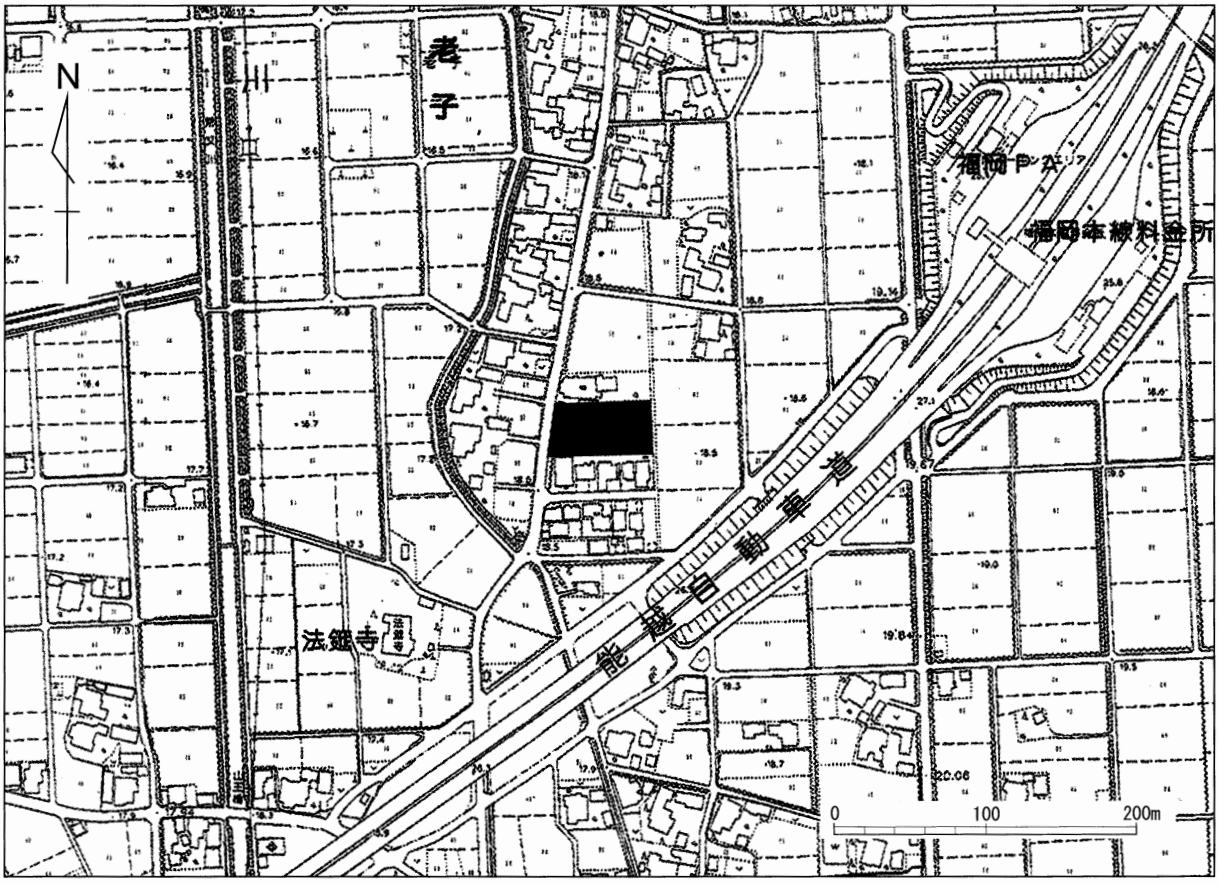
検出遺構　　溝 2 条

出土遺物　　弥生土器、古墳土師器

調査概要

本地点は当遺跡の南西部にあたる。試掘調査は対象地に試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況の把握したところ、遺構は溝 2 条が検出され、遺物は弥生終末期～古墳前期の弥生土器･古式土師器（甕、壺、高杯、器台）が出土した。

地表面下約 40cm まで掘り下げたところ、標高約 17.9 m にて褐色の地山と遺構検出面を確認した。遺構は、溝 2 条を検出した。双方とも立ち上がりが明確でないが、東西軸の褐色土の溝（古段階）が南北軸の黒褐色土の溝（新段階）に切られる。遺物はトレンチ南側にて状態のよい弥生土器・古墳土師器（布留併行）が出土した。その他散発的に弥生土器、古墳土師器が出土した。



第 50 図　下老子笹川遺跡（高田地区）調査区位置図

29. 越中国府関連遺跡（山崎２地区）

所 在 地　　高岡市伏木古国府 717 番２～５、717 番７、721 番

調査期間　　平成 25 年９月 17 日～ 18 日

対象面積　　6,057.20 ㎡（うち掘削可能面積約 1,600 ㎡）

試 掘 坑　　１本

発掘面積　　約 45 ㎡

調査原因　　幼稚園建設

検出遺構　　なし

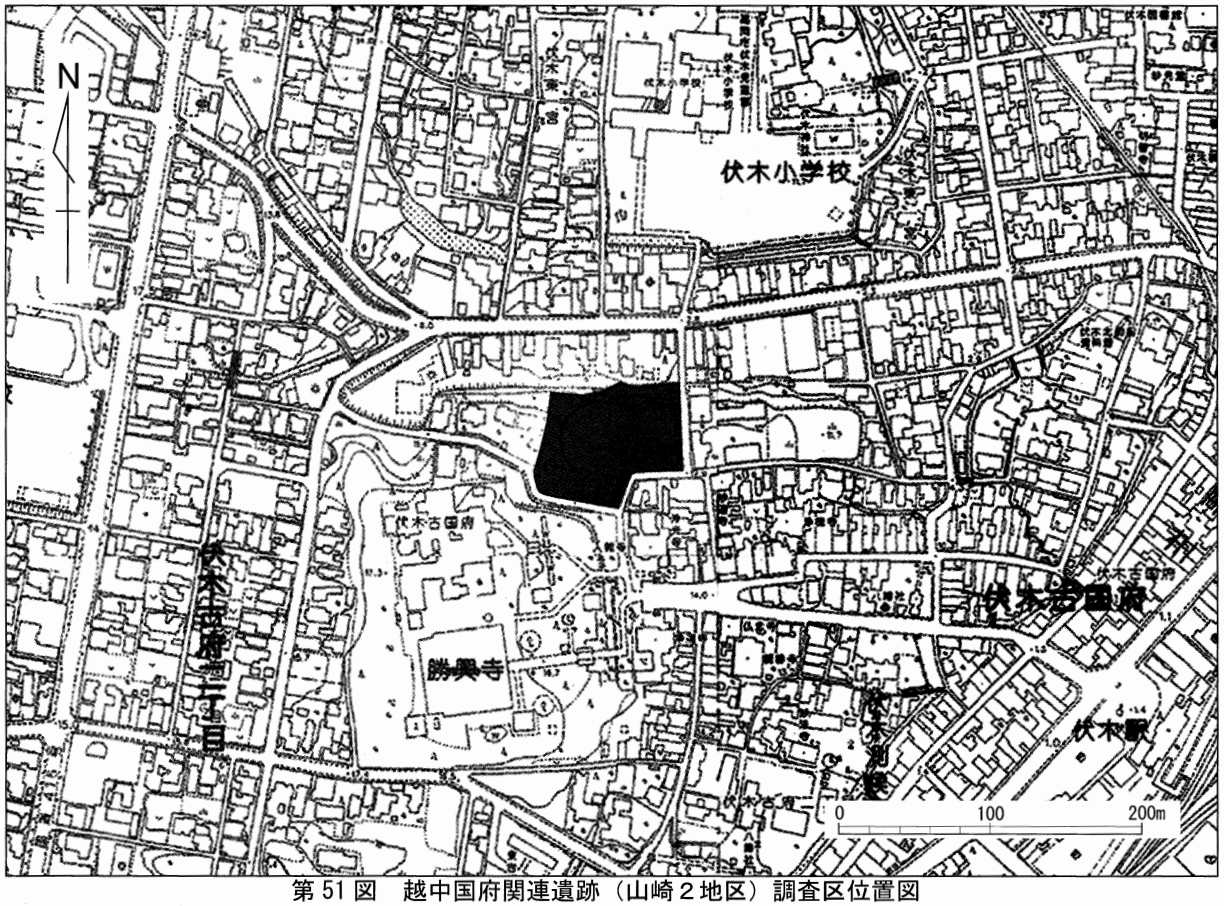
出土遺物　　なし

調査概要

本地点は旧古国府村に所在し、勝興寺の北に隣接する台地辺縁部にあたる。付近の小字「原田」に比定される。既往の調査では、古代の遺構や遺物を確認しており勝興寺境内の発掘調査も含め、古代・中世の遺構の存在が把握されるようになった。勝興寺周辺は国庁推定地であることから、流れ込みの遺物の存在や地形の変換点が想定された。

試掘調査は対象地に試掘坑を２箇所設定し、地下の状況の把握したところ、掘削した２箇所の試掘坑から遺構の検出はなく、遺物の出土もなかった。

平成 24・25 年度の調査結果をまとめると、北側・赤坂谷方向に向かって標高が下がる地形変換点が確認でき、近現代に盛土による地形改変が実施されていることが判明した。また、古代・中世の遺物はほとんど含まず、遺物の流入は確認できなかった。このことから、現存する北側に現存する土塁により遺物の流出が留められて、勝興寺境内に残っている可能性がある。



第 51 図　越中国府関連遺跡（山崎２地区）調査区位置図

30. 越中国府関連遺跡（奥村地区）

所 在 地　高岡市伏木一宮１丁目 163 番、164 番、165 番、166 番

調査期間　平成 25 年 10 月 9 日（水）～ 10 月 18 日（金）　6 日間

対象面積　1003.85 ㎡

試 掘 坑　4 本

発掘面積　約 71.9 ㎡

調査原因　個人住宅建設

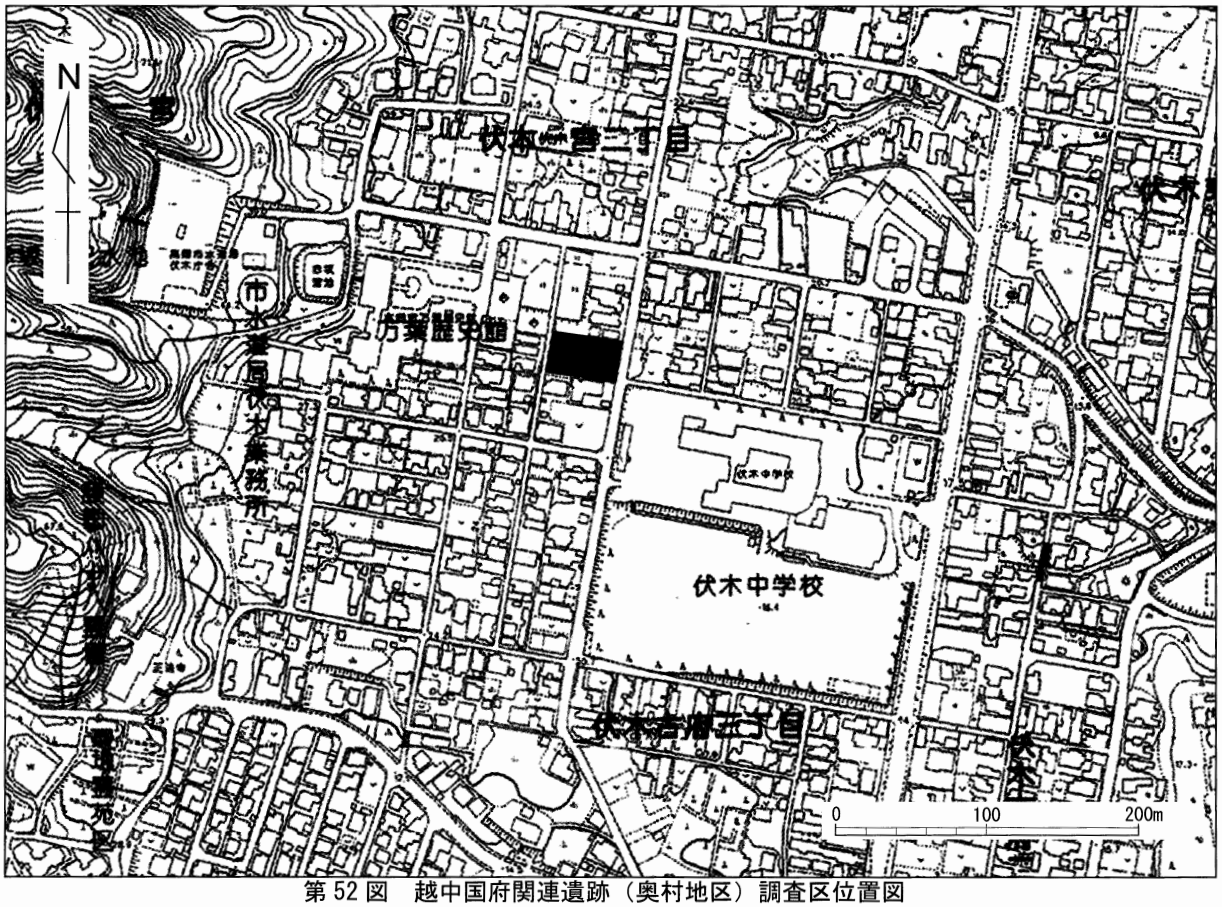
検出遺構　溝 1 条

出土遺物　古代瓦片、古代須恵器、古代土師器、中世珠洲、中世土師器

調査概要

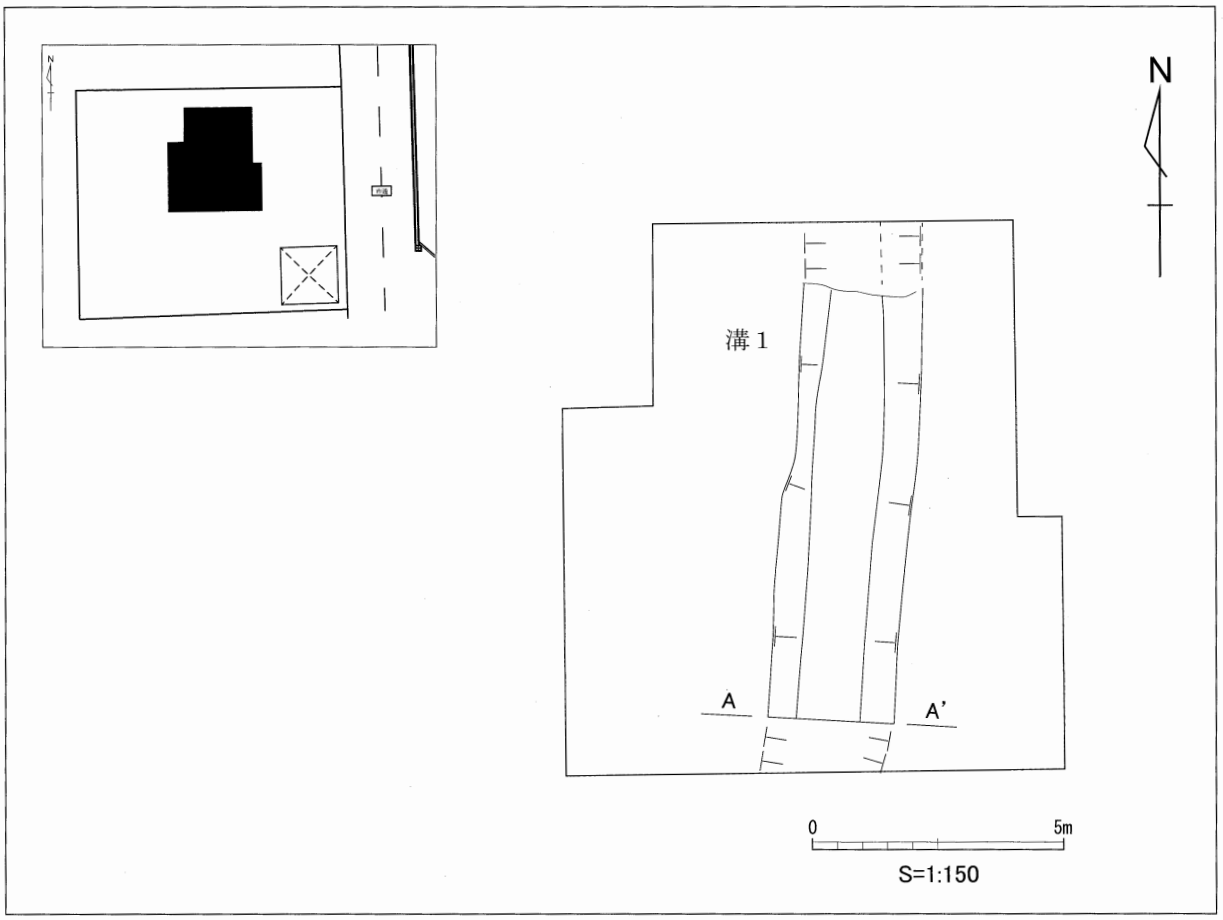
本地点は遺跡の中央に位置する。旧一宮村字五平立ないし熊野に比定される。過年度の高岡市教委による試掘調査では、明確な遺構は発見されておらず、平成 17 年度に串田地区にて遺物の散布が見られる程度である。試掘調査は対象地に試掘坑を４箇所設定し、地下の状況の把握したところ、４箇所の試掘坑からは、遺構は溝が検出され、遺物は古代瓦片、古代須恵器・土師器、中世珠洲、中世土師器（図版三四掲載）が出土した。

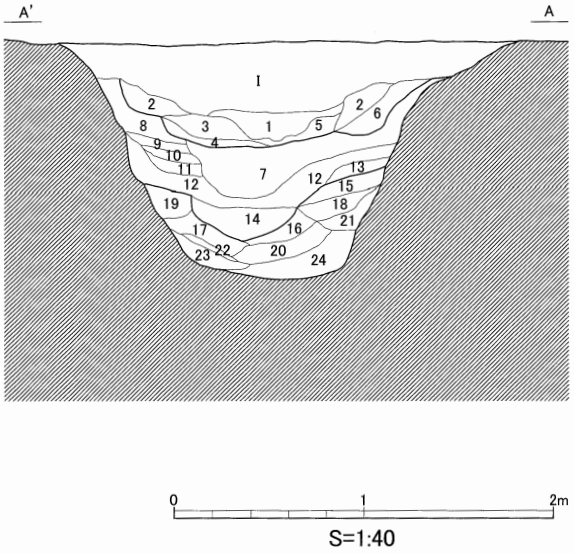
本地点で検出された幅の大きい溝１は、少なくとも２層の溝の底が土層断面に残されており、それらは国府が機能していた時期であると考えられる。特徴は２点あり、１点目は遺物の出土量が少ないこと、２点目は強粘質の埋土ではないことから、常に水が帯水している状態ではなかったことが推測される。また、葦などの自然堆積は含まれないことから、国府の整備時期から維持・管理された溝であることが想定される。



第 52 図　越中国府関連遺跡（奥村地区）調査区位置図

本地点付近の五平立・熊野は古岡英明氏の推定によれば、国府の役人が居住する館や、国分尼寺が想定されており、以前から古代瓦が採取されていた。これらのことから、国分尼寺や国府の各地に所在した施設に関連する溝の可能性が指摘でき、国府の区画を理解する上で重要な遺構と考えられる。溝１を完掘し、記録保存を行った。





1:10YR4/1　褐灰色砂質シルト
2:2.5Y5/1　黄灰色砂質シルト
3:2.5Y7/3　浅黄色砂質シルト
4:10YR5/1　褐灰色砂質シルト
5:2.5Y7/1　灰白色砂質シルト
6:5Y6/1　灰色砂質土
7:5Y6/1　灰色粘質土
8:5Y6/1　灰色砂質シルト
9:5Y6/2　灰オリーブ色砂質シルト
10:10YR6/2　灰黄褐色砂質シルト
11:5Y6/2　灰オリーブ色砂質シルト
12:10YR5/1　褐灰色粘質土
13:10YR5/1　褐灰色砂質シルト
14:2.5Y4/1　黄灰色粘質土
15:5Y6/1　灰色砂質シルト
16:5Y5/1　灰色粘質土
17:10YR5/2　灰黄色砂質シルト
18:5Y6/1　灰色砂質シルト
19:10YR5/3　にぶい黄褐色砂質シルト
20:7.5Y6/1　灰色粘質土
21:5Y6/1　灰色粘質土
22:10YR7/1　灰白色砂質シルト
23:2.5Y5/2　暗灰黄色砂質シルト
24:2.5Y4.1　黄灰色砂質土

第 53 図　越中国府関連遺跡（奥村地区）平面図・断面図

31. 越中国府関連遺跡（秦地区）

所 在 地　高岡市伏木東一宮１-10

調査期間　平成 25 年 10 月 22 日

対象面積　158.38 ㎡

試 掘 坑　１本

発掘面積　約 16.65 ㎡

調査原因　個人住宅建設

検出遺構　なし

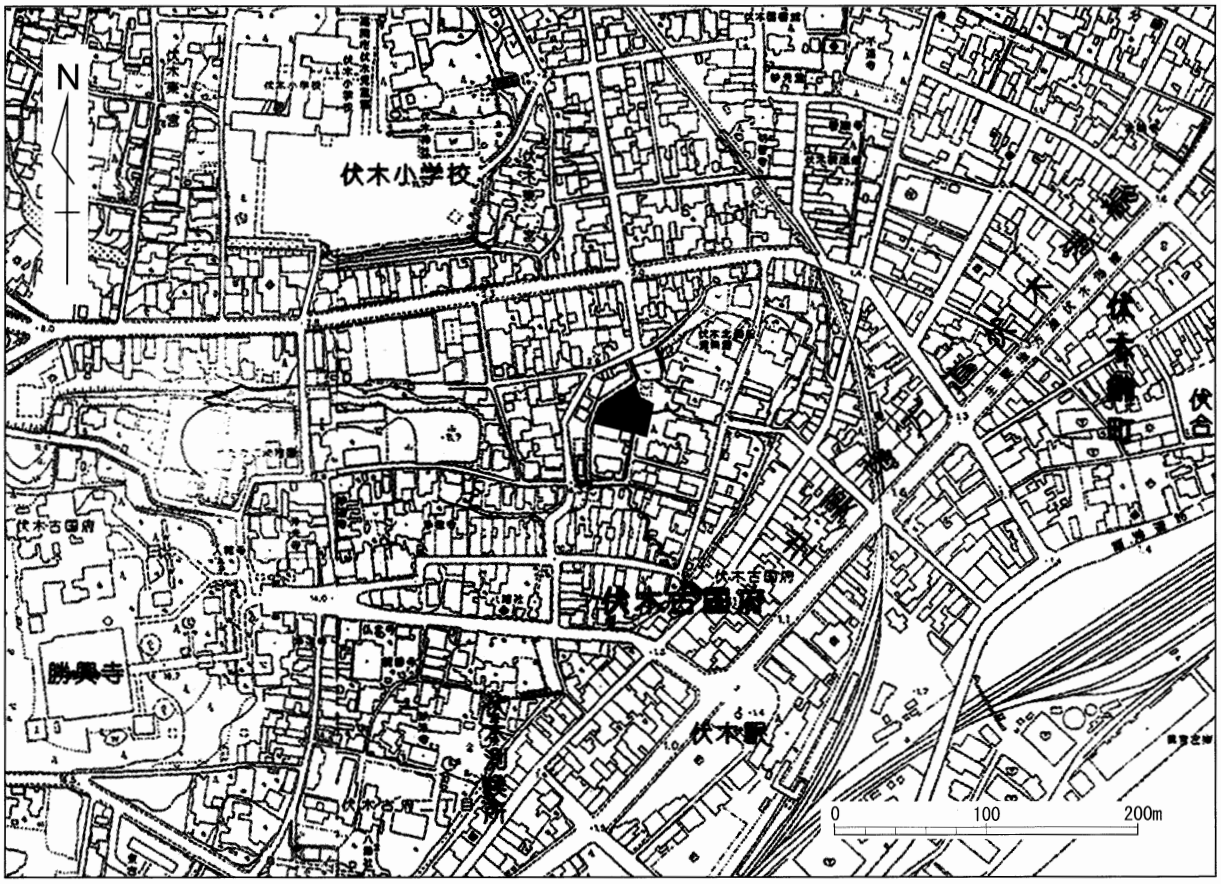
出土遺物　縄文土器、中世珠洲甕、時期不明土師器

調査概要

本地点は旧古国府村字串ヶ館に比定され、勝興寺の寺内町の台地上に立地する。付近の調査事例は少なく、遺構・遺物ともに確認されていない。小矢部川河口や二上山が望める眺望の良い場所である。

対象地に計２箇所のトレンチを配し、地下の状況の把握したところ、現地表面下約 60cm 付近にて地山を検出した。遺構は検出されなかったが、遺物は表土・攪乱土から縄文土器（中期～後期）、中世珠洲（甕）、時期不明土師器、近世肥前陶磁が出土した。

第１トレンチでは、現地表面下約 60cm にて地山を検出した。第２トレンチにおいても同様であり、現況の斜面や地形に大きな変化はないと考えられる。



第 54 図　越中国府関連遺跡（秦地区）調査区位置図

32. 山園町遺跡（柿谷地区）

所 在 地　高岡市二上字院内 484- 5

調査期間　平成 25 年 10 月 31 日

対象面積　223.68 ㎡

試 掘 坑　2 本

発掘面積　約 7.9 ㎡

調査原因　個人住宅建設

検出遺構　なし

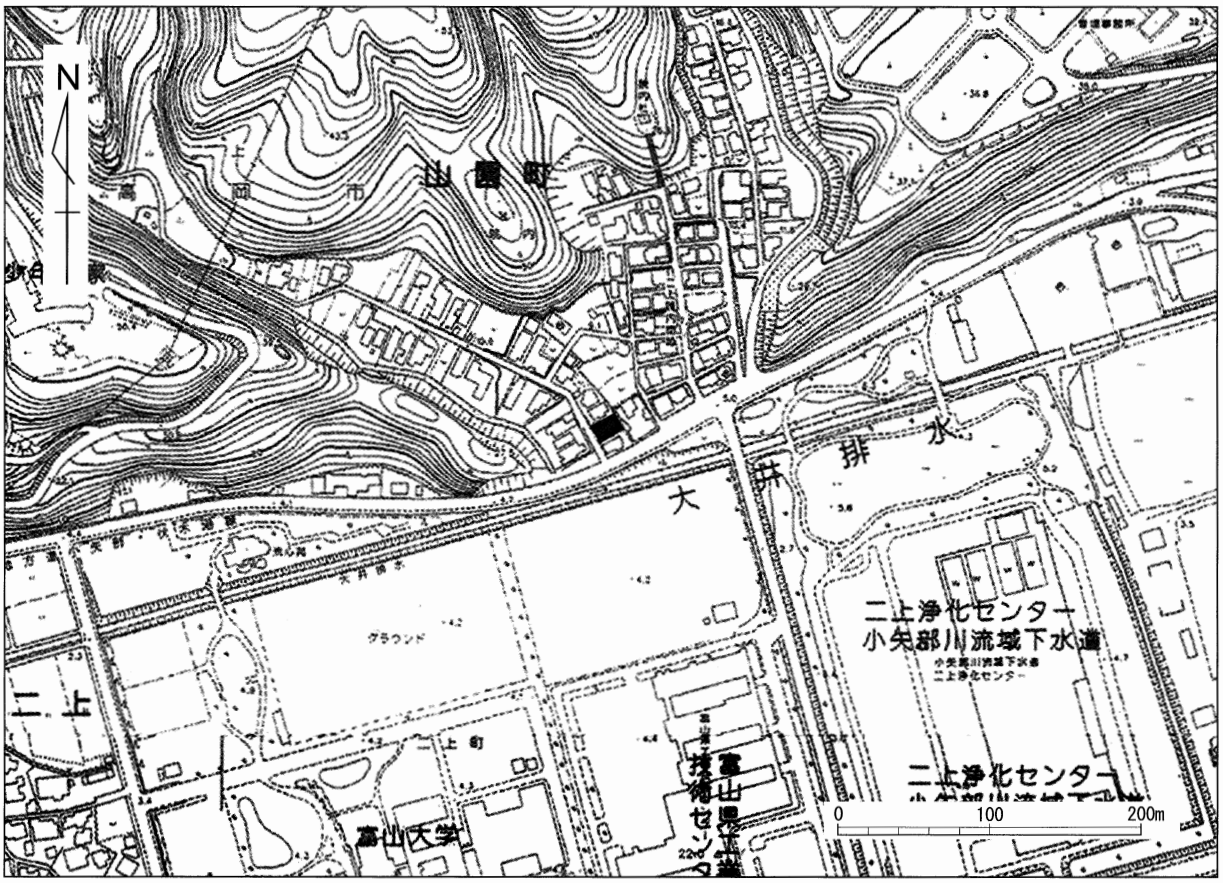
出土遺物　なし

調査概要

本地点は遺跡の南西に位置する。既往の調査では山麓斜面で横穴墓や基壇状遺構などが見つかっている。出土遺物の多くは中世であり、一部古代の遺物も見つかっている。

対象地に試掘坑を２箇所設定し、地下の状況の把握したところ、遺構・遺物は確認できなかった。

西に設定した第１トレンチでは、地表面下約 60 ～ 70cm、標高約 5.7 ～ 5.9 m付近で褐灰色の地山を検出した。東に設定した第２トレンチでは、地表面下約 40cm で地山を検出している。宅地造成時に盛土・整地していることから、団地内の宅地下にも遺構が残っている可能性がある。



第 55 図　山園町遺跡（柿谷地区）調査区位置図

33. 越中国府関連遺跡（ホームサポートオダケ地区）

所 在 地　高岡市伏木古府二丁目 237 番 1

調査期間　平成 25 年 11 月 14 日

対象面積　204.29 ㎡

試 掘 坑　1 本

発掘面積　約 6 ㎡

調査原因　個人住宅建設

検出遺構　なし

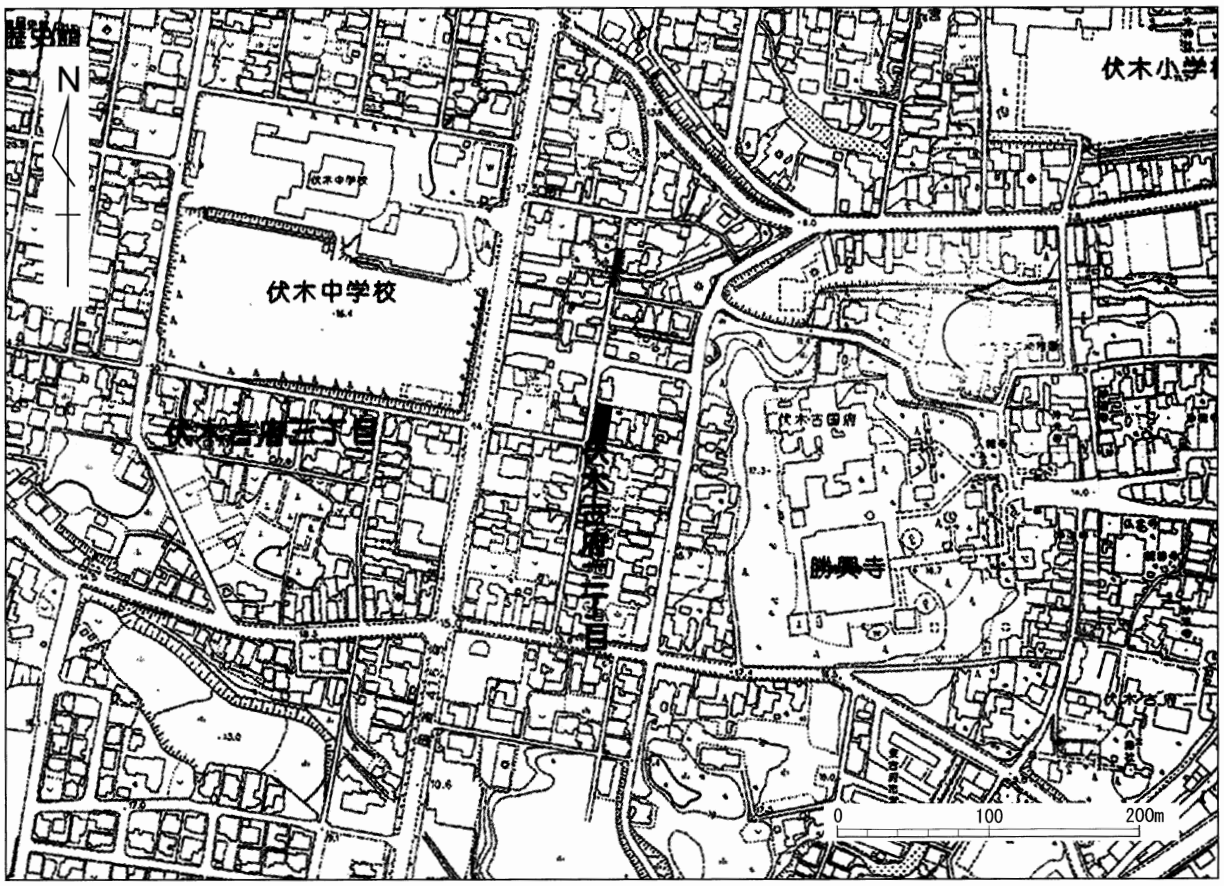
出土遺物　なし

調査概要

本地点は遺跡の中央に位置し、旧古府村字窪木に所在する。勝興寺西側には浅い窪地があり、その周辺に小高い平地が広がる。周辺における既往の試掘調査では、遺構・遺物は検出されていない。

試掘調査は計 1 本のトレンチを配し地下の状況の把握につとめたところ、現地表面下約 70 ～ 80 ㎝、標高約 12.3 m付近にて褐灰色の地山を検出した。遺構の検出はなく、遺物は古代須恵器（壺・甕・杯）、古代土師器（杯・甕ほか）、時期不明土師器が出土した。

北側の第 1 トレンチでは、深さ約 50cm 程度の褐色土より古代の遺物が出土した。このことから、古代の遺物包含層が一体に広がっていると考えられる。



第 56 図　越中国府関連遺跡（ホームサポートオダケ地区）調査区位置図

34. 井口本江遺跡（再開発地区４）

所 在 地　　高岡市井口本江地内

調査期間　　平成 26 年 1 月 31 日～3 月 24 日

対象面積　　5,813 ㎡

試 掘 坑　　7 本

発掘面積　　約 238.36 ㎡

調査原因　　土地再開発

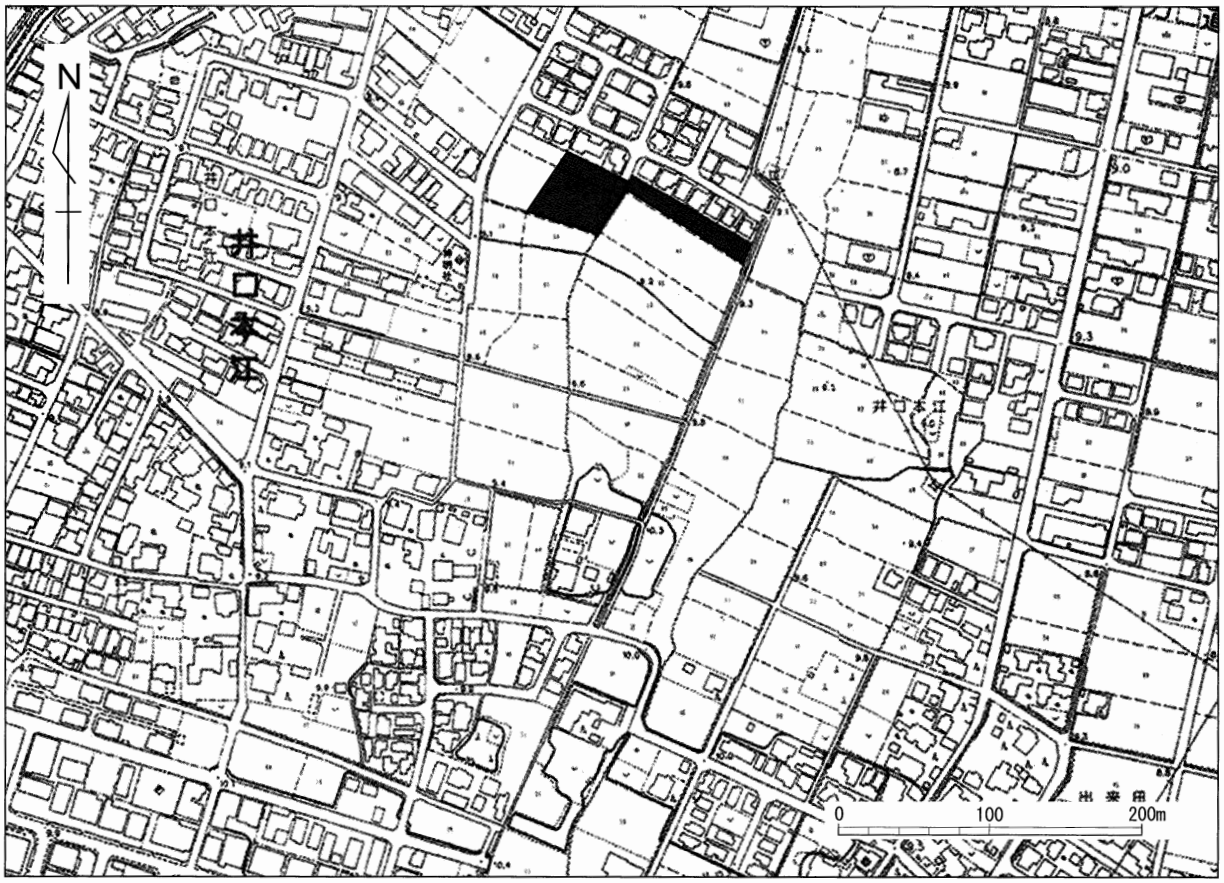
検出遺構　　土坑３基、ピット３基、溝２条

出土遺物　　古代須恵器、古代土師器、中世珠洲、近世越中瀬戸、時期不明土師器

調査概要

本地点は遺跡の北側に位置する。試掘調査は７本のトレンチを設定し、地下の状況を把握したところ、遺構は土坑３基、ピット４基、溝３条を検出した。遺物は古代須恵器・土師器、中世珠洲などが出土した。遺構は遺跡西側を中心に確認され、南北方向に走る溝状遺構と、溝周辺に土坑、ピットが検出された。遺構に伴う遺物はなかった。

周辺地形は大きく三分され、東西に北側に張り出した微高地と中央の低地（谷部）に分けられることが考えられる。県道能町庄川線は東側の微高地上の集落であり、本地点西側の遺構群は西側微高地に広がる遺構群となる。現地表の標高 10m 付近まで中央の低地が入り込み、付近から弥生中～後期の集落が検出されている。これらの結果から、遺跡中央から南側には縄文晩期の自然流路や弥生中期、古代の集落が、遺跡北側の微高地端部には中世～近世の集落が広がっていると考えられる。



第 57 図　井口本江遺跡（再開発地区 4）調査区位置図

35. 北木津遺跡（金山不動産地区）

所 在 地　　高岡市木津 625 番１、626 番１

調査期間　　平成 25 年 12 月 17 日

対象面積　　1,816 ㎡

試 掘 坑　　１本

発掘面積　　約 86.24 ㎡

調査原因　　宅地造成

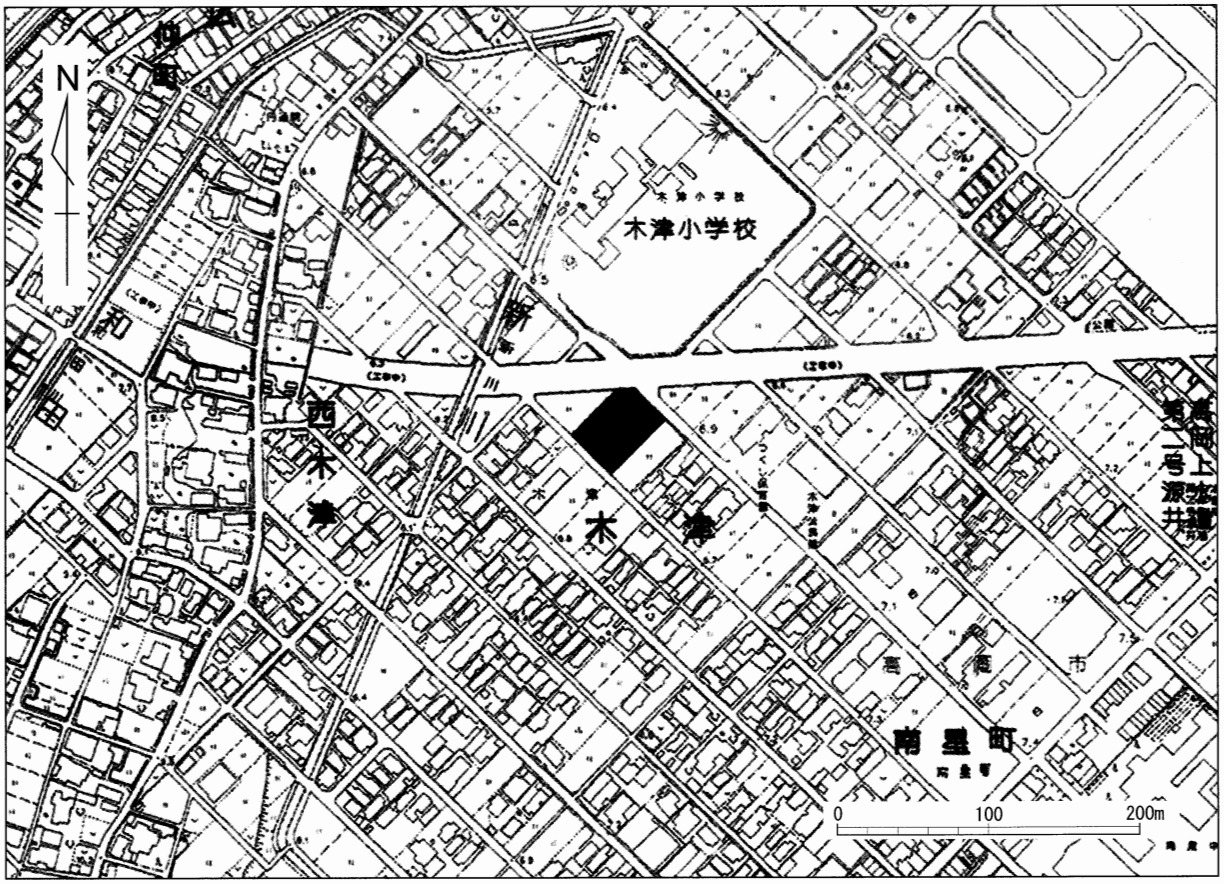
検出遺構　　土坑３基、ピット３基、溝２条

出土遺物　　古代須恵器、古代土師器、中世珠洲、近世越中瀬戸、時期不明土師器

調査概要

本地点は遺跡の北側に位置する。周辺における既往の調査では、遺構の検出例はなく、主に中世の遺物が出土している。

対象地に計１本のトレンチを配し地下の状況の把握につとめたところ、現地表面下約20～30㎝、標高約5.7～5.9ｍ付近にて灰褐色の地山を検出した。遺構は検出されず、遺物は近世唐津片が出土した。近辺に生活の痕跡が見られないことから、流れ込みの遺物と考えられる。



第 58 図　北木津遺跡（金山不動産地区）調査区位置図

36. 中木津遺跡（市道南側地区）

所 在 地　高岡市木津 1003 番地３外

調査期間　平成 26 年２月 19 日

対象面積　712 ㎡

試 掘 坑　１本

発掘面積　約 82.8 ㎡

調査原因　道路建設

検出遺構　土坑・穴 11 基、溝６条

出土遺物　古代須恵器（杯・壺・瓶類）

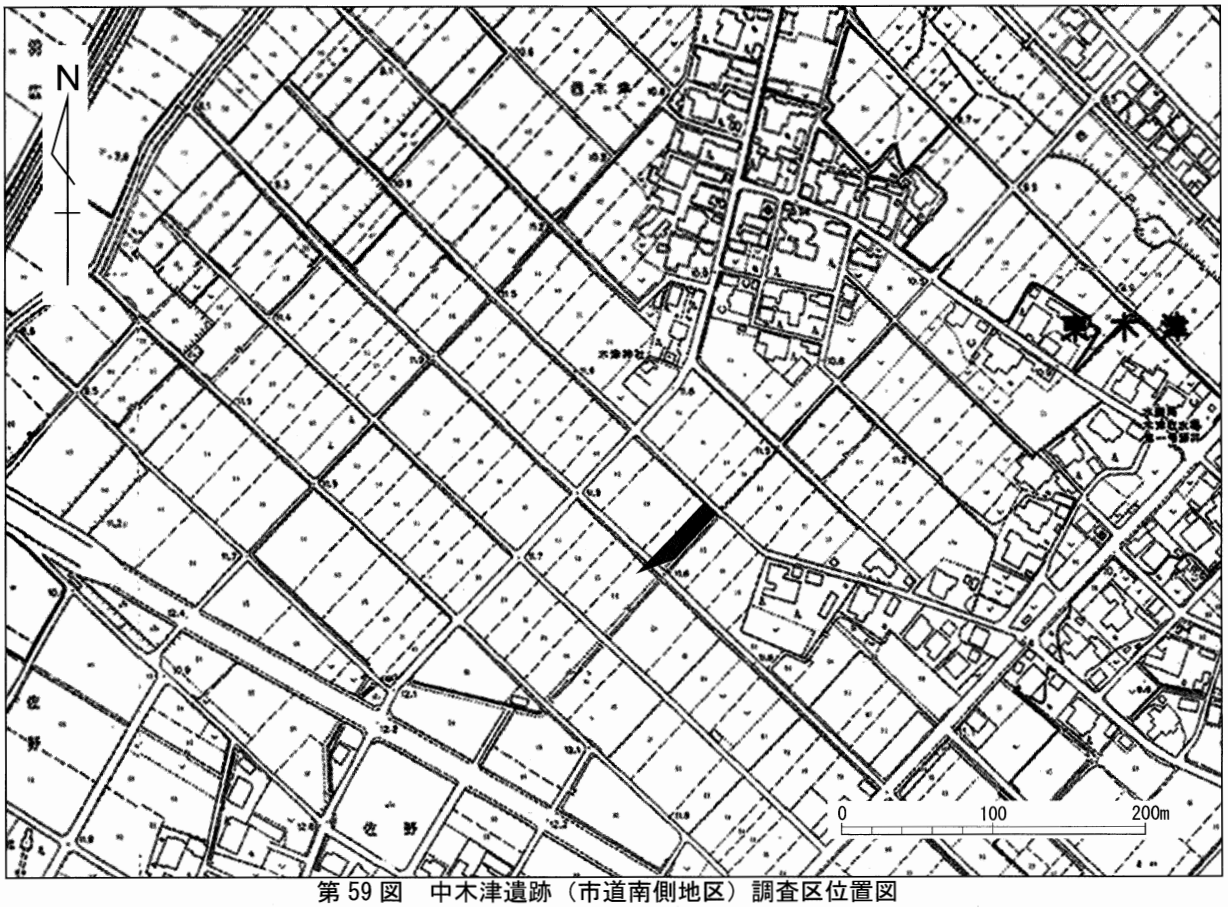
調査概要

中木津遺跡は、祖父川と千保川に挟まれた微高地に位置する。区画整理による本調査では、主に古代～中世・近世の集落が検出されている。

本地点は遺跡の南東側に位置する。試掘調査は対象地に１箇所の地下の状況の把握したところ、遺構は土坑・穴 11 基、溝６条を検出した。遺物は古代須恵器杯１点、壺・瓶類１点が出土した。

地表面下約 20 ～ 30cm まで掘り下げたところ、標高約 11.0 ～ 11.1 m付近にて黄褐色の遺構検出面を確認した。溝は東西軸、南北軸の幅員の狭い小規模なもので、土坑・穴は主に北西側で検出した。

これらのことから、遺跡南東側に遺構群の広がることが判明した。広範囲で地下の埋蔵文化財を破壊する恐れがあるため、平成 26 年度に本発掘調査を実施した。



第 59 図　中木津遺跡（市道南側地区）調査区位置図

37. 東木津遺跡（市道地区）

所 在 地　高岡市佐野 853 番地３外

調査期間　平成 26 年１月 29 日～ 30 日、２月 20 日～ 21 日

対象面積　2,086 ㎡

試 掘 坑　５本

発掘面積　約 246.5 ㎡

調査原因　道路建設

検出遺構　土坑 12 基、柱穴１基、溝 10 条、落ち込み１箇所

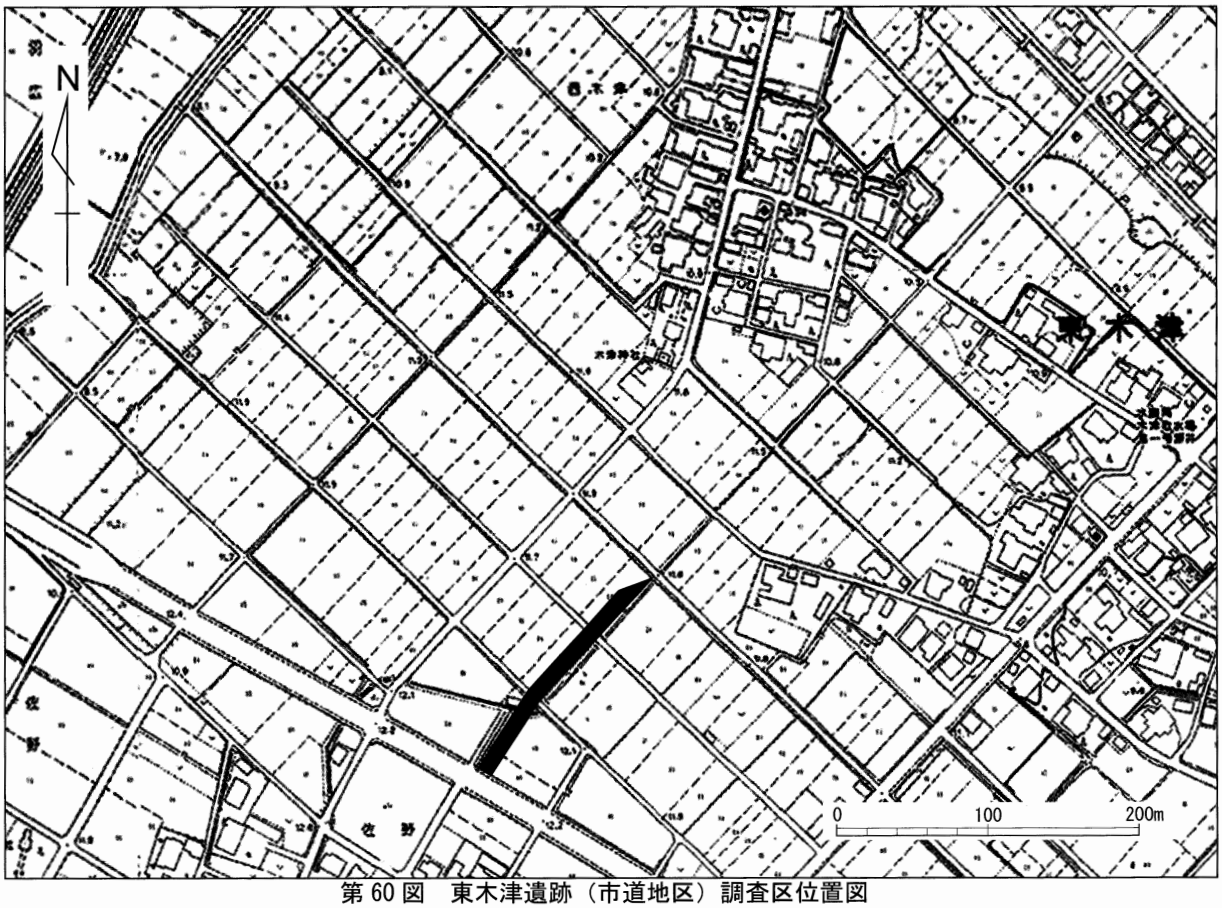
出土遺物　古代須恵器（杯Ｂ・甕）、中世土師器皿、時期不明土師器

調査概要

東木津遺跡は、祖父川と千保川に挟まれた微高地に位置する。古代を中心とする集落遺跡であるが、官衙的な遺構・遺物もあり、荘園や古代の役所との関連が指摘される遺跡である。

本地点は遺跡の北西に位置し、中木津遺跡と接する。試掘調査は対象地に試掘坑を５箇所設定し、地下の状況の把握に努めた。掘削した５箇所の試掘坑からは、遺構は土坑 12 基、柱穴１基、溝 10 条と落ち込み１個所を検出した。遺物は古代須恵器（杯Ｂ・甕）、中世土師器皿、時期不明土師器５点以上が出土した。対象範囲のうち北側にて多くの遺構・遺物が確認された。

柱穴や小規模な土坑が多く検出されていることから、掘立柱建物が存在する可能性がある。土坑９は性格不明であるものの、一部柱穴のような落ち込みが確認される。土坑 16 は中世土師器が出土していること、また包含層中・表土中に古代の遺物があることから古代・中世の集落が存在する可能性が高い。平成 26 年度に本発掘調査を実施した。



第 60 図　東木津遺跡（市道地区）調査区位置図

38. 上野Ｂ遺跡（向井地区）

所 在 地　高岡市福岡町上野 70 番の一部

調査期間　平成 26 年２月 17 日

対象面積　557.44 ㎡

試 掘 坑　２本

発掘面積　約 10.5 ㎡

調査原因　個人住宅建設

検出遺構　なし

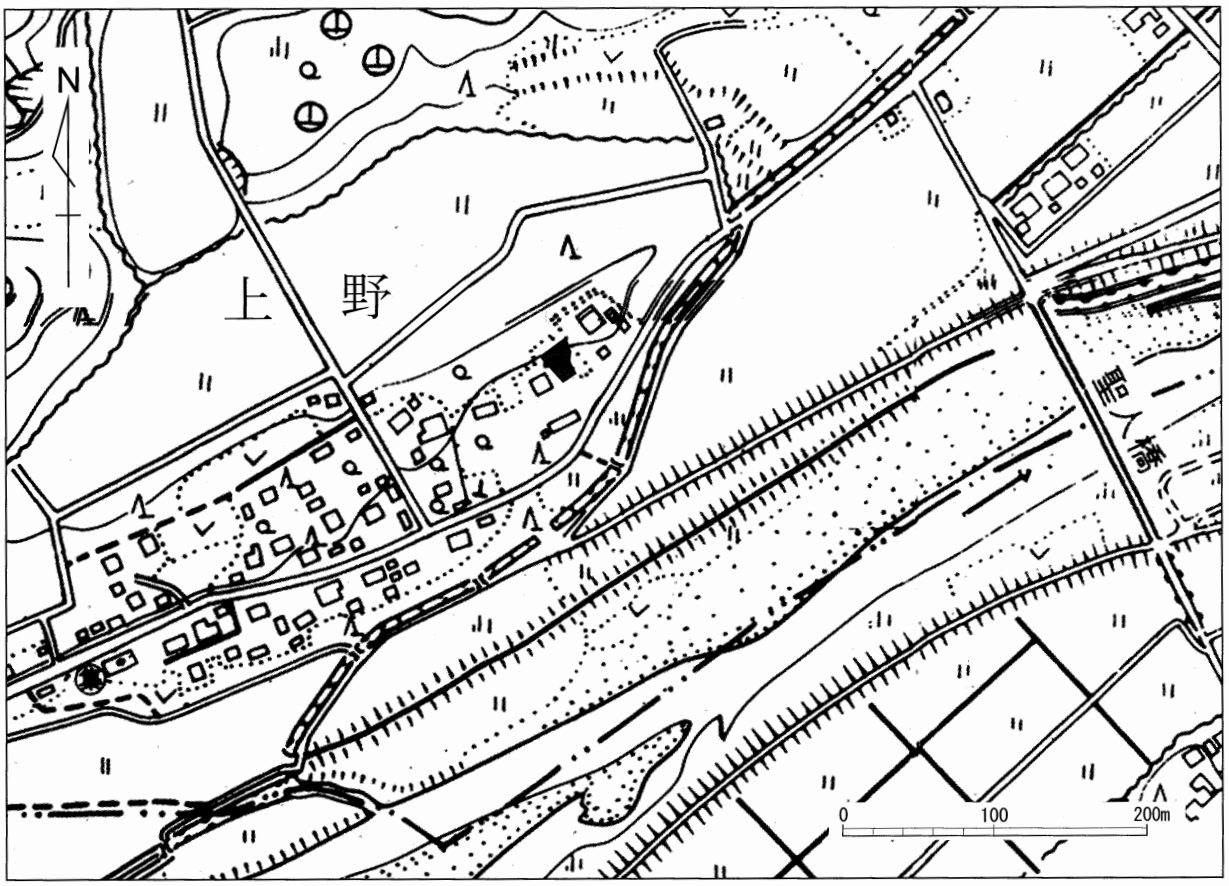
出土遺物　なし

調査概要

上野Ｂ遺跡は、小矢部川左岸の台地上に所在する縄文前期・中期の散布地である。西に接する上野Ａ遺跡では、縄文前期～中期の縄文土器が台地上で表採され、町道建設の際にも出土している。

本地点は遺跡の中央に位置する。周辺は遺跡の西側の旧福岡町の町道の建設に伴う試掘調査と、県道 32 号線沿いの崖線の倉庫の建設時に試掘調査を行ったが、遺構・遺物は見つかっていない。

試掘調査は対象地に試掘坑を２箇所設定し、地下の状況の把握したところ、本日掘削した２箇所の試掘坑から遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。



第 61 図　上野Ｂ遺跡（向井地区）調査区位置図

39. 江尻Ｃ遺跡（高野地区）

所 在 地　高岡市江尻字村中 705 番、706 番

調査期間　平成 26 年２月 25 日

対象面積　137.6 ㎡

試 掘 坑　１本

発掘面積　約 5.52 ㎡

調査原因　個人住宅建設

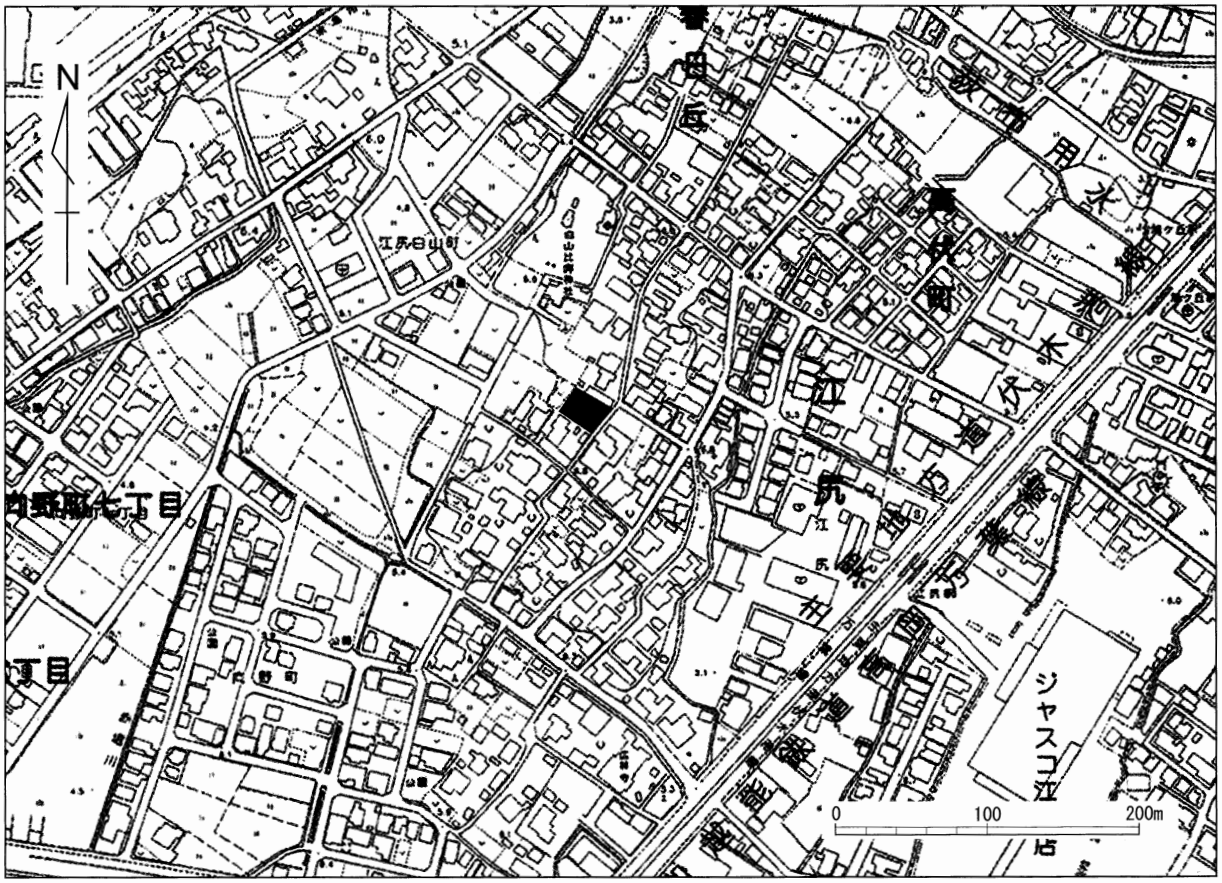
検出遺構　なし

出土遺物　なし

調査概要

本地点は遺跡の南に位置する。本遺跡は調査履歴がなく、初の試掘調査となる。遺跡北側には、白山比咩（ひめ）神社が所在し、遺跡周辺は周辺に比べて微高地状に高くなる。周辺遺跡の調査では、古代須恵器、古代土師器の出土が確認されている。

対象地に計１本のトレンチを配し地下の状況の把握につとめたところ、現地表面下約 10 ～ 15 ㎝、標高約 6.3 m 付近にて地山を検出した。下層確認のため、現地表面下約 80 ㎝まで掘削したが、褐色・黒褐色の砂質土が続き、変化は見られなかった。遺物・遺構ともに検出できなかった。



第 62 図　江尻Ｃ遺跡（高野地区）調査区位置図

40. 蓮花寺遺跡（松下地区）

所 在 地　　高岡市蓮花寺 644- 1

調査期間　　平成 26 年 2 月 27 日

対象面積　　1,254 ㎡

試 掘 坑　　1 本

発掘面積　　約 102 ㎡

調査原因　　集合住宅建設

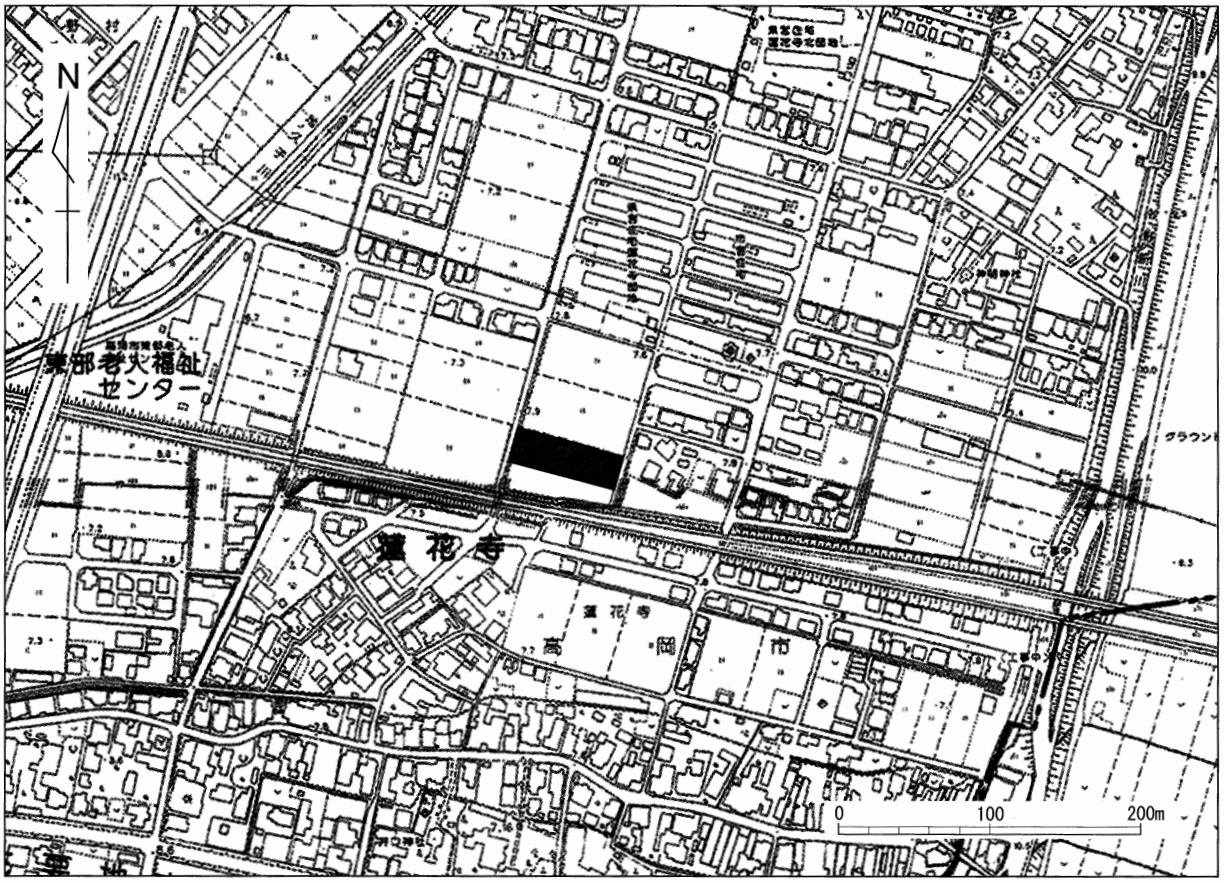
検出遺構　　溝 1 条

出土遺物　　なし

調査概要

蓮花寺遺跡は平安時代から中世にかけての散布地である。遺跡範囲内には、市指定文化財である古代の鉄鉢や中世の宝筐印塔が伝えられる真言宗等覚山蓮華寺が所在している。近隣の調査では、遺構・遺物は見つかっておらず、遺物は分布調査時に確認されたもののみである（高岡市教委 1996b・2009 他）。

本地点は遺跡の北西に位置する。対象地に計 1 本のトレンチを配し地下の状況の把握につとめたところ、現地表面下約 30 ㎝、標高約 7.3 m付近で検出面と地山を検出した。遺物は溝 1 条を検出し、遺構の出土はなかった。調査区東側にて北東－南西方向に走る幅 4 m程度の溝を検出したが、出土遺物はなかった。



第 63 図　蓮花寺遺跡（松下地区）調査区位置図

41. 鷲北新遺跡（あかね会２地区）

所 在 地　高岡市鷲北新字村上 192、193- 1 、196- 1

調査期間　平成 26 年３月 24 日

対象面積　809.10 ㎡

試 掘 坑　４本

発掘面積　約 44.05 ㎡

調査原因　福祉施設建設

検出遺構　土坑７基

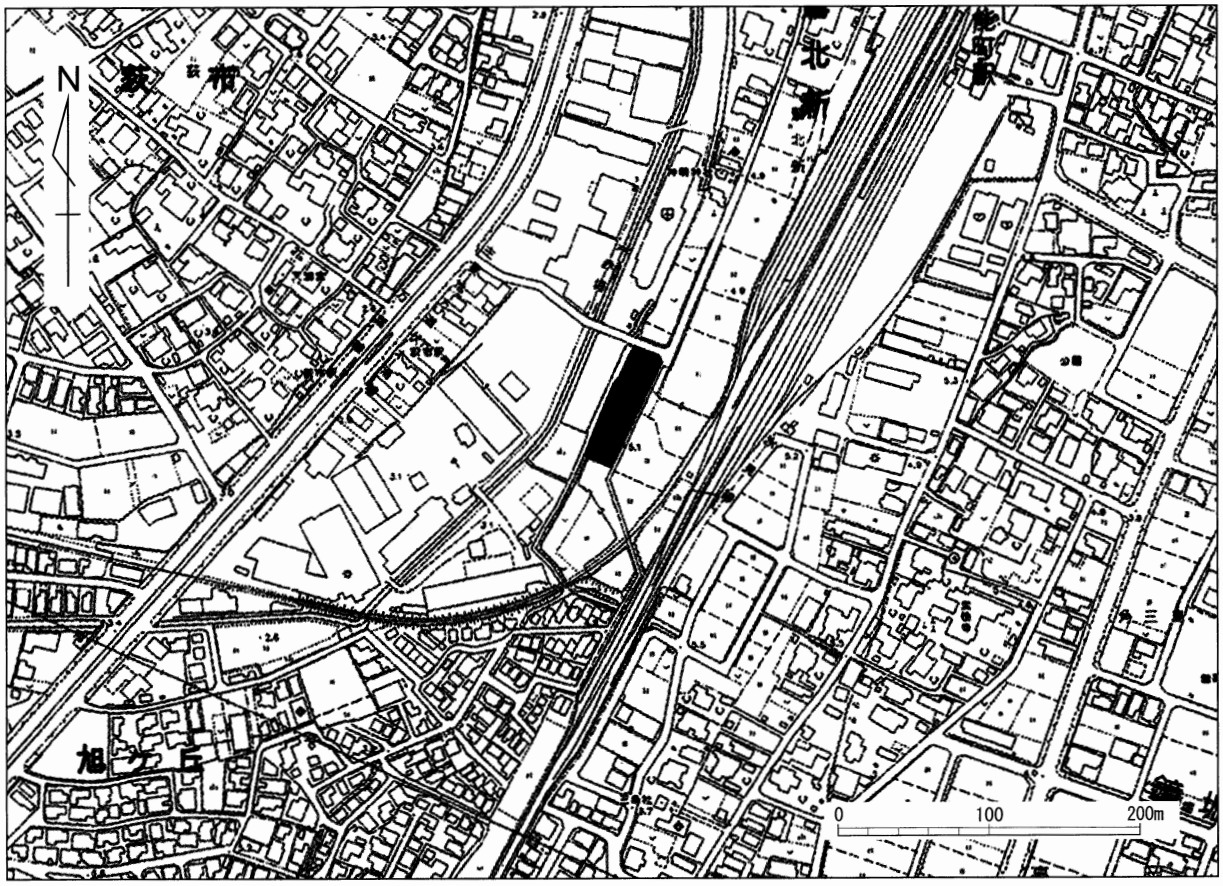
出土遺物　弥生土器、古墳土師器、古代須恵器（杯他）、時期不明土師器

調査概要

鷲北新遺跡は、小矢部川と庄川に挟まれた標高約５ｍの微高地に位置する。平成８年度に弥生～中世の集落が見つかり、平成 25 年度に能町地区で初となる弥生終末期～古墳前期の方形周溝墓や古代・中世の遺構が本発掘調査で見つかった。

本地点は遺跡の西端にあたる。試掘調査は対象地に試掘坑を４箇所設定し、地下の状況の把握したところ、２箇所の試掘坑から土坑７基、溝数条が検出され、遺物は弥生土器・古墳土師器 12 点以上、古代須恵器２点、時期不明土師器数点が出土した。

対象地北側では土坑７基、溝１条を検出した。いずれも深さは浅い。一部の土坑から弥生土器や時期不明土師器が出土した。その他、灰褐色土から弥生土器・古墳土師器が８点以上、古代須恵器杯１点・器種不明１点が出土した。本地点は墓域ではなく、弥生終末期～古墳時代前期の集落や古代の集落が北側に広がっている可能性がある。



第 64 図　鷲北新遺跡（あかね会２地区）調査区位置図

42. 石堤長光寺遺跡（織田地区）

所 在 地　高岡市石堤 599、600、601

調査期間　平成 26 年３月６日

対象面積　241 ㎡

試 掘 坑　１本

発掘面積　約 11.05 ㎡

調査原因　駐車場建設

検出遺構　土坑１基、柱穴１基、溝

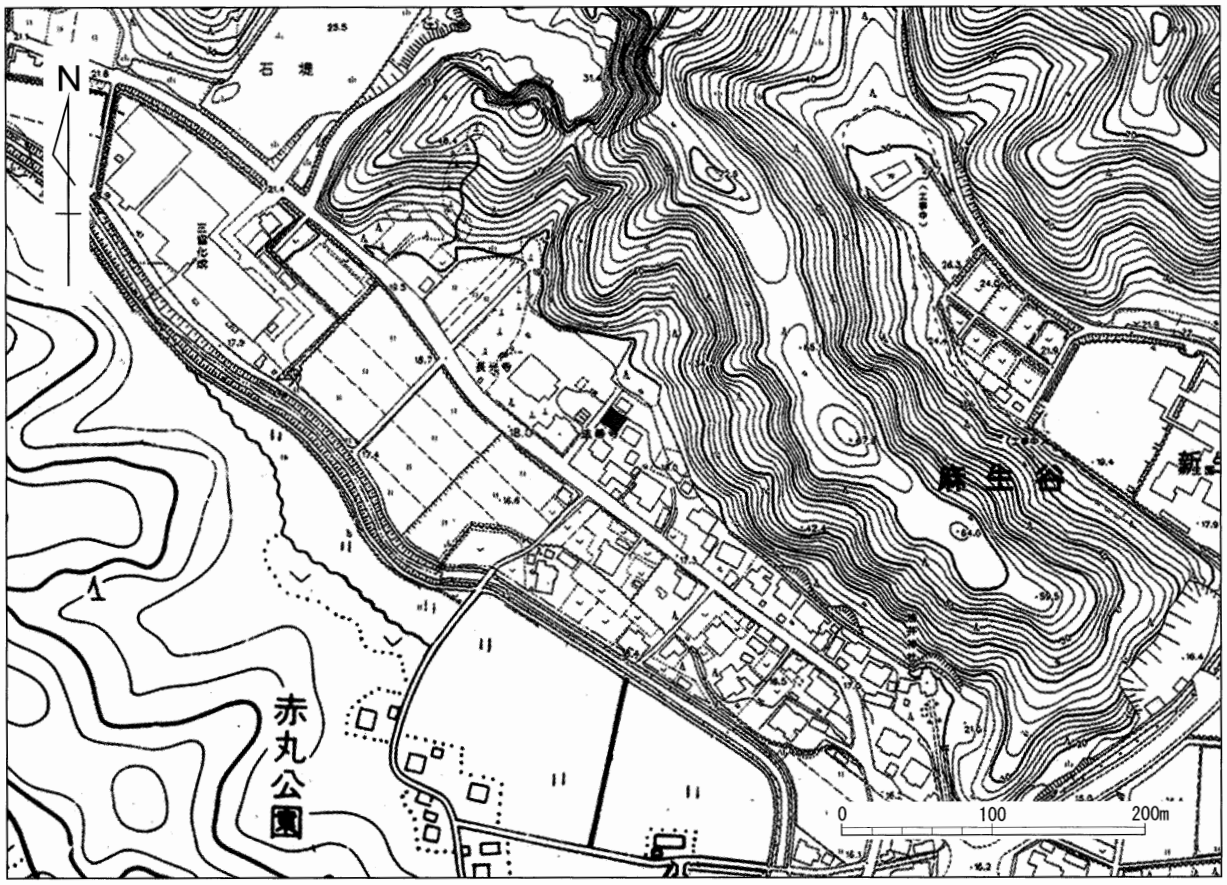
出土遺物　中世珠洲大甕、時期不明土師器、越中瀬戸、擂り鉢

調査概要

本地点は遺跡の南東の隣接地に位置する。既往の試掘調査では、弥生後期の土器溜まりや古代の集落、中世の遺物散布地が確認されている（高岡市教委 1996b・2005a）。

本地点の試掘調査は計１本のトレンチを配し地下の状況の把握につとめたところ、現地表面下約 70 ㎝付近で遺構面を検出した。遺構は土坑１基と柱穴１基、溝数条を検出した。遺物は中世珠洲・甕、近世越中瀬戸・擂鉢、時期不明土師器が出土した。

本地点の調査により、遺跡範囲外へ遺構が広がることが明らかとなった。



第 65 図　石堤長光寺遺跡（織田地区）調査区位置図

参考文献

石川考古学研究会・北陸古代土器研究会編　1988 『シンポジウム　北陸の古代土器研究の現状と課題　資料編』

石川県埋蔵文化財センター　1986 『漆町遺跡Ⅰ』

内田亜紀子　2003・2004「富山県の黒色土器」「富山県の黒色土器（２）」『富山考古学研究』第５、６号
富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

大川原竜一・山路直充　2003 「古代の墨」『古代の陶硯をめぐる諸問題』 奈良文化財研究所

小栗由希代　2003 「古代越中における陶硯に関する一考察」『富山市考古資料館紀要』第 22 号

梶原義実　2010 「国分寺瓦の研究」 名古屋大学出版会

木下　良　2009 『事典　日本古代の道と駅』 吉川弘文館

高岡市立伏木小学校編　2011 『伏木小学校にある古い石器・土器の記録』

高岡市　1959 『高岡市史』 上巻

高岡市　1991 『たかおか　歴史との出会い』

田辺昭三　1966 『陶邑古窯址群Ⅰ』平安学園考古学クラブ

中世土器研究会編　1995 『概説　中世の土器・陶磁器』

富山県　1972 『富山県史　考古編』

富山県教育委員会　1967 『越中国分寺とその周辺の遺跡調査報告書』

富山県教育委員会　1984 『小杉流通業務団地内遺跡群　第６次緊急発掘調査概要』

富山県埋蔵文化財センター　2011 「下佐野遺跡発掘調査報告書」

奈良文化財研究所編　2003・2004 『古代の官衙遺跡Ⅰ－遺構編－』『古代の官衙遺跡Ⅱ－遺物・遺跡編』

根津明義　2009 「古代越中における官衙的様相と在地社会」
『環日本海歴史民俗学叢書 13　古代の越中』 高志書院

古岡英明・西井龍儀他　1987 『北陸の古代寺院　その源流と古瓦』 北陸古瓦研究会編　桂書房

古岡英明　1990 「越中国府と万葉集」『ふるさとの万葉　越中』 高岡市万葉歴史館編

間坂儀一朗他　1977 「資料編（二）牧野の今昔史」『牧野小学校百年史』牧野小学校百年史編纂委員会編

山中敏史　1994 『古代地方官衙遺跡の研究』 塙書房

富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

1996　『梅原護摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）』

2006　『下老子笹川遺跡発掘調査報告』

2007　『岩坪岡田島遺跡・手洗野赤浦遺跡・近世北陸道遺跡発掘調査報告』

2013a 『下黒田遺跡・下佐野遺跡・諏訪遺跡・蔵野町東遺跡・蔵野町遺跡・駒方遺跡発掘調査報告』

2013b 『下老子笹川遺跡・江尻遺跡発掘調査報告』

2013c 『井口本江遺跡発掘調査報告』

高岡市教育委員会

1986 『美野下遺跡調査概報』

1987a『越中国府関連遺跡調査概報Ⅰ』

1989 『越中国府関連遺跡調査概報Ⅲ』

1987b『西山丘陵埋蔵文化財分布調査概報Ⅳ』

1988 『越中国府関連遺跡調査概報Ⅱ』

1991a『越中国府関連遺跡調査概報Ⅴ』

1991b『高岡市埋蔵文化財分布調査概報Ⅱ』

1994 『越中国府関連遺跡調査概報Ⅵ』

1996a『越中国府関連遺跡調査概報Ⅶ』

1996b『市内遺跡調査概報Ⅵ』

1999 『国吉・石堤地区の遺跡調査概要』

2000 『市内遺跡調査概報Ⅹ』

2001 『市内遺跡調査概報ⅩⅠ』

2002 『中保Ｂ遺跡調査報告』

2005a『市内遺跡調査概報ⅩⅤ』

2005b『中曽根西遺跡調査報告』

2009 『市内遺跡調査概報ⅩⅧ』

2010a『中曽根西遺跡調査報告Ⅱ』

2010b『越中国府関連遺跡調査報告』

2011a『市内遺跡調査概報ⅩⅩ』

2011b『石塚遺跡調査概報Ⅱ』

2011c『下佐野遺跡調査報告Ⅱ』

2012 『石名瀬Ａ遺跡調査報告』

2013 『市内遺跡調査概報ⅩⅩⅡ』

2014a『市内遺跡調査概報ⅩⅩⅢ』

2014b『中木津遺跡・西木津遺跡発掘調査報告』

福岡町教育委員会

1992 『富山県福岡町上野Ａ遺跡発掘調査概要』富山県埋蔵文化財センター編

2003 『上野Ｂ遺跡発掘調査報告Ⅱ』

平成24年度本調査　越中国府関連遺跡　牧野地区　遺物観察表

番号	出土遺構	器種	大きさ ( )内は復元・残存	色調	焼成・胎土	器形・成形・文様・調整の特徴	残存率	備考
1	B区 SD101	須恵器 杯A	口縁部径11.9cm 器高3.2cm 底部径7.0cm	内外面　灰白色(5Y8/1)	焼成　良 胎土　密	外面回転ナデ、底部ヘラ切り。内面回転ナデ。底面墨書あり。内面は朱墨付着か。	1/5以下	
2	B区 SD101	須恵器 杯蓋	口縁部径13.4cm 器高3.5cm 底部径-	内外面　10YR7/1(灰白色)	焼成　良 胎土　密	外面つまみ貼付時ナデ、ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ。	ほぼ完形	
3	B区 SD101	須恵器 杯蓋	口縁部径13.0cm 器高(2.1cm) 底部径-	外面　10YR6/1(褐灰色) 内面　10YR6/1(褐灰色)	焼成　良 胎土　密	転用硯。朱墨(2.5Y5/6:明赤褐色)付着。外面つまみ貼付時ナデ、ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ。	1/4以下	
4	B区 SD101	須恵器 杯蓋	口縁部径16.0cm 器高(1.5cm) 底部径-	外面　10YR6/1(褐灰色) 内面　10YR6/1(褐灰色)	焼成　良 胎土　密	転用硯。朱墨(2.5Y5/6:明赤褐色)付着。外面ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ。	1/8以下	
5	B区 SK05	須恵器 杯A	口縁部径- 器高(5.3cm) 底部径-	内外面　黄橙色(10YR8/6)	焼成　不良・生焼 胎土　やや粗	外面回転ナデ、底部ヘラ切り。内面回転ナデ。器面磨耗。口縁部タール付着。	ほぼ完形	
6	B区 SK05	須恵器 杯A	口縁部径13.6cm 器高4.3cm 底部径7.8cm	外面　灰色(7.5Y6/1) 内面　灰色(7.5Y6/1)	焼成　良 胎土　密	外面回転ナデ、回転ヘラ切り。内面回転ナデ。	1/3以下	
7	B区 SD101	須恵器 円面硯か	堤径- 器高(8.0cm) 最大幅(2.8cm)	外面　灰黄色(2.5Y6/2)	焼成　良 胎土　密	硯の脚部。外面は面取り、脚部の中央に筆立ての穴が穿孔。上面はナデ。脚部を上に向けて焼成しており、外面すべてに自然釉が施釉。	1/10以下	
8	B区 SD101	須恵器 円面硯	硯径15.2cm 堤径14.4cm 器高(6.0cm)	外面　黄灰(2.5Y4/1)	焼成　良 胎土　密	外面回転ナデ、沈線2条。内面回転ナデ。透し孔長楕円形を直交4箇所か。自然釉全体外面全体に施釉。硯面に降灰付着。海に墨付着、使用痕あり。	1/6以下	
9	B区 SD101	土師器 椀	口縁部径12.0m 器高3.6cm 底部径6.0cm	外面　橙色(5YR7/8)	焼成　やや良 胎土　密	外面回転ナデ、ケズリ、ヘラ切り？。内面回転ナデ。内外面器面磨耗。	2/3以下	
10	B区 SK05	土師器 椀	口縁部径11.4cm 器高3.8cm 底部径4.4cm	外面　浅黄橙色(10YR8/4)	焼成　やや良 胎土　密	外面回転ナデ、底部回転糸切り。内面回転ナデ。内外面器面磨耗。	ほぼ完形	
11	B区 SD101	土師器 杯A	口縁部径11.7cm 器高3.6cm 底部径7.3cm	外面　にぶい橙色(5YR7/4)	焼成　やや不良 胎土　密	内外面回転ナデ、底面回転糸切り。内外面磨耗。	2/3以下	
12	B区 SK05	土師器 椀	口縁部径11.4cm 器高3.5cm 底部径4.6cm	内外面　浅黄橙色(10YR8/4)	焼成　やや良 胎土　密	内外面回転ナデ、底面回転ヘラ切り。	1/5以下	
13	B区 SK05	土師器 椀	口縁部径11.4cm 器高4.2cm 底部径2.2cm	内外面　にぶい黄橙色(10YR6/4)	焼成　やや良 胎土　密	内外面回転ナデ、底面回転ヘラ切り。内外面器面磨耗。	2/3以下	
14	B区 SK05	土師器 皿	口縁部径11.2cm 器高3.0cm 底部径6.2cm	内外面　灰白色(10YR6/4)	焼成　良 胎土　密	外面ロクロナデ、高台貼付時ナデ、回転糸切り？。内面ロクロナデ。内外面器面磨耗。	1/3以下	
15	B区 SK05	土師器 椀	口縁部径15.0cm 器高5.1cm 底部径8.0cm	内外面　橙色(5YR6/8)	焼成　やや不良 胎土　密	外面回転ナデ、ヘラ切り？。内面ミガキ、回転ナデ。内外面器面磨耗。	1/4以下	
16	B区 SK05	土師器 椀	口縁部径12.0m 器高3.9cm 底部径4.5cm	内外面　浅黄橙色(10YR8/3)	焼成　やや不良 胎土　密	外面回転ナデ、回転糸切り。内面回転ナデ。内外面器面磨耗。	1/3以下	
17	B区 SK05	土師器 椀	口縁部径14.4cm 器高6.6cm 底部径8.0cm	内外面　灰白色(10YR8/4)	焼成　やや良 胎土　やや粗	外面回転ナデ、高台貼付時ナデ、回転ヘラ切り。内面回転ナデ。内外面器面磨耗。	1/4以下	
18	B区 SK05	土師器 皿	口縁部径- 器高(4.55cm) 底部径(4.4cm)	内外面　浅黄橙色(10YR8/3)	焼成　やや不良 胎土　やや密	外面回転ナデ、回転糸切り。内面ナデ。	1/3以下	
19	B区 SK05	須恵器 甕	口縁部径- 器高(8.2cm) 底部径-	内外面　黄灰色(2.5Y6/1)	焼成　良 胎土　密	外面波状文、沈線文2条、ヨコナデ。内面ヨコナデ。内外面に自然釉付着。	1/12以下	
20	B区 SK07	須恵器 円面硯	硯径14.4cm 堤径18.0cm 器高(3.5cm)	内外面　灰色(N6/1)	焼成　良 胎土　密	外面回転ナデ、三角状(矢印状)刻印。内面ナデ。硯面凸面、回転ナデ、使用痕あり。	1/5以下	
21	B区 SK12	須恵器 杯蓋	口縁部径- 器高(3.7cm) 底部径-	外面　灰黄色(2.5Y6/2)	焼成　良 胎土　密	外面つまみ貼付時ナデ、ケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ。	1/5以下	
22	B区 SK12	須恵器 杯B	口縁部径- 器高(2.5cm) 底部径8.6cm	外面　青灰色(5BG5/1)	焼成　良 胎土　密	外面回転ナデ、高台貼付時ナデ、回転ヘラ切り。内面回転ナデ。	1/8以下	
23	B区 SK12	須恵器 杯B 墨書土器	口縁部径10.8cm 器高4.1cm 底部径5.8cm	内外面　灰色(N6/1)	焼成　良 胎土　密	外面回転ナデ、底部回転ヘラ切り、高台貼付時ナデ。墨書"川"1文字。内面回転ナデ。	ほぼ完形	
24	B区 SK12	須恵器 杯B	口縁部径15.7cm 器高6.4cm 底部径10.1cm	内外面　灰白色(7.5Y7/1)	焼成　良 胎土　密	外面回転ナデ、底部ヘラ切り、高台貼付時ナデ。内面回転ナデ。	ほぼ完形	
25	B区 SK17	須恵器 杯A (転用硯)	口縁部径- 器高(2.6cm) 底部径9.6cm	内外面　にぶい黄橙色(10YR7/4)	焼成　不良 胎土　密	外面回転ナデ、底部回転ヘラ切り。内面回転ナデ。	1/3以下	
26	B区 SK22	土師器 椀or甕	口縁部径- 器高(2.3cm) 底部径5.8cm	内外面　浅黄橙色(10YR8/4)	焼成　やや不良 胎土　密	外面回転ナデ、底部回転糸切り。内面回転ナデ。	底部1/3以下	
27	B区 SK16	土師器 椀	口縁部径- 器高(1.8cm) 底部径8.0cm	内外面　浅黄橙色(10YR8/3)	焼成　良 胎土　密	底部高台貼付時ナデ、回転糸切り。内面回転ナデ。	1/6以下	
28	B区 SK25	須恵器 杯A	口縁部径11.7m 器高4.1cm 底部径8.0cm	外面　灰白色(7.5Y5/1)	焼成　良 胎土　密	内外面回転ナデ、底面回転ヘラ切り。	2/3以下	
29	C区 SK32	土師器 椀	口縁部径15.0cm 器高4.4cm 底部径7.2cm	内外面　橙色(7.5YR6/6)	焼成　やや良 胎土　密、海綿針骨含む。	外面回転ナデ、ミガキ。内面回転ナデ。内面器面磨耗。	1/5以下	
30	C区 SK22	土製品 土錘	最大長4.7cm 最大径3.8cm 孔径1.4cm	内外面　にぶい黄橙色(10YR7/4)	焼成　良 胎土　密	外面ナデ。重量　51.7g	ほぼ完形	

番号	出土遺構	器種	大きさ ( )内は復元・残存	色調	焼成・胎土	器形・成形・文様・調整の特徴	残存率	備考
31	B区 SK09	土製品 土錘	最大長6.3cm 最大径4.4cm 孔径1.7cm	内外面　黄橙色(7.5YR7/8)	焼成　良 胎土　密	外面ナデ。重量85.2g	ほぼ完形	
32	C区 SK32	須恵器 杯B (転用硯)	口縁部径15.0cm 器高(1.8cm) 底部径-	内外面　褐灰色(10YR6/1)	焼成　良 胎土　密	外面回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ。内面朱墨2.5YR5/8赤褐色付着。	1/6以下	
33	C区 SK42	須恵器 杯B	口縁部径15.6cm 器高(1.4cm) 底部径-	内外面　灰白色(10YR8/2)	焼成　やや不良 胎土　密	外面ヘラ切り後ナデ、ロクロナデ。内面ロクロナデ。	1/4以下	
34	B区 SD03	須恵器 杯蓋	口縁部径15.1cm 器高(2.4cm) 底部径-	内外面　灰色(N6/1)	焼成　良 胎土　密	外面つまみ貼付時ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ。	ほぼ完形	
35	C区 SK42	須恵器 杯蓋	口縁部径15.4cm 器高3.0cm 底部径-	内外面　浅黄橙色(10YR8/4)	焼成　やや良 胎土　密	外面つまみ貼付時ナデ、ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ。	1/2以下	
36	C区 SK42	須恵器 杯蓋	口縁部径16.8cm 器高(3.3cm) 底部径(7.4cm)	内外面　明黄褐色(10YR6/6)	焼成　不良 胎土　密	外面つまみ貼付時ナデ、ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ。	2/3以下	
37	C区 SK42	緑釉陶器	口縁部径- 器高(2.4cm) 底部径-	内外面　暗オリーブ色(7.5Y4/3)	焼成　良 胎土　密	外面ヨコナデ、内面ミガキか。	1/10以下	
38	C区 SK42	須恵器 杯A	口縁部径11.8cm 器高3.2cm 底部径8.2cm	内外面　灰色(7.5Y6/1)	焼成　良 胎土　密	外面回転ナデ、底部回転ヘラ切り。内面回転ナデ。	1/5以下	
39	C区 SK42	須恵器 杯H	口縁部径(13.7cm) 器高(3.4cm) 底部径-	内外面　灰色(7.5Y6/1)	焼成　良 胎土　密	外面回転ナデ、ケズリ。内面回転ナデ。	1/8以下	
40	C区 SK42	須恵器 杯B	口縁部径(16.7cm) 器高(5.4cm) 底部径-	内外面　浅黄橙色(10YR8/3)	焼成　やや不良 胎土　密	内外面回転ナデ。	1/8以下	
41	C区 SK42	土師器 高杯	口縁部径- 器高(2.2cm) 底部径-	内外面　にぶい黄橙色(10YR7/3)	焼成　良 胎土　密	内外面回転ナデ。暗文あり、内外面赤彩5Y6/6橙色。	1/10以下	
42	B区 SD03	土師器 皿	口縁部径9.6cm 器高2.3cm 底部径5.5cm	内外面　浅黄橙色(10YR8/3))	焼成　良 胎土　密	内外面ナデ。	完形	
43	B区 SD03	土師器 皿	口縁部径10.7cm 器高2.3cm 底部径6.0cm	内外面　浅黄橙色(7.5YR8/3)	焼成　良 胎土　密	内外面ナデ。	完形	
44	B区 SD03	土師器 皿	口縁部径11.0cm 器高2.3cm 底部径5.5cm	内外面　浅黄橙色(7.5YR8/3)	焼成　良 胎土　密	内外面ナデ。	完形	
45	C区 SD05	土師器 皿	口縁部径15.3cm 器高2.6cm 底部径10.4cm	内外面　浅黄橙色(10YR8/4)	焼成　良 胎土　密	外面ヨコナデ、ナデと指頭圧痕。内面ヨコナデ。	1/4以下	
46	C区 SD05	土師器 皿 (高台付)	口縁部径15.6cm 器高(3.8cm) 底部径12.7cm	内外面　明黄褐色(10YR7/4)	焼成　やや良 胎土　密	内外面回転ナデ。高台欠損。	1/5以下	
47	C区 SD05	土師器 皿	口縁部径10.3cm 器高2.3cm 底部径5.7cm	内外面　にぶい黄橙色(10YR6/4)	焼成　良 胎土　密	外面ヨコナデ、ナデと指頭圧痕。内面ヨコナデ。	完形	
48	C区 SP63	土師器 椀	口縁部径10.4cm 器高3.2cm 底部径5.0cm	内外面　にぶい黄橙色(10YR7/4)	焼成　良 胎土　密	外面回転ナデ、底部回転糸切り。内面回転ナデ。内外面に油煙付着。	1/3以下	
49	包含層	土師器 皿	口縁部径9.4cm 器高2.2cm 底部径4.4cm	内外面　浅黄橙色(10YR7/4)	焼成　やや良 胎土　密	外面回転ナデ、回転糸切り。内面回転ナデ。	1/3以下	
50	包含層	土師器 椀	口縁部径10.9cm 器高2.8cm 底部径4.4cm	内外面　浅黄橙色(10YR8/3)	焼成　良 胎土　やや粗	外面回転ナデ、底部回転糸切り。内面回転ナデ。	完形	
51	包含層	土師器 椀	口縁部径11.6cm 器高2.9cm 底部径4.4cm	内外面　明黄褐色(10YR7/6)	焼成　良 胎土　密	内外面回転ナデ、底面回転糸切り。	2/3以下	
52	包含層	土師器 椀	口縁部径11.8cm 器高2.9cm 底部径4.5cm	内外面　にぶい黄橙色(10YR7/3)	焼成　良 胎土　密	内外面回転ナデ、底面回転糸切り。口縁部に油煙付着。	1/3以下	
53	包含層	土師器 椀	口縁部径11.0cm 器高3.2cm 底部径4.8cm	内外面　浅黄橙色(10YR8/3)	焼成　やや良 胎土　密	内外面回転ナデ、底面回転糸切り。内外面器面磨耗。	2/3以下	
54	B区 SK05	土師器 椀	口縁部径11.2cm 器高3.5cm 底部径5.6cm	内外面　にぶい橙色(7.5YR7/4)	焼成　やや不良 胎土　密	内外面回転ナデ、底面回転糸切り。内外面器面磨耗。	1/3以下	
55	包含層	土師器 椀	口縁部径11.6cm 器高4.9cm 底部径4.0cm	内外面　にぶい黄橙色(10YR6/4)	焼成　良 胎土　密	内外面回転ナデ、底面回転糸切り。	1/3以下	
56	包含層	土師器 椀	口縁部径13.3cm 器高4.8cm 底部径5.3cm	内外面　浅黄橙色(10YR8/3)	焼成　良 胎土　やや粗	内外面回転ナデ、底面回転糸切り。	ほぼ完形	
57	包含層	土師器 皿	口縁部径- 器高(3.1cm) 底部径6.0cm	内外面　浅黄橙色(10YR8/3)	焼成　やや良 胎土　密	外面回転ナデ、高台貼付時ナデ、底部回転糸切り後ナデ。内面回転ナデ。内外面器面磨耗。	1/3以下	
58	包含層	土師器 皿	口縁部径12.4cm 器高3.1cm 底部径7.6cm	内外面　にぶい黄橙色(10YR7/3)	焼成　良 胎土　密	外面回転ナデ、高台貼付時ナデ、底部回転糸切り。内面回転ナデ。	1/3以下	
59	B区 SK22	土師器 甕か	口縁部径- 器高(4.3cm) 底部径4.8cm	内外面　浅黄橙色(10YR8/3)	焼成　やや良 胎土　密	内外面回転ナデ、底面糸切り痕。内外面器面磨耗。	1/3以下	
60	包含層	灰釉陶器 壺・瓶	口縁部径- 器高(1.4cm) 底部径-	内外面　灰白色(2.5Y7/1)	焼成　良 胎土　密	内外面回転ナデ。口唇部下外面に沈線状の窪みあり。内外面施釉、外面灰色釉、内面緑灰色釉薬。	1/10以下	

番号	出土遺構	器種	大きさ （ ）内は復元・残存	色調	焼成・胎土	器形・成形・文様・調整の特徴	残存率	備考
61	包含層	青磁 椀か	口縁部径- 器高(1.7cm) 底部径-	内外面　灰白色(10YR8/1)	焼成　良 胎土　密	内面陽刻による文様。青磁釉10BG6/1施釉。	1/10以下	
62	包含層	黒色土器 椀	口縁部径- 器高(1.9cm) 底部径6.2cm	外面　浅黄橙色(10YR8/3) 内面　黒色	焼成　やや良 胎土　密	外面回転ナデ、高台貼付時ナデ、底部回転糸切り。内面ミガキ、黒色処理。	1/6以下	
63	包含層	須恵器 鍋	口縁部径(45.0cm) 器高(7.8cm) 底部径-	内外面　にぶい黄橙色(10YR7/2)	焼成　良 胎土　密	外面回転ナデ、カキメ。内面回転ナデ。	1/10以下	
64	包含層	須恵器 椀	口縁部径- 器高(1.9cm) 底部径6.4cm	内外面　褐灰色(10YR6/1)	焼成　良 胎土　密	内外面回転ナデ、底面回転糸切り。	1/4以下	
65	包含層	須恵器 杯B	口縁部径- 器高(1.8cm) 底部径8.2cm	内外面　緑灰色(10G5/1)	焼成　良 胎土　やや粗	外面回転ナデ、高台貼付時ナデ、底部ヘラ切り。内面回転ナデ。	1/3以下	
66	C区 SP90	須恵器 円面硯	口縁部径- 器高(2.2cm) 底部径-	内外面　灰色(5Y5/1)	焼成　良 胎土　密	内外面回転ナデ。長方形透し孔幅1.6cmあり。	1/10以下	
67	包含層	須恵器 円面硯	口縁部径15.0cm 器高(4.4cm) 底部径-	内外面　青灰色(5BG5/1)	焼成　良 胎土　密	外面回転ナデ、外堤貼付時ナデ。沈線2条。内面ロクロナデ。透し孔8箇所。	1/8以下	
68	包含層	瓦 平瓦	最大長11.3cm 最大幅9.8cm 最大厚3.1cm	外面　灰色(N6/1)	焼成　良 胎土　密	丸瓦の可能性あり。凹面布目痕、布綴じ目痕あり。凸面ナデ。切断形状は垂直だが、端部面取。	1/10以下	
69	B区 SD101	瓦 平瓦	最大長13.9cm 最大幅15.9cm 底部径2.0cm	褐灰色(10YR6/1)	焼成　良 胎土　密	凹面布目痕、布綴じ目痕あり。縁はナデ調整。凸面ナデ。切断形式は垂直。	1/3以下	
70	B区 SD101	瓦 平瓦	最大長8.0cm 最大幅12.9cm 最大厚3.2cm	灰白色(10YR8/1)	焼成　やや不良 胎土　密	凹面布目痕。凸面縄叩き目痕。切断形状は垂直だが、端部面取。	1/10以下	
71	C区 SD05	瓦 平瓦	最大長7.0cm 最大幅10.0cm 最大厚2.5cm	灰色(7.5Y5/1)	焼成　良 胎土　密	凹面布目痕、ヘラケズり。凸面ナデ後、格子叩き目。	1/10以下	
72	B区 SK05	瓦 平瓦	最大長6.8cm 最大幅8.1cm 最大厚2.2cm	灰白色(10YR8/2)	焼成　やや不良 胎土　密	凹面布目痕。凸面縄叩き目痕、離れ砂を使用。切断形状は垂直だが、端部面取。	1/10以下	
73	B区 SD03	瓦 平瓦	最大長8.8cm 最大幅6.5cm 最大厚2.8cm	灰黄褐色(10YR5/2)	焼成　良 胎土　密	凹面布目痕。凸面ナデ又はケズりか。切断形状は斜め。	1/10以下	
74	B区 SD101	瓦 平瓦	最大長22.0cm 最大幅11.6cm 最大厚3.0cm	淡黄色(2.5Y8/4)	焼成　良 胎土　密	凹面布目痕。凸面縄叩き目痕、離れ砂を使用。切断形状は垂直。内外面摩耗。	1/4以下	
75	B区 SK12	瓦 丸瓦	最大長12.4cm 最大幅17.7cm 最大厚2.5cm	褐灰色(10YR5/1)	焼成　良 胎土　密	凹面布目痕、布綴じ目痕あり。縁はナデ調整。凸面ナデ。切断形式は垂直。	1/5以下	
76	B区 SK12	瓦 平瓦	最大長7.3cm 最大幅7.4cm 最大厚2.0cm	褐灰色(10YR6/1)	焼成　良 胎土　密	凹面布目痕。凸面縄叩き目痕、離れ砂を使用。切断形状は斜め。	1/10以下	
77	B区 SK12	瀬戸美濃 皿か	口縁部径5.4cm 器高0.8cm 底部径4.0cm	内外面　灰白色(10YR7/1)	焼成　良 胎土　密	外面ナデ、高台貼付時ナデ。内面ナデ。上面透明釉施釉、外面一部透明釉施釉。	完形	
78	包含層	伊万里 大皿	口縁部径29.4cm 器高5.7cm 底部径15.5cm	内外面　灰白色(10YR8/1)	焼成　良 胎土　密	内外面透明釉施釉、畳付は露台。呉須染付。高台内銘「冨（冨貴長春）。目跡3箇所あり。長」	1/2以下	
79	包含層	瀬戸美濃 皿	口縁部径13.6cm 器高2.7cm 底部径6.4cm	内外面　灰白色(10YR7/1)	焼成　良 胎土　密	外面回転ナデ、底部削り出し高台。内面回転ナデ。蛇の目高台、畳付は露胎。透明釉、緑釉染付。	1/3以下	
80	包含層	伊万里 鉢	口縁部径13.4cm 器高4.8cm 底部径4.4cm	内外面　灰白色(10YR8/1)	焼成　良 胎土　密	内外面青磁釉施釉。高台内面透明釉施釉。畳付は露胎。5GY7/1明オリーブ灰色。	1/4以下	
81	B区 SK05	珠洲 擂鉢	口縁部径(22.0cm) 器高(5.8cm) 底部径-	内外面　青灰色(10BG6/1)	焼成　良 胎土　密	内外面ロクロナデ。タール付着。指頭痕。	1/10以下	

平成25年度試掘調査　石名瀬A遺跡　市道地区　遺物観察表

82	B区 SK05	珠洲 擂鉢	口縁部径(22.0cm) 器高(5.8cm) 底部径-	内外面　青灰色(10BG6/1)	焼成　良 胎土　密	内外面ロクロナデ。タール付着。指頭痕。	1/10以下	

写　真　図　版

図版〇一　遺構写真　越中国府関連遺跡（牧野地区）

1．B区全景（東）

2．A区全景（西）

図版〇二　遺構写真　越中国府関連遺跡（牧野地区）

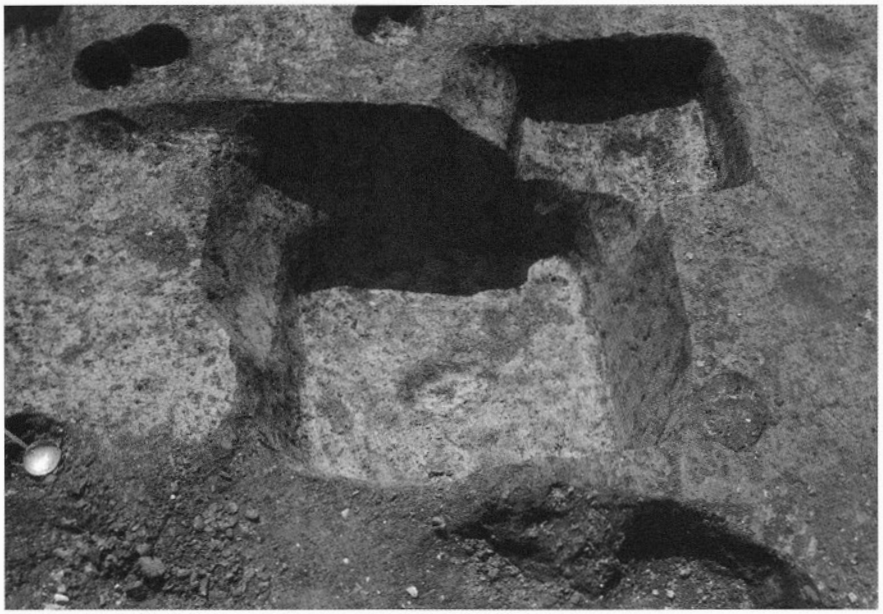
1．B区ＳＢ01
完掘状況（南）

2．C区ＳＢ01
完掘状況（東）

3．C区ＳＢ01
柱穴・土坑集中地点（西）

図版〇三　遺構写真　越中国府関連遺跡（牧野地区）

1．B区ＳＢ01
ＳＫ06・07
土層断面（南）



2．C区ＳＢ01
柱穴ＳＫ42・43
完掘状況（北）

3．B区ＳＢ01
柱穴ＳＫ10
土層断面（西）

1．Ｃ区　土坑ＳＫ42
完堀状況（北）

2．Ｂ区　溝ＳＤ101
完掘状況（南）

3．Ｂ区　溝ＳＤ03
遺物出土状況（南西）

図版〇五　遺構写真　越中国府関連遺跡（牧野地区）

1．C区　SB02・03
完掘状況（東）

2．C区　SB01
完堀状況（東）

3．B区　溝SD03・SK22
完堀状況（南）

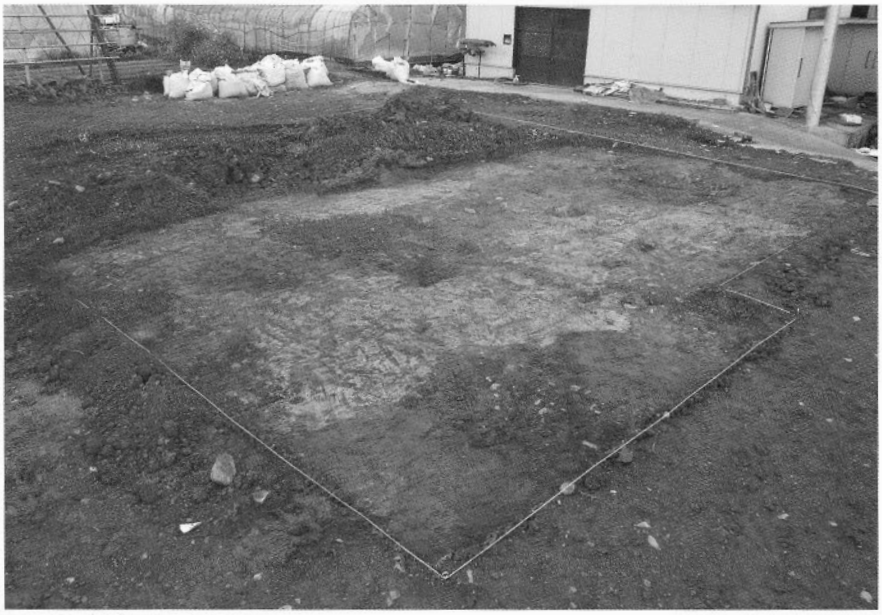
図版〇六　遺構写真　越中国府関連遺跡（牧野地区）

1．B区　SK12
遺物出土状況（東）

2．C区　土坑SK25～27
土層断面（南）

3．B区　基本層序（南）

図版〇七　遺構写真　越中国府関連遺跡（奥村地区）



1．溝１　遺構検出状況
（南東）

2．溝１　完堀状況
（南）

3．溝１　南壁土層断面
（北）

図版〇八　遺構写真　越中国府関連遺跡（柳・宮野地区）・西佐野千代遺跡（林地区）

1．越中国府関連遺跡
柳地区
第１トレンチ
完掘状況（東）

2．越中国府関連遺跡
宮野地区
第１トレンチ
完掘状況（東）

3．西佐野千代遺跡
林地区
第１トレンチ
東壁土層断面（西）

図版〇九　遺構写真　百橋宮田遺跡（東地区）

1．第１トレンチ
完掘状況（北）

2．第１トレンチ
井戸ＳＥ01
上層半裁状況（東）

3．第１トレンチ
井戸ＳＥ01
下層井戸枠検出状況（南東）

図版一〇　遺構写真　越中国府関連遺跡（松原・寺林地区）・石塚遺跡（戸出高岡線地区）

1．越中国府関連遺跡
松原地区
第１トレンチ
完掘状況（北）

2．越中国府関連遺跡
寺林地区
第１トレンチ
完掘状況（南）

3．石塚遺跡
戸出高岡線地区
第１トレンチ
完掘状況（南西）

図版一一　遺構写真　上二上遺跡（統合保育園地区）・守護町遺跡（シーケー金属地区）

1．上二上遺跡
統合保育園地区
第１トレンチ
全景（北）

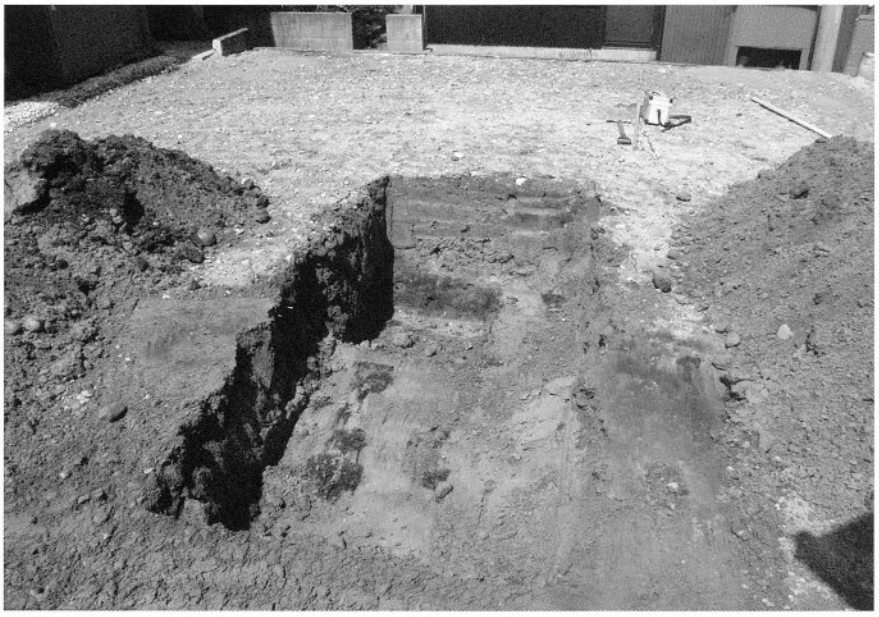
2．上二上遺跡
統合保育園地区
第３トレンチ
全景（南）

3．守護町遺跡
シーケー金属地区
第１トレンチ
完掘状況（西）

図版一二　遺構写真　中木津遺跡（山本地区）・井口本江遺跡（松井地区）・瑞龍寺遺跡（車地区）

1．中木津遺跡
山本地区
第１トレンチ
完掘状況（西）

2．井口本江遺跡
松井地区
第１トレンチ
完掘状況（北）



3．瑞龍寺遺跡
車地区
第１トレンチ
完掘状況（東）

図版一三　遺構写真　出来田南遺跡（サカエ1・2地区）・下佐野遺跡（酢谷地区）

1．出来田南遺跡
サカエ１地区
第１トレンチ
完掘状況（南）

2．出来田南遺跡
サカエ２地区
第１トレンチ
完掘状況（東）

3．下佐野遺跡
酢谷地区
完堀状況（北西）

図版一四　遺構写真　戸出後生寺遺跡（戸出福祉会）・笹八口遺跡（中島地区）

1．戸出後生寺遺跡
戸出福祉会地区
第２トレンチ
完掘状況（東）

2．戸出後生寺遺跡
戸出福祉会地区
第３トレンチ
完掘状況（西）

3．笹八口遺跡
中島地区
完掘状況（南）

図版一五　遺構写真　下老子笹川遺跡（中野地区）・越中国府関連遺跡（山本地区）・中曽根遺跡（道野地区）

1．下老子笹川遺跡
中野地区
第２トレンチ
完掘状況（北）

2．越中国府関連遺跡
山本地区
第１トレンチ
完掘状況（西）

3．中曽根遺跡
道野地区
第１トレンチ
完掘状況（北）

図版一六　遺構写真　井口本江遺跡（市道東側地区）・中曽根西遺跡（清水・刈地区）

1．井口本江遺跡
市道東側地区
第１トレンチ
完掘状況（東）

2．中曽根西遺跡
清水地区
完堀状況（東）

3．中曽根西遺跡
刈地区
完堀状況（西）

図版一七　遺構写真　下佐野遺跡（篠島地区）・戸出光明寺遺跡（脇田地区）・越中国府関連遺跡（大菅地区）

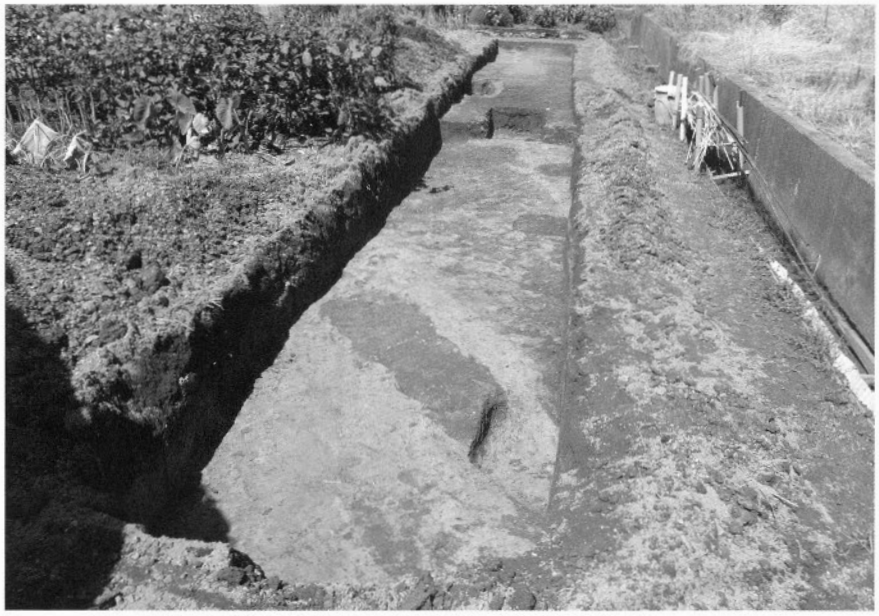
1．下老子笹川遺跡
篠島地区
第１トレンチ
完掘状況（西）

2．戸出光明寺遺跡
脇田地区
第１トレンチ
完掘状況（南）

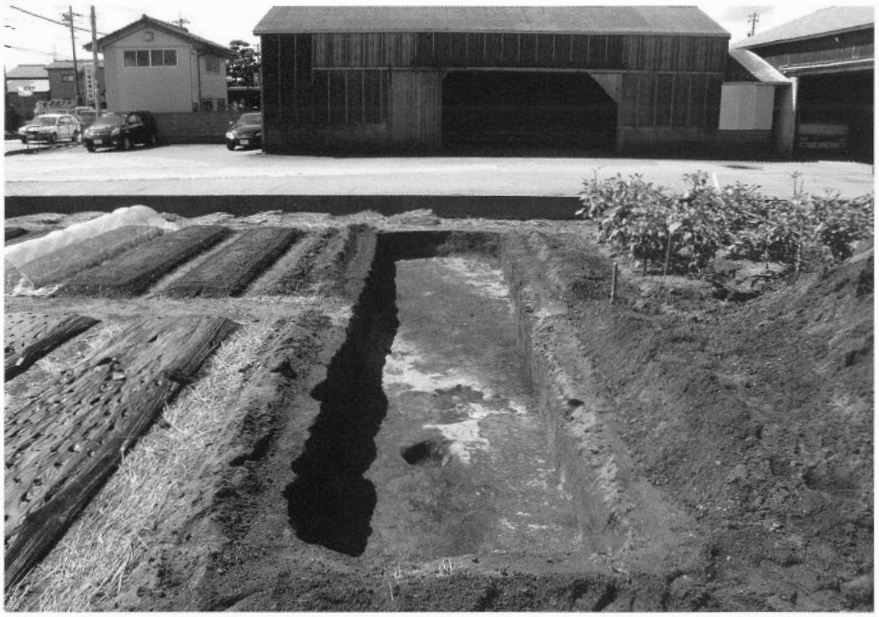
3．越中国府関連遺跡
大菅地区
第１トレンチ
完掘状況（北）

図版一八　遺構写真　越中国府関連遺跡（折田地区）・中曽根西遺跡（倉谷地区）

1．越中国府関連遺跡
折田地区
第１トレンチ
完掘状況（北東）



2．中曽根西遺跡
倉谷地区
第１トレンチ
完掘状況（南）



3．中曽根西遺跡
倉谷地区
第３トレンチ
完掘状況（北）

図版一九　遺構写真　守山城跡（消防無線地区）・石名瀬Ａ遺跡（市道地区）

１．守山城跡
消防無線地区
第２トレンチ
完堀状況（南東）

２．石名瀬Ａ遺跡
市道地区
第１トレンチ
完堀状況（東）

３．石名瀬Ａ遺跡
市道地区
第１トレンチ
須恵器出土状況（北）

図版二〇　遺構写真　中保Ｂ遺跡（坂森地区）・下老子笹川遺跡（高田地区）・越中国府関連遺跡」（山崎２地区）

１．中保Ｂ遺跡
坂森地区
第１トレンチ
完掘状況（西）

２．下老子笹川遺跡
高田地区
第１トレンチ
完掘状況（南）

３．越中国府関連遺跡
山崎２地区
第２トレンチ
完掘状況（北）

図版二一　遺構写真　越中国府関連遺跡（秦地区）・山園町遺跡（柿谷地区）・越中国府関連遺跡（オダケ地区）

1．越中国府関連遺跡
秦地区
第１トレンチ
完掘状況（南）

2．山園町遺跡
柿谷地区
第１トレンチ
遺構断ち割り状況（東）

3．越中国府関連遺跡
ホームサポート
オダケ地区
第１トレンチ
完掘状況（南）

図版二二　遺構写真　井口本江遺跡　再開発地区４

１．２号トレンチ
全景（東）

２．４号トレンチ
全景（東）

３．５号トレンチ
全景（西）

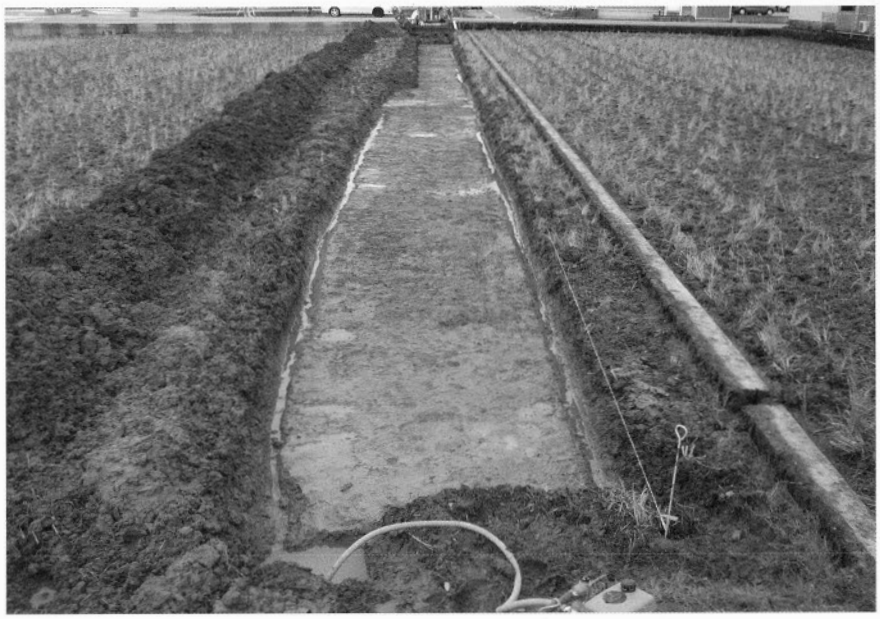
図版二三　遺構写真　中木津遺跡（市道南側地区）・東木津遺跡（市道地区）

1．中木津遺跡
市道南側地区
第６トレンチ
完掘状況（南）

2．東木津遺跡
市道地区
第２トレンチ
完掘状況（北）

3．東木津遺跡
市道地区
第５トレンチ
完掘状況（南）

図版二四　遺構写真　北木津遺跡（金山不動産地区）・江尻Ｃ遺跡（高野地区）・上野Ｂ遺跡（向井地区）



１．北木津遺跡
金山不動産地区
第１トレンチ
完掘状況（南西）

２．江尻Ｃ遺跡
高野地区
完掘状況（北東）

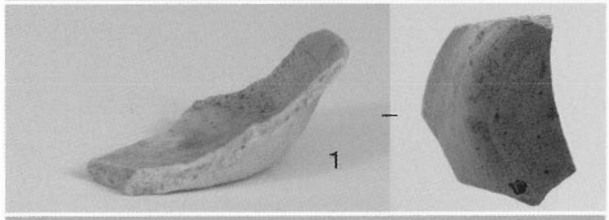
３．上野Ｂ遺跡
向井地区
第１トレンチ
完掘状況（西）

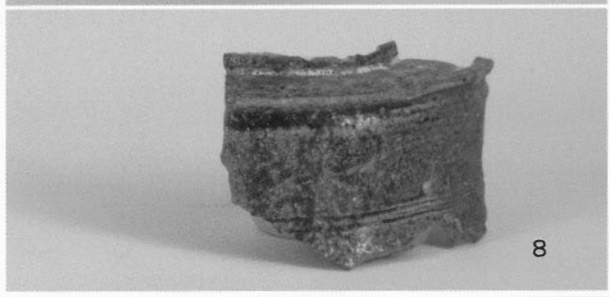
図版二五　遺構写真　蓮花寺遺跡（松下地区）・石堤長光寺遺跡（織田地区）・鷲北新遺跡（あかね会２地区）

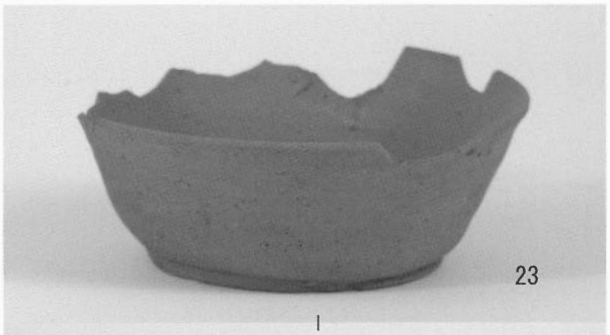
１．蓮花寺遺跡
松下地区
完掘状況（西）

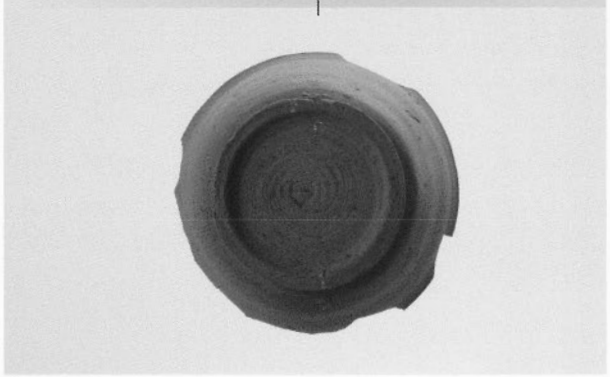
２．石堤長光寺遺跡
織田地区
第１トレンチ
完掘状況（南）

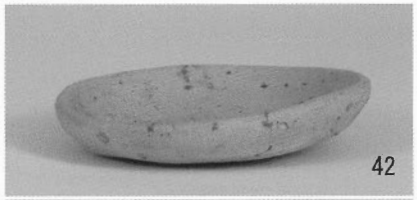
３．鷲北新遺跡
あかね会２地区
第２トレンチ
完掘状況（東）



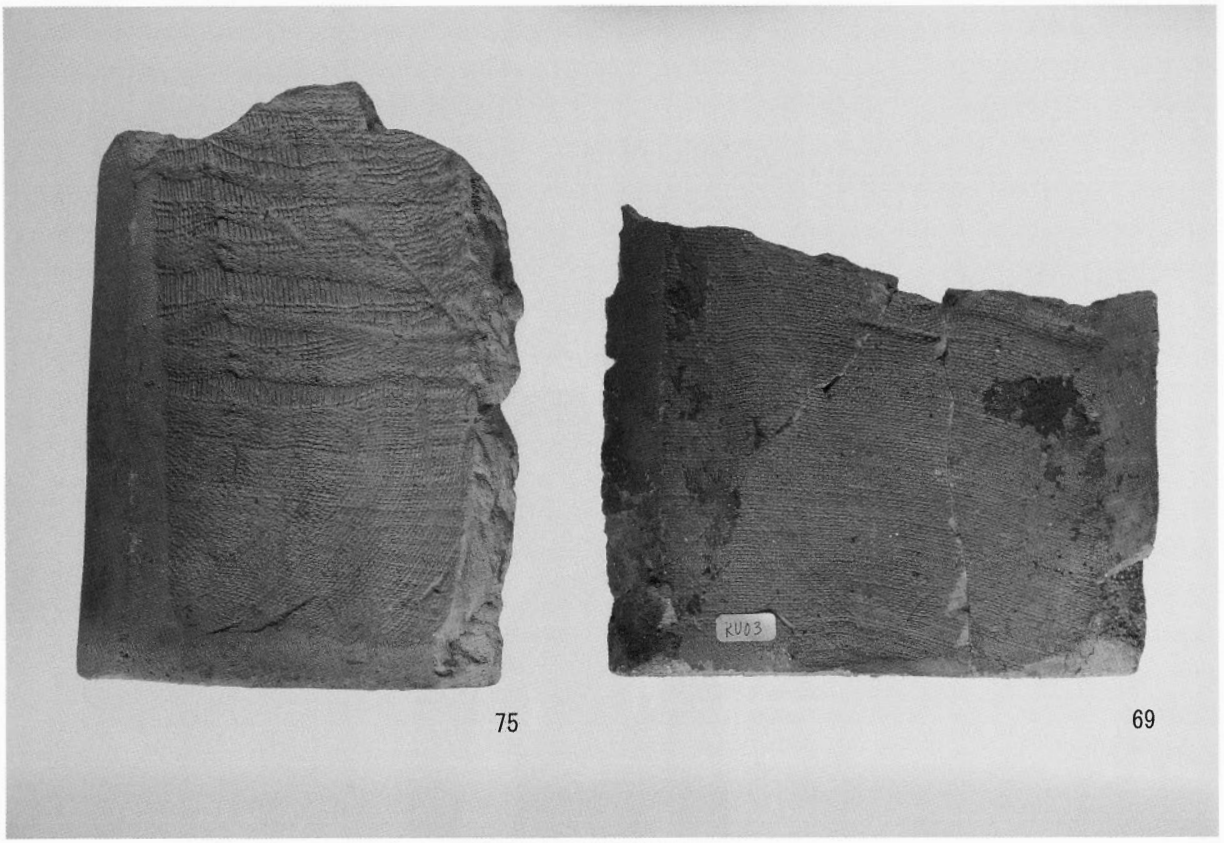




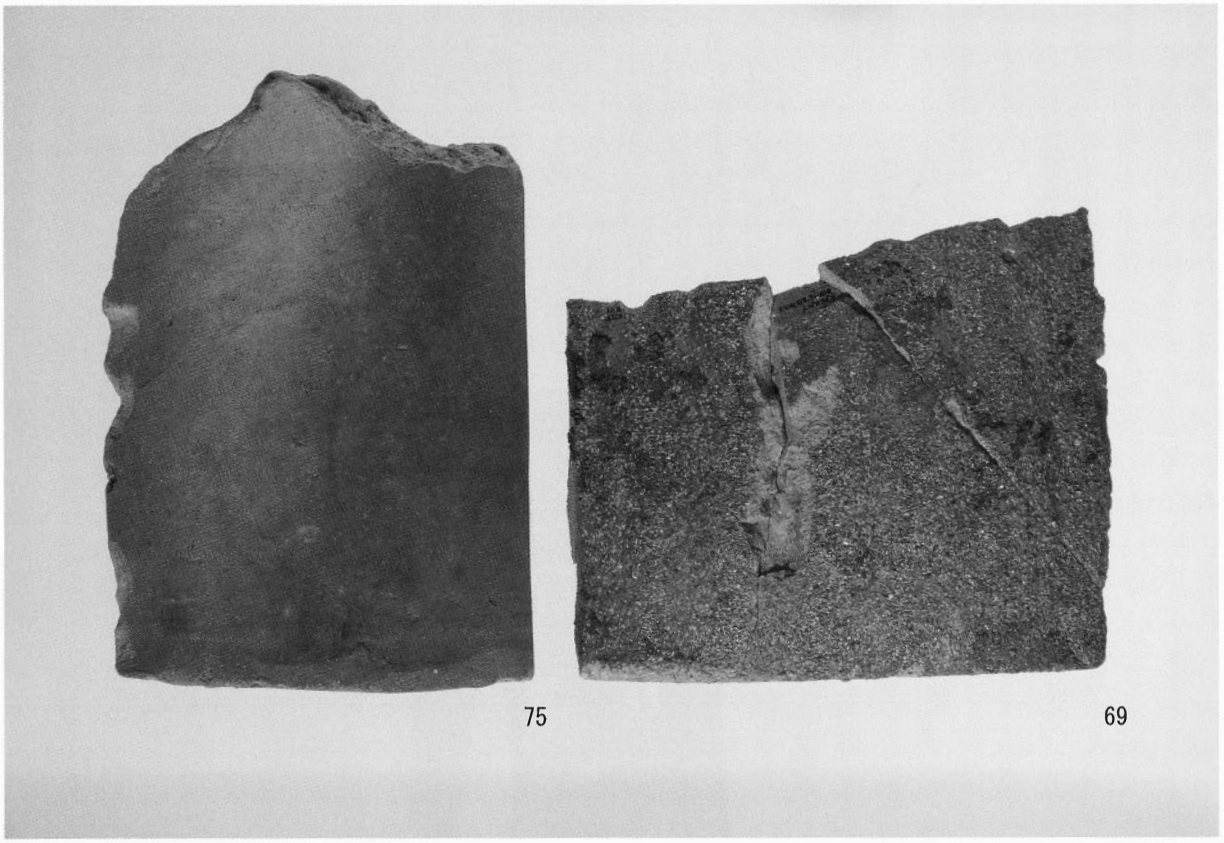




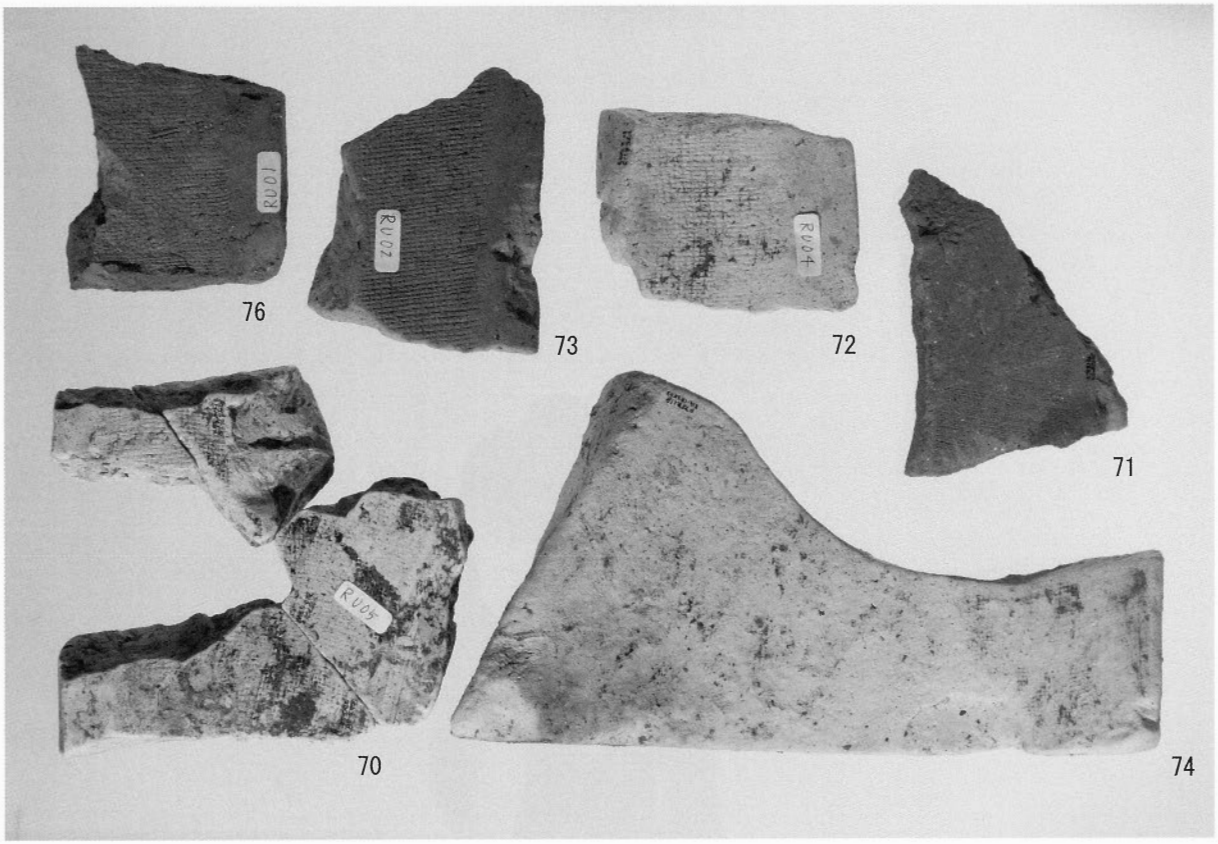
古代須恵器・土師器・陶硯・緑釉陶器・灰釉陶器・墨書土器、中世土師器



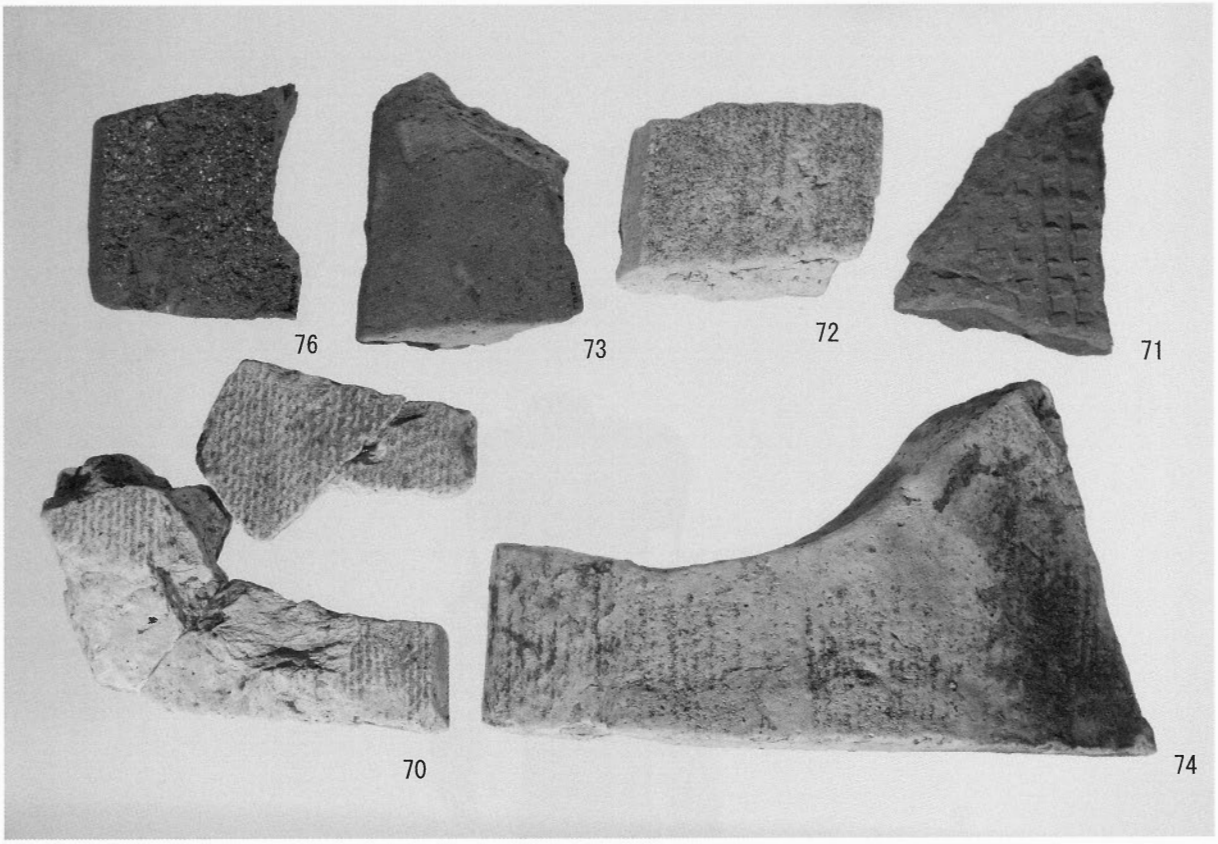
1．古代丸瓦・平瓦　凹面



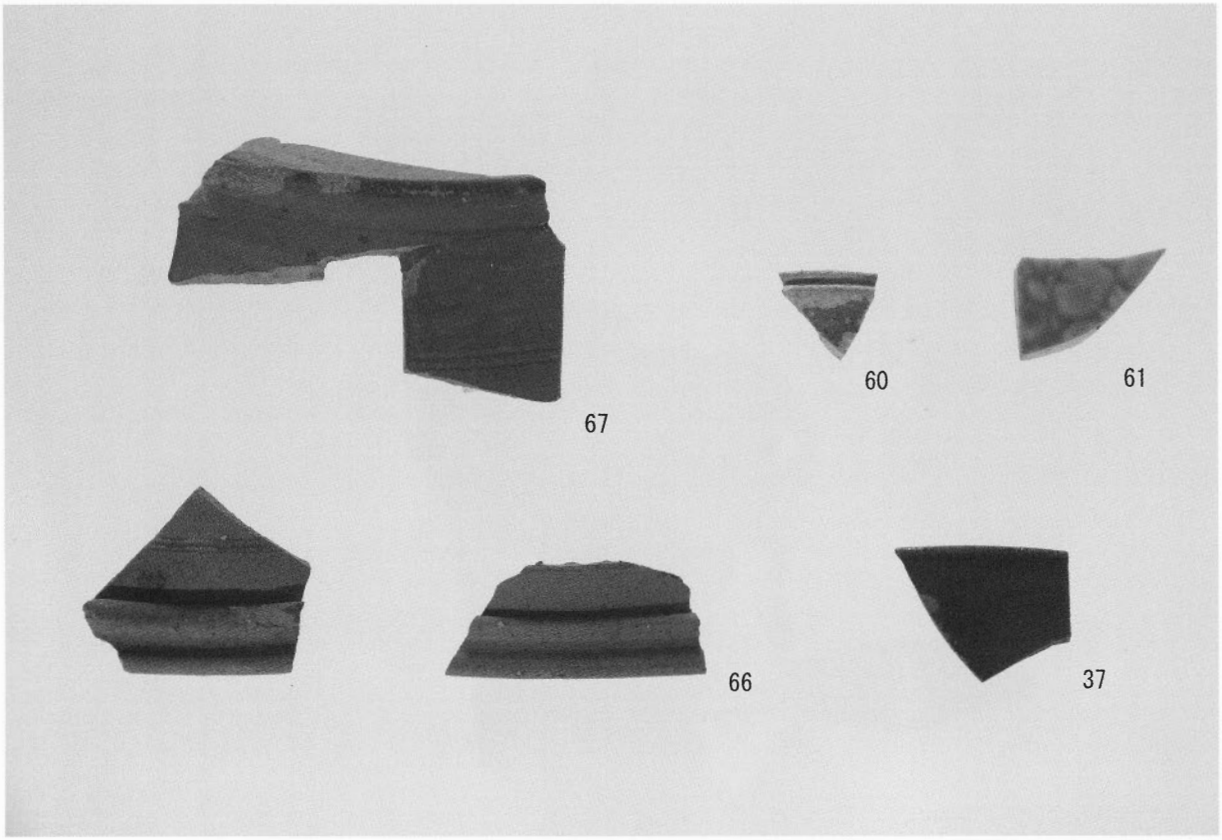
2．古代丸瓦・平瓦　凸面



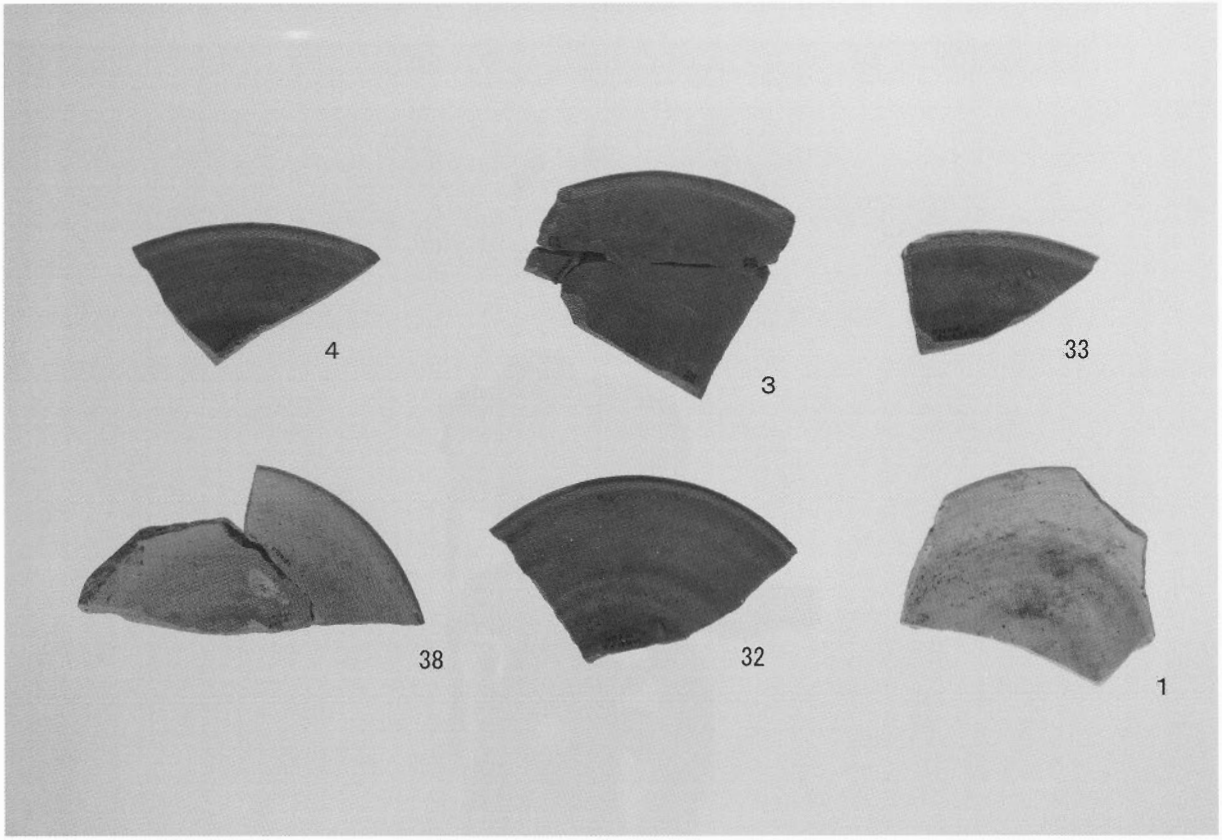
1．古代丸瓦・平瓦　凹面



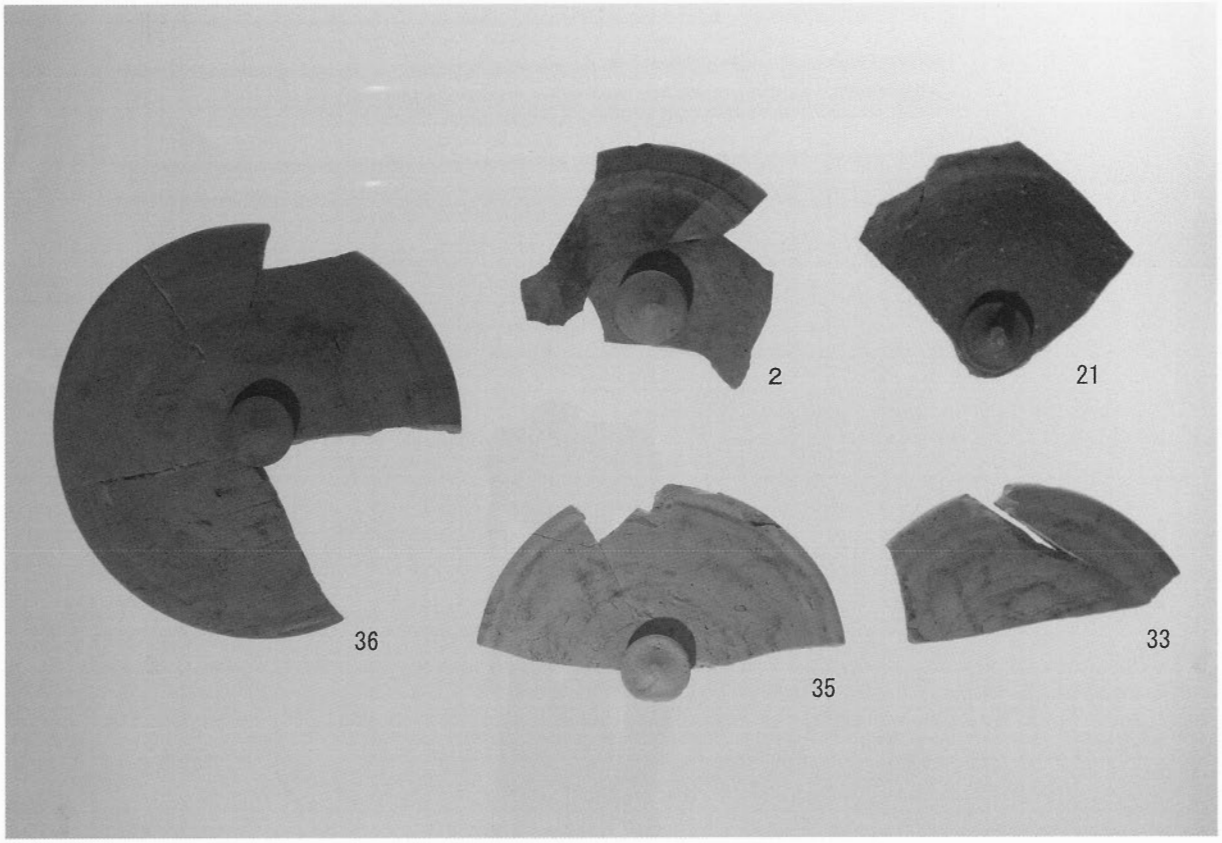
2．古代丸瓦・平瓦　凸面



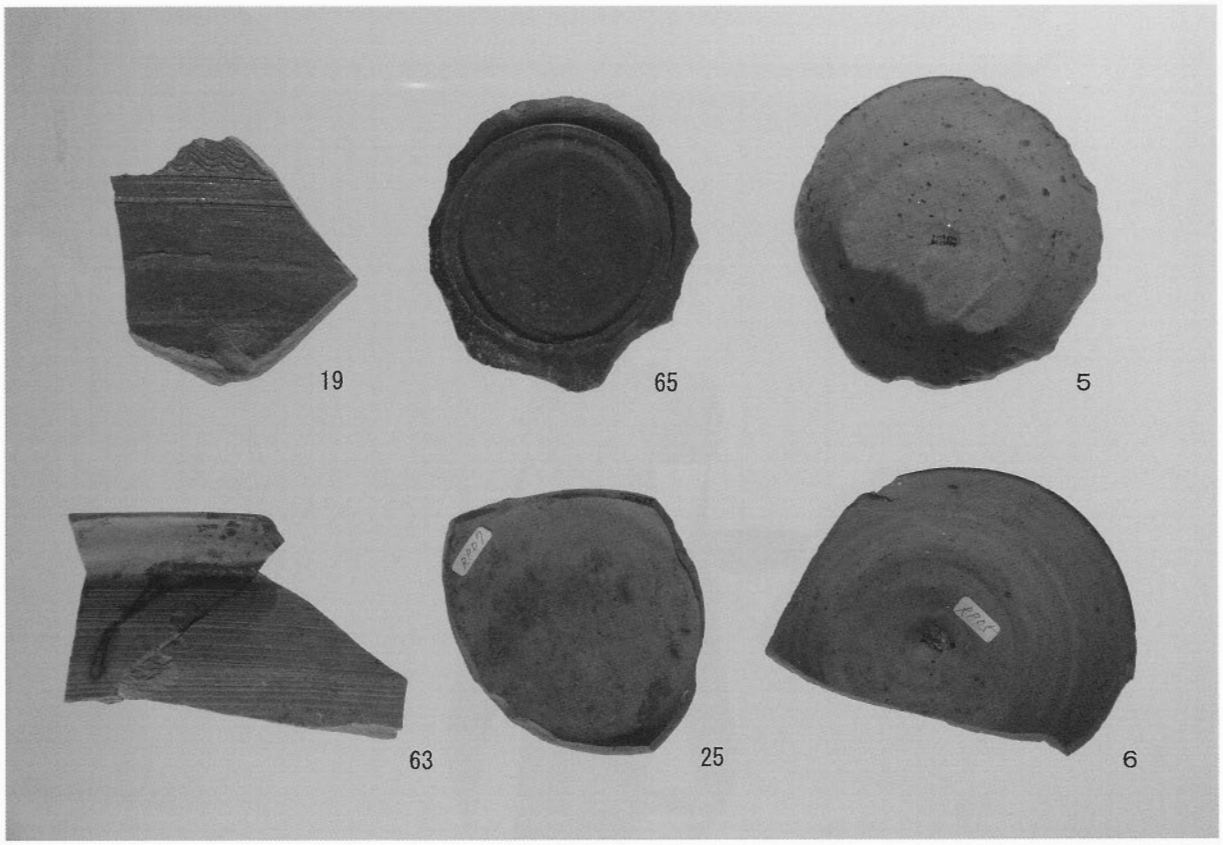
1．古代須恵器・硯、灰釉陶器、緑釉陶器、青磁



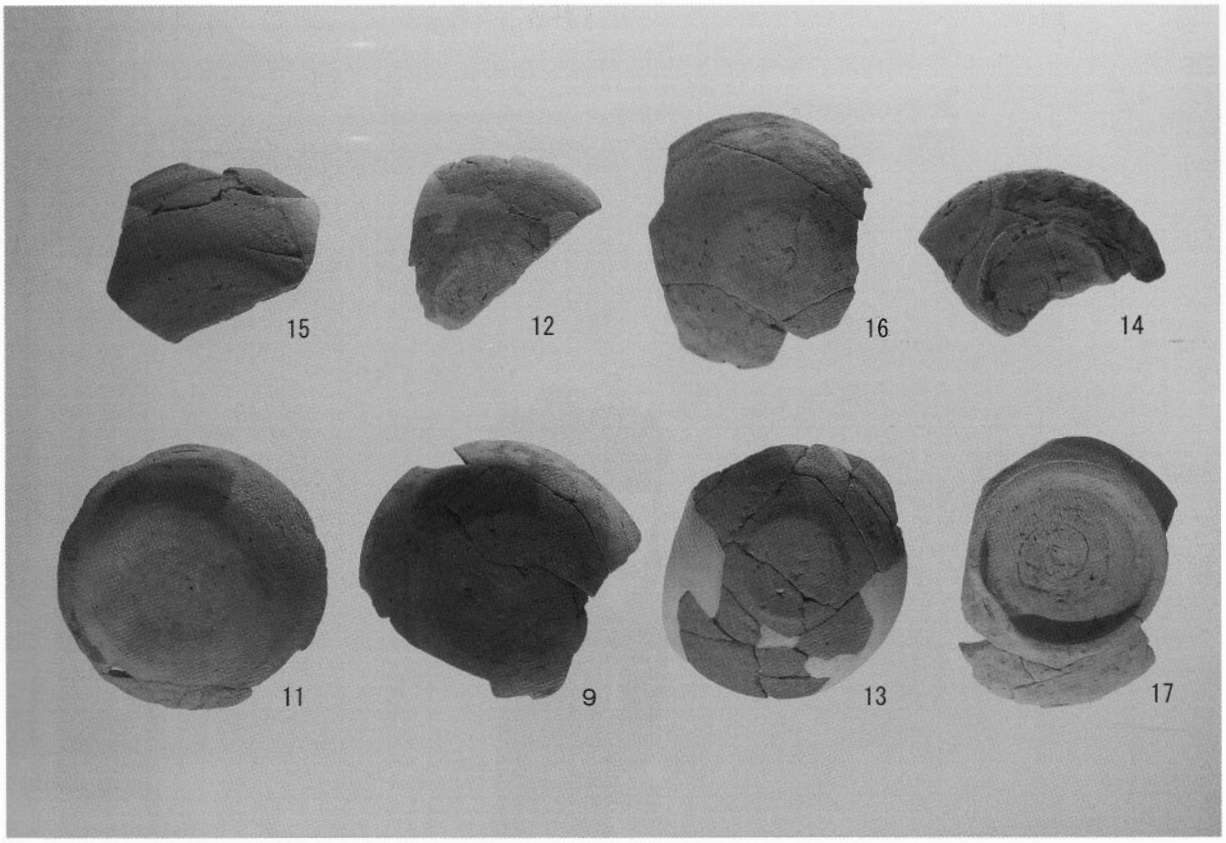
2．転用硯（墨・朱墨）



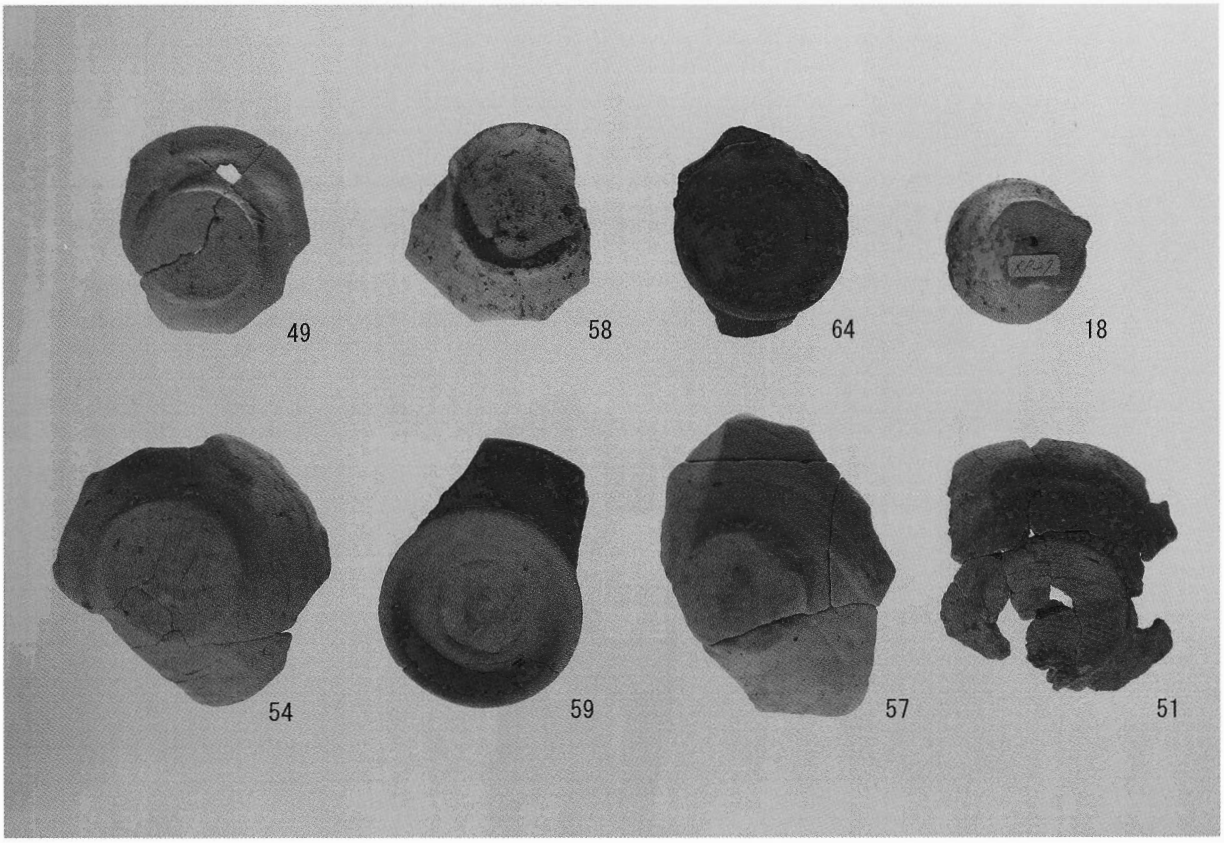
1．古代須恵器　蓋



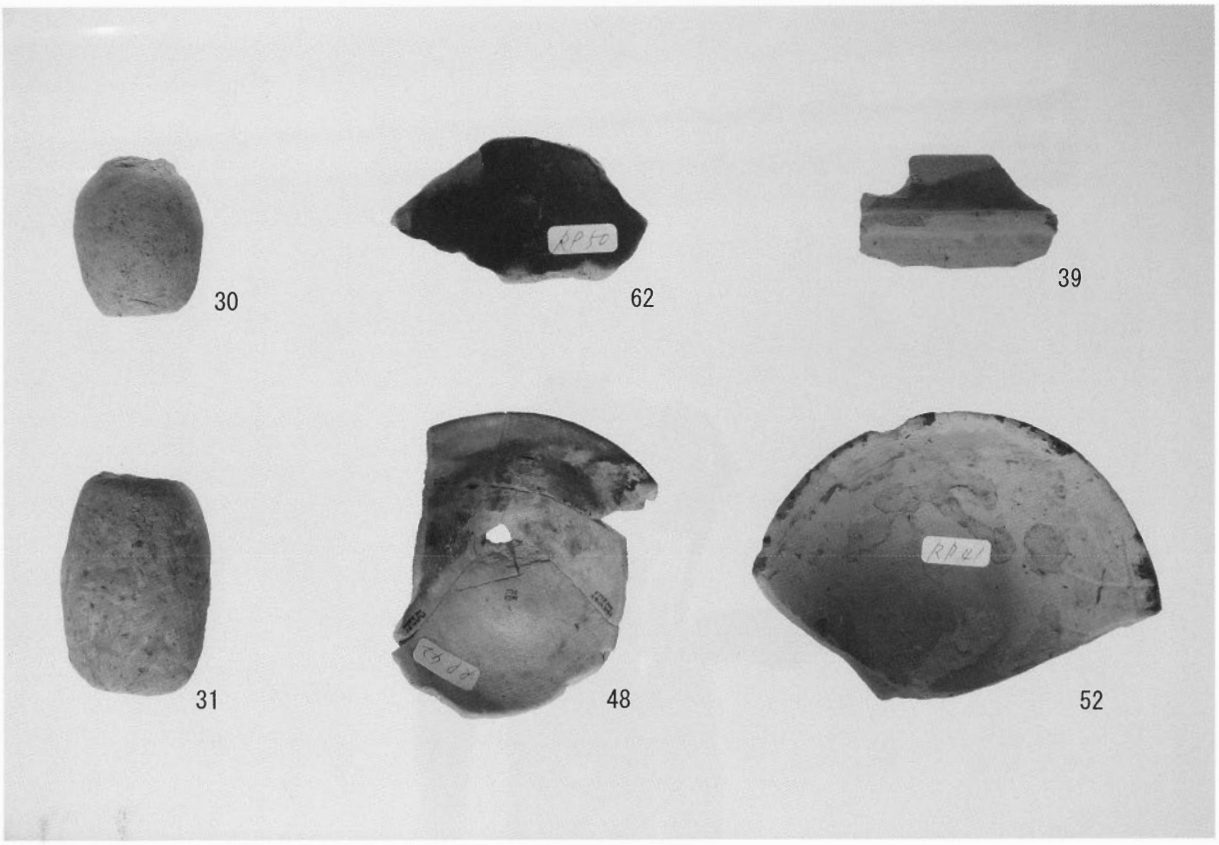
2．古代須恵器　杯・甕他



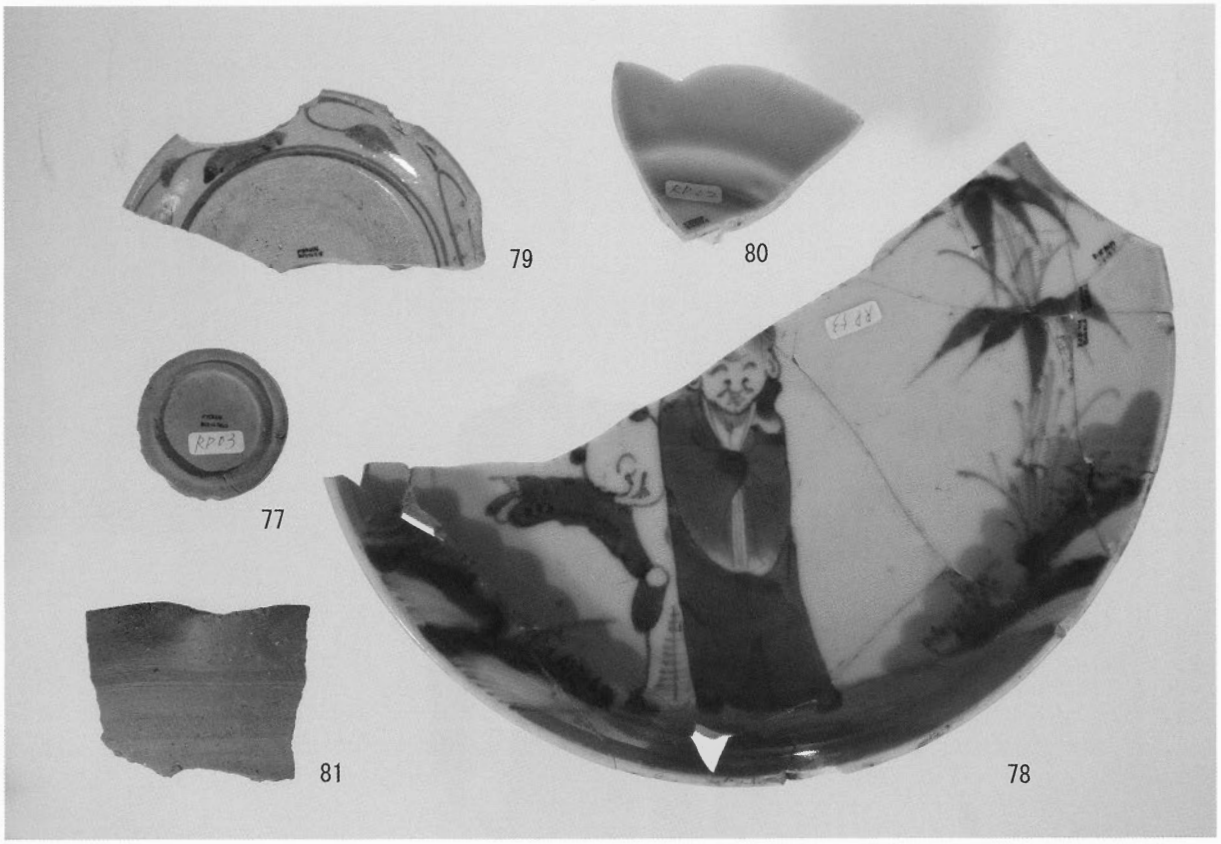
1．古代土師器他



2．古代・中世土師器



1．古墳須恵器、黒色土器、古代土師器、土製品



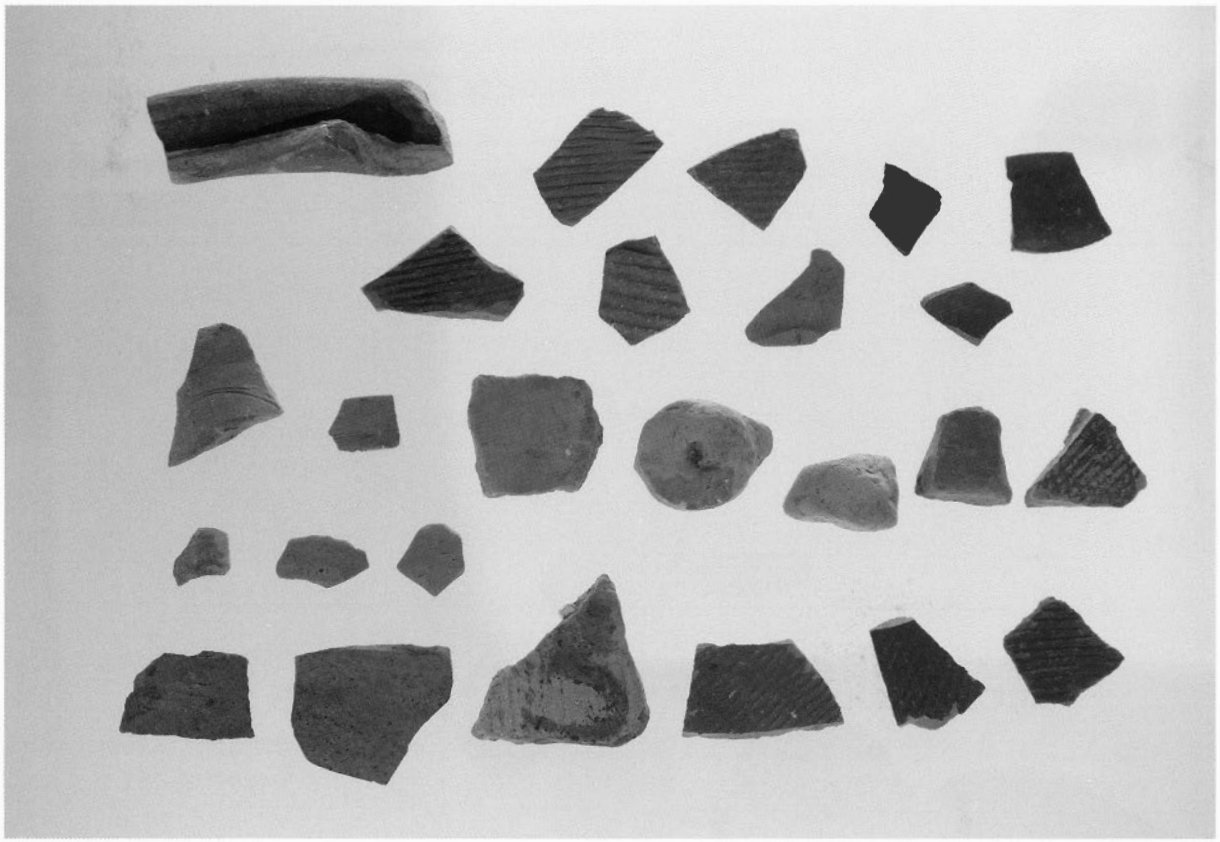
2．近世陶磁器他

図版三三　遺物写真　出来田南遺跡（サカエ1・2地区）・戸出後生寺遺跡（戸出福祉会地区）

1．出来田南遺跡サカエ金襴1・2地区　出土遺物

2．戸出後生寺遺跡戸出福祉会地区　出土遺物

1．石名瀬A遺跡市道地区　出土遺物



2．越中国府関連遺跡奥村地区　出土遺物

報告書抄録

ふりがな	しないいせきちょうさがいほうにじゅうよん
書名	市内遺跡調査概報24
副書名	平成24年度　越中国府関連遺跡の調査報告、平成25年度百橋宮田遺跡の調査等
巻次	
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査概報
シリーズ番号	第75冊
編集機関	高岡市教育委員会
発掘担当者	田上和彦　江口雅子　杉山大晋
報告書編集者	杉山大晋
所在地	〒933-8601　富山県高岡市広小路７番50号　TEL 0766-20-1463
発行年月日	西暦　2015年３月24日

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
越中国府関連遺跡（えっちゅうこくふかんれんいせき）	富山県高岡市（とやまけんたかおかし） 伏木古府（ふしきこふ）	016202	202013	36° 47′ 29″	137° 03′ 16″	120725 ～ 120907	201㎡	個人専用 住宅建設
その他の遺跡 各調査地区	富山県高岡市（とやまけんたかおかし）	016202				120409 ～ 130324		個人専用 住宅建設等

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
越中国府関連遺跡	官衙	古代 ～ 中世	掘立柱建物址　４棟 土坑　20基 柱穴　105基 溝状遺構　２条	古墳須恵器 古代須恵器・土師器 緑釉陶器、灰釉陶器 古代瓦、中世土師器 青磁、白磁	奈良～平安時代の 大型掘立柱建物 高級陶器・陶硯等 官衙系遺物の出土

高岡市埋蔵文化財調査概報第75冊

市内遺跡調査概報24

編集・発行　高岡市教育委員会
〒933－8601　富山県高岡市広小路７番50号
TEL　0766－20－1463

2015年３月24日

印刷所　キクラ印刷株式会社
〒933－0322　富山県高岡市樋詰48－２
TEL　0766－31－2794